

## 第4章 都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況(地域特性)

「事業実施区域及びその周囲」(以下、「調査区域」といいます。)とは、環境要素に係る環境影響を受ける恐れがある地域と考えられる都市計画対象道路事業実施区域から概ね片側約3km(環境項目の中で、地域特性の把握範囲が最も広い景観項目の範囲

「道路環境影響評価の技術手法(平成24年度版)(平成25年3月、国土交通省国土技術政策総合研究所)」を参考に設定しました。)を含む図4-1の範囲とし、地域特性を把握する範囲としました。

なお、統計資料等の行政単位による文献調査の場合は、「調査区域に含まれる静岡県浜松市及び湖西市」(以下、「調査区域内の市町」といいます。)で行いました。

これらの調査区域内の市町は、表4-1に示すとおりです。

また、地域特性の把握における文献調査は、令和8年3月末時点の情報をもとに行いました。

表4-1 調査区域内の市町

県名	市町名
静岡県	浜松市
	湖西市
計	2市

愛知県側の事業実施区域及びその周囲の状況については、愛知県区間の準備書を参照してください。

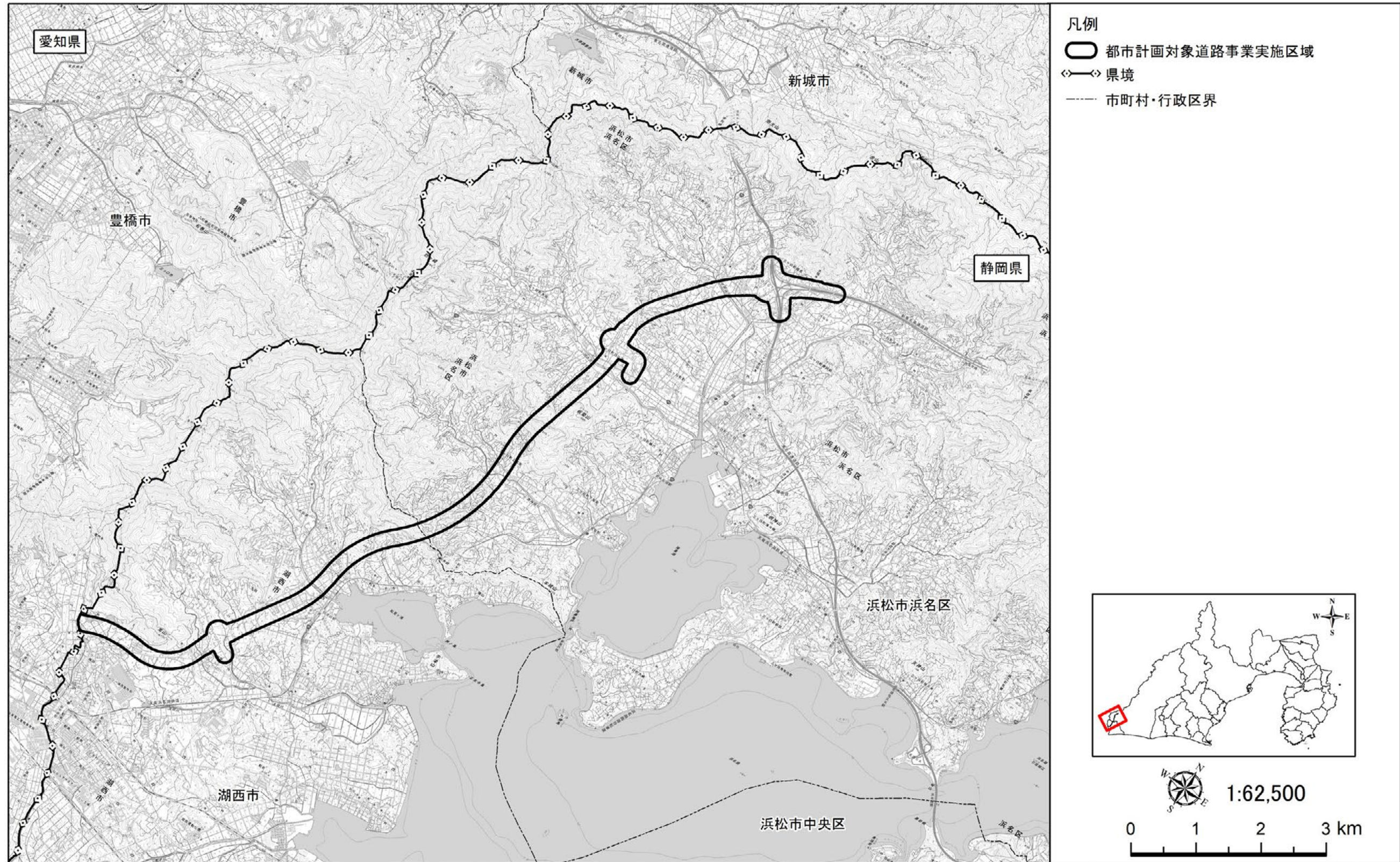


図 4-1 事業実施区域及びその周囲

## 第1節 自然的状況

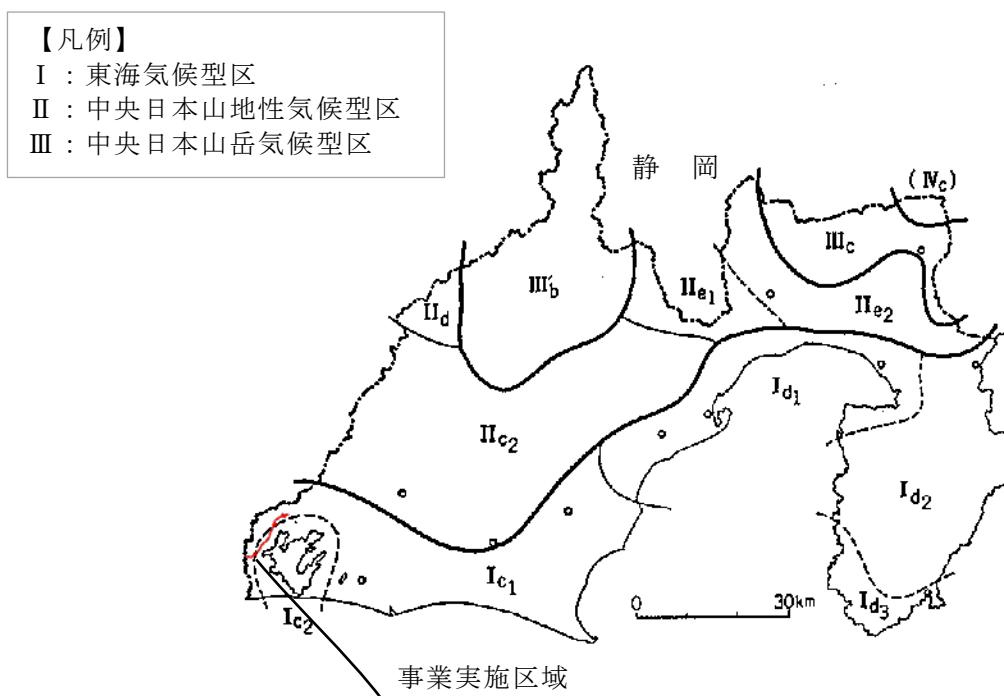
### 1.1. 気象、大気質、騒音、振動その他の大気に係る環境の状況

#### (1) 気象の状況

##### 1) 気象の概況

「日本地誌第11巻 長野県・山梨県・静岡県」(昭和47年2月、日本地誌研究所)によると、調査区域は図4-1-1に示すとおり、東海気候型区の東海気候地域(I<sub>c1</sub>)に属し、浜名湖とその周辺地域は(I<sub>c2</sub>)に属するとされています。東海気候地域(I<sub>c1</sub>)は、静岡県に特色のある気候地域で、冬季は温暖、夏季はかなり高温になります。海岸部は冬季に西寄りの風が卓越します。

浜名湖とその周辺地域(I<sub>c2</sub>)は、年間を通じて気温が高くなる傾向があります。冬季は浜名湖の影響で暖かく、夏季は豊橋平野の高温域に連続した東端地域として高温になります。



<事業実施区域の気候による地域区分>

I<sub>c1</sub>: 東海気候地域。もともと静岡県の特色ある気候地域で、冬は温暖、夏はかなり高温になる。海岸部は冬に西風が強い。

I<sub>c2</sub>: 浜名湖とその周辺地域で、年間を通じて気温が高い。冬は湖の影響で暖かく、夏は豊橋平野の高温域に連続した東端地域として高温である。

図4-1-1 静岡県の気候区分

出典) 「日本地誌第11巻 長野県・山梨県・静岡県」(昭和47年、日本地誌研究所)

## 2) 気象の状況

調査区域では、静岡県に位置する三ヶ日地域雨量観測所（浜松市）において、降水量の観測が行われています。観測所の位置は図 4-1-3 に示すとおりです。また、調査区域外に位置する浜松特別地域気象観測所では平均気温、降水量、日照時間、風向・風速等の気象観測が行われています。

三ヶ日地域雨量観測所及び浜松特別地域気象観測所における過去 10 年間の気象の概況は表 4-1-1 に、過去 10 年間の月別気象概況は表 4-1-2(1)～(2)及び図 4-1-2 に示すとおりです。

三ヶ日地域雨量観測所の年間の総降水量は 1,334.5～2,573.5mm となっています。また、浜松特別地域気象観測所の年間の平均気温は 16.5～18.4℃、年間の総降水量は 1,394.0～2,996.0mm、年間の日照時間は 2,243.5～2,509.1 時間、年間の平均風速は 3.4～3.6m/s、年間の最多風向は西北西となっています。

また、気温は 6～9 月、降水量は 6～9 月、平均風速は 12～4 月、日照時間は 12 月～5 月、8 月に卓越する傾向があります。

表 4-1-1 三ヶ日地域雨量観測所及び浜松特別地域気象観測所における気象概況  
(平成 28 年～令和 7 年)

項目 年	平均気温 (℃)	総降水量(mm)		日照時間 (h)	平均風速 (m/s)	最多風向
		三ヶ日	浜松			
平成 28 年	17.5	1,945.5	2,050.5	2,243.5	3.4	西北西
平成 29 年	16.5	1,690.5	1,771.0	2,368.7	3.6	西北西
平成 30 年	17.4	2,273.0	2,153.5	2,362.6	3.6	西北西
令和元年	17.5	1,910.5	2,143.0	2,246.1	3.5	西北西
令和 2 年	17.5	2,249.5	2,244.5	2,317.9	3.5	西北西
令和 3 年	17.4	2,360.5	2,330.0	2,327.7	3.6	西北西
令和 4 年	17.2	2,176.0	2,392.5	2,345.1	3.5	西北西
令和 5 年	17.9	2,369.5	2,363.5	2,509.1	3.4	西北西
令和 6 年	18.4	2,573.5	2,996.0	2,312.7	3.4	西北西
令和 7 年	17.8	1,334.5	1,394.0	2,377.8	3.5	西北西
平均	17.4	2,172.9	2,296.7	2,319.0	3.5	西北西

注1) 「三ヶ日」は三ヶ日地域雨量観測所、「浜松」は浜松特別地域気象観測所の観測結果を示します。  
注2) 平均気温、日照時間、平均風速、最多風向は、浜松特別地域気象観測所の観測結果を示します。  
出典) 「気象統計情報」(気象庁ホームページ)

表 4-1-2(1) 月別気象概況（三ヶ日雨量観測所：平成28年～令和7年）

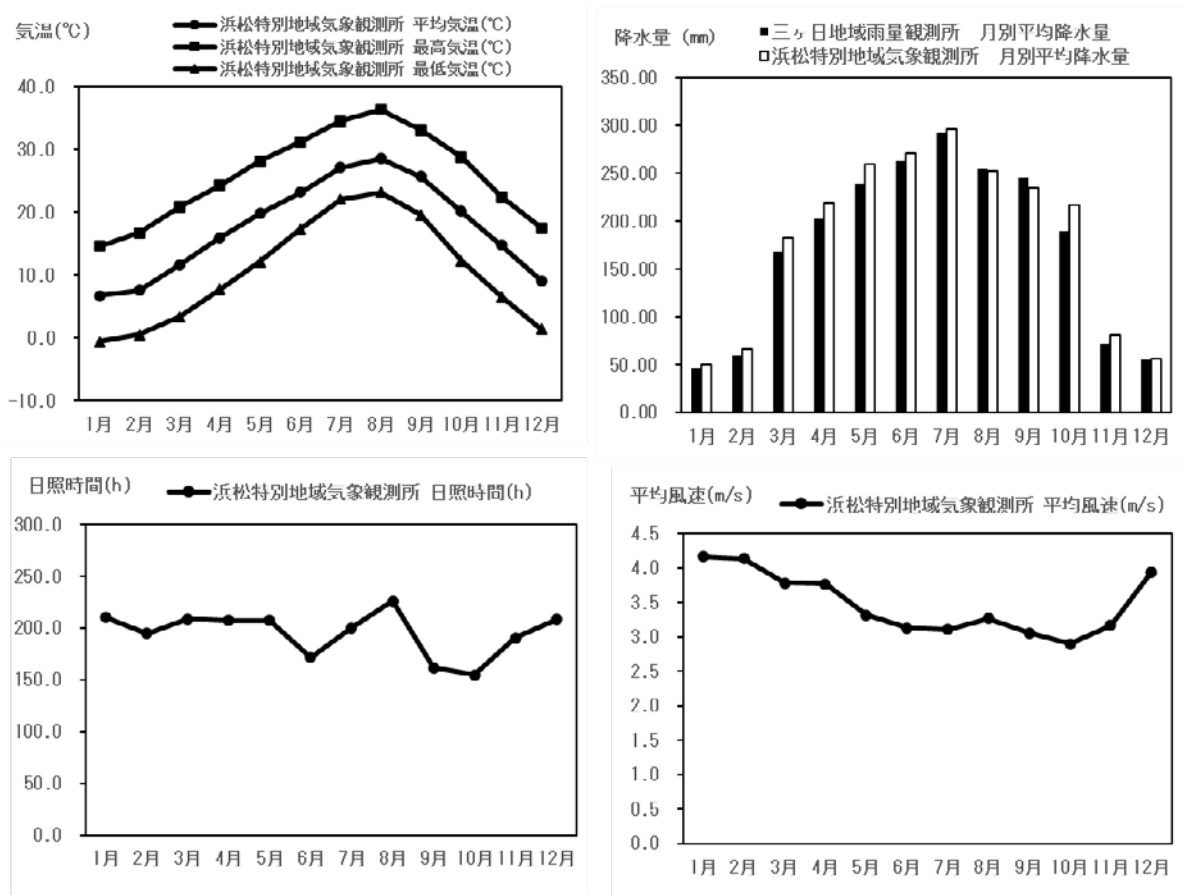
月	項目	降水量 (mm)	
		合計	日最大
1月		47.0	25.4
2月		59.7	26.1
3月		168.2	53.9
4月		202.8	65.5
5月		238.9	70.3
6月		263.0	116.9
7月		292.1	97.2
8月		254.5	69.2
9月		244.9	74.3
10月		189.4	62.2
11月		72.0	30.9
12月		56.2	25.2

注1) 降水量は月合計降水量の10年間平均値を示します。  
出典) 「気象統計情報」(気象庁ホームページ)

表 4-1-2(2) 月別気象概況（浜松特別地域気象観測所：平成28年～令和7年）

月	項目	気温(°C)			降水量(mm)		風向・風速(m/s)		日照時間(h)
		平均	最高	最低	合計	日最大	最多風向	平均風速	
1月		6.7	14.6	-0.6	50.2	27.3	西北西	4.2	210.2
2月		7.6	16.7	0.6	66.5	26.8	西北西	4.1	194.7
3月		11.6	20.9	3.4	182.5	58.2	西北西	3.8	208.9
4月		15.9	24.3	7.8	218.5	69.3	西北西	3.8	207.3
5月		19.8	28.1	12.2	259.0	75.4	北東	3.3	207.4
6月		23.1	31.2	17.4	270.7	113.9	西南西	3.1	171.6
7月		27.1	34.5	22.0	295.9	89.8	西南西	3.1	200.0
8月		28.6	36.3	23.2	252.4	56.4	西南西	3.3	226.3
9月		25.7	33.0	19.6	233.9	84.1	東北東	3.1	161.4
10月		20.2	28.8	12.3	216.6	69.7	北東	2.9	154.8
11月		14.7	22.4	6.6	81.6	29.0	西北西	3.2	190.4
12月		9.1	17.5	1.4	56.5	23.7	西北西	3.9	208.3

注1) 気温は月最高気温、月最低気温の10年間平均値を示します。  
注2) 降水量は月合計降水量の10年間平均値を示します。  
注3) 最多風向は10年間における当該月の最多となる風向を示します。  
注4) 平均風速は月平均風速の10年間平均値を示します。  
注5) 日照時間は月合計時間の10年間平均値を示します。  
出典) 「気象統計情報」(気象庁ホームページ)



出典) 「気象統計情報」(気象庁ホームページ)

図 4-1-2 三ヶ日地域雨量観測所及び浜松特別地域気象観測所における気象概況 (平成 28 年～令和 7 年)

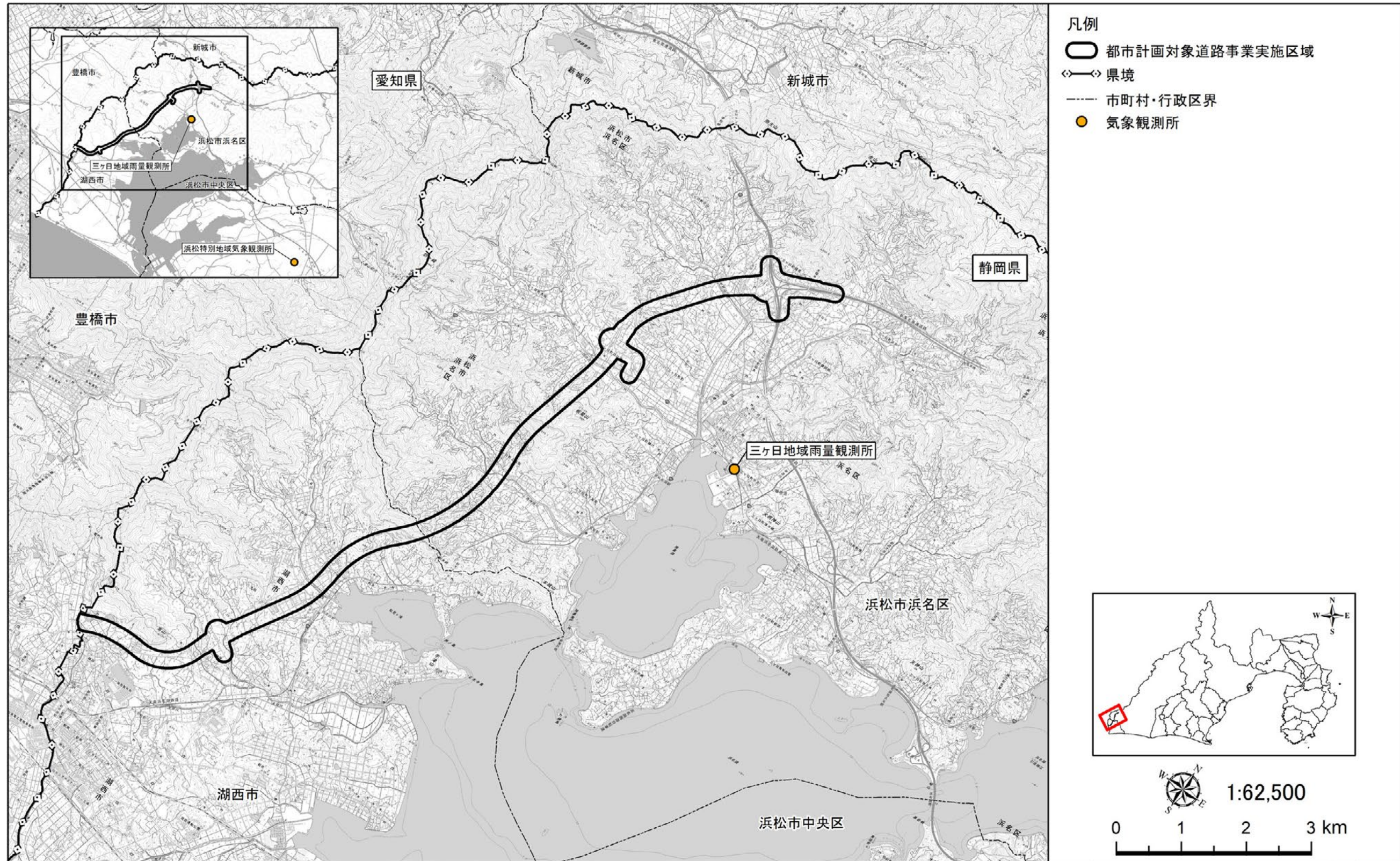


図 4-1-3 気象観測所位置図

## (2) 大気質の状況

## 1) 測定局の状況

調査区域に位置する令和6年度の大気汚染常時監視測定局及び測定項目は、表4-1-3及び図4-1-4に示すとおりです。調査区域及びその周辺には、一般環境大気測定局（一般局）は2局存在します。自動車排出ガス測定局（自排局）は、調査地域内には存在しません。

表4-1-3 一般局、自排局及び測定項目（令和6年度）

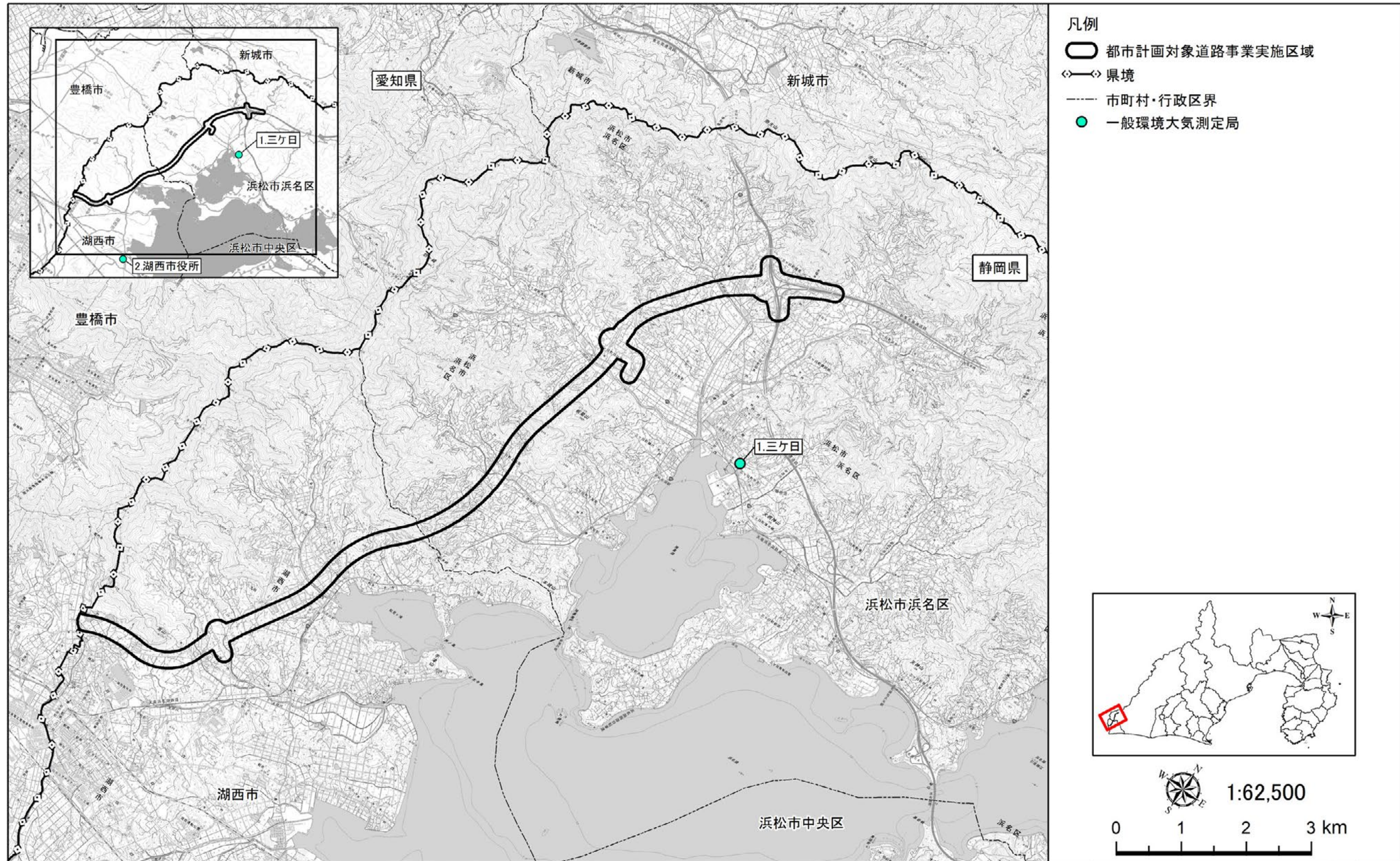
No	測定局	所在地	測定項目								管理主体	種別	
			二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	一酸化炭素	微小粒子状物質	有害大気汚染物質	ダイオキシン類			
1	三ヶ日	浜松市浜名区 三ヶ日町三ヶ日 500番地の1		○	○	○			○			浜松市	一般局
2	湖西市役所	湖西市吉美 3268	○	○	○	○			○			静岡県	

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 「○」は当該測定局において当該項目の測定を行っていることを示します。

出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和6年度浜松市の環境測定結果」（令和7年8月、浜松市環境部環境保全課）



出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

図 4-1-4 大気質測定箇所

## 2) 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

令和6年度の測定結果は表4-1-4に、過去5年間（令和2年～令和6年度）の経年変化は、表4-1-5及び図4-1-5に示すとおりです。

令和6年度において1時間値が0.1ppmを超過した時間はなく、また1日平均値の2%除外値は0.002ppmとなっており、環境基準を達成しています。

過去5年間の1日平均値の2%除外値は、横ばい傾向にあります。

表4-1-4 二酸化硫黄の測定結果（令和6年度）

No.	種別	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数	日平均値が0.04ppmを超えた日数	環境基準との比較(短期的)	1日平均値の2%除外値	1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準との比較(長期的)
			日	時間	ppm	時間	日	達成・非達成	ppm	達成・非達成	
1	一般局	三ヶ日	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2		湖西市役所	-	6,000以上	0.000	-	-	-	0.002	無	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であることです。

注3) 環境基準との比較は、以下に示します評価によります。(○：達成 ×：非達成)

短期的評価：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

長期的評価：1日平均値の年間2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続しないこと。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-5 二酸化硫黄の経年変化（1日平均値の2%除外値）

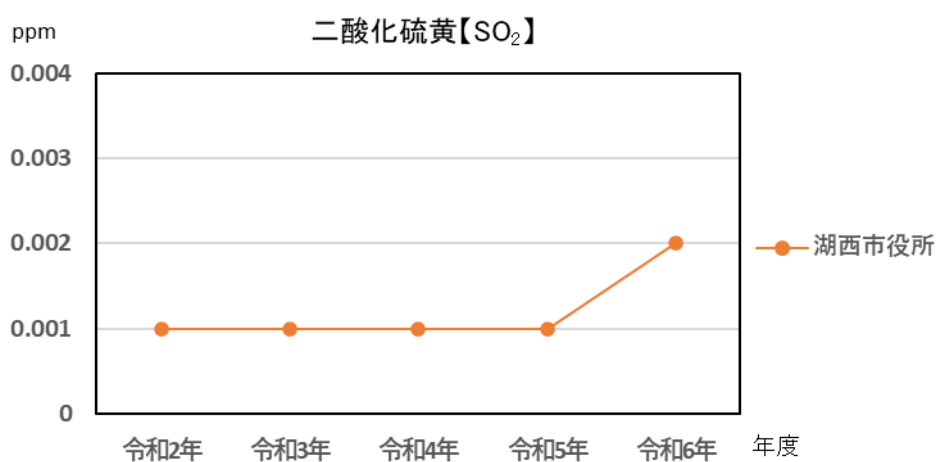
[単位：ppm]

No.	測定局	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	三ヶ日	-	-	-	-	-
2	湖西市役所	0.001	0.001	0.001	0.001	0.002

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示します。

出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)



出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-5 二酸化硫黄の経年変化（1日平均値の2%除外値）

3) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

令和6年度の測定結果は表4-1-6に、過去5年間(令和2年～令和6年度)の経年変化は、表4-1-7及び図4-1-6に示すとおりです。

令和6年度における1日平均値の年間98%値は三ヶ日測定局が0.009ppm、湖西市役所測定局が0.012ppmとなっており、環境基準を達成しています。過去5年間の1日平均値の年間98%値は、概ね横ばい傾向にあります。

表4-1-6 二酸化窒素の測定結果(令和6年度)

No.	種別	測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値の最高値	1日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数	1日平均値の年間98%値	環境基準との比較
			日	時間	ppm	ppm	日	ppm	達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	6,000以上	0.004	-	-	0.009	○
2		湖西市役所	-	6,000以上	0.005	-	-	0.012	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であることです。

注3) 環境基準との比較は、以下に示します評価によります。(○:達成 ×:非達成)

長期的評価:1日平均値の年間98%値が0.06ppmを超えないこと。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

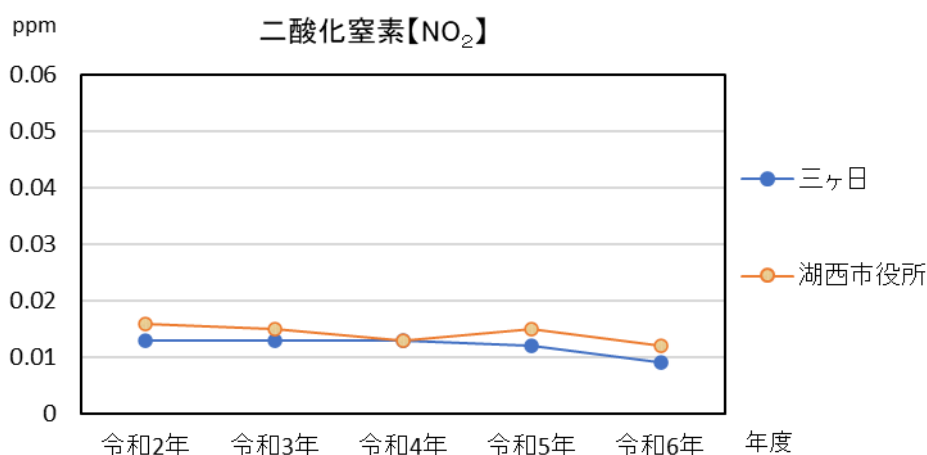
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-7 二酸化窒素の経年変化（1日平均値の年間98%値）

No.	測定局	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	三ヶ日	0.013	0.013	0.013	0.012	0.009
2	湖西市役所	0.016	0.015	0.013	0.015	0.012

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)



出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-6 二酸化窒素の経年変化（1日平均値の年間98%値）

#### 4) 浮遊粒子状物質 (SPM)

令和6年度の測定結果は表4-1-8に、過去5年間(令和2年～令和6年度)の経年変化は表4-1-9及び「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図4-1-7に示すとおりです

令和6年度において1時間値が0.20mg/m<sup>3</sup>を超過した時間及び1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>を超えた日はなく、1日平均値の2%除外値は三ヶ日測定局が0.025mg/m<sup>3</sup>、湖西市役所測定局が0.028mg/m<sup>3</sup>となっており、環境基準を達成しています。

過去5年間の1日平均値の2%除外値は、横ばい傾向にあります。

表4-1-8 浮遊粒子状物質の測定結果(令和6年度)

No.	種別	測定局	有効測定日数	測定時間	年度平均値	1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数	1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数	環境基準との比較(短期的)	日平均値の2%除外値	1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準との比較(長期的)
			日	時間	mg/m <sup>3</sup>	時間	日	達成・非達成	mg/m <sup>3</sup>	達成・非達成	
1	一般局	三ヶ日	-	6,000以上	0.011	-	-	-	0.025	-	○
2		湖西市役所	-	6,000以上	0.012	-	-	-	0.028	-	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 環境基準は、1時間値の1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m<sup>3</sup>以下であることです。

注3) 環境基準との比較は、以下に示します評価によります。(○：達成 ×：非達成)

短期的評価：1時間値の1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下あり、かつ、1時間値が0.20mg/m<sup>3</sup>以下であること。

長期的評価：1日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m<sup>3</sup>以下であること。ただし、1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>を超えた日が2日以上連続しないこと。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

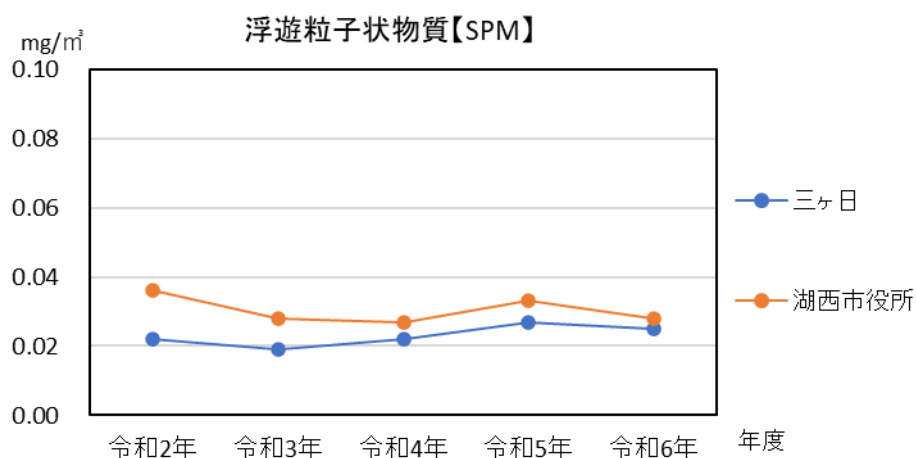
表 4-1-9 浮遊粒子状物質の経年変化（1日平均値の2%除外値）

[単位：mg/m<sup>3</sup>]

No.	測定局	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	三ヶ日	0.022	0.019	0.022	0.027	0.025
2	湖西市役所	0.036	0.028	0.027	0.033	0.028

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)



出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-7 浮遊粒子状物質の経年変化（1日平均値の2%除外値）

### 5) 光化学オキシダント (Ox)

令和6年度の測定結果は表4-1-10に、過去5年間(令和2年～令和6年度)の経年変化は表4-1-11及び図4-1-8に示すとおりです。

令和6年度における昼間の1時間値の最高値は0.114ppmであり、環境基準を達成していません。過去5年間の昼間の1時間値の最高値は、概ね横ばい傾向にあります。

表4-1-10 光化学オキシダントの測定結果(令和6年度)

No.	種別	測定局	昼間測定日数	昼間測定時間	昼間年度 平均値	昼間の 1時間 値が 0.06ppm を超えた 時間数	昼間の 1時間 値が 0.06ppm を超えた 日数	昼間の 1時間 値が 0.12ppm 以上の 時間数	昼間の 1時間 値が 0.12ppm 以上の 日数	昼間の 1時間 値の 最高値	環境基準 との比較
			日	時間	ppm	時間	日	時間	日	ppm	達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	6,000 以上	-	-	111	-	0	0.114	×
2		湖西市役所	-	6,000 以上	-	-	88	-	0	-	×

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 環境基準は1時間値が0.06ppm以下であることです。

注3) 環境基準との比較は、以下に示します評価によります。(○:達成 ×:非達成)

短期的評価: 昼間(5時から20時まで)の1時間値が0.06ppm以下であること。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-11 光化学オキシダントの経年変化（昼間の1時間値の最高値）

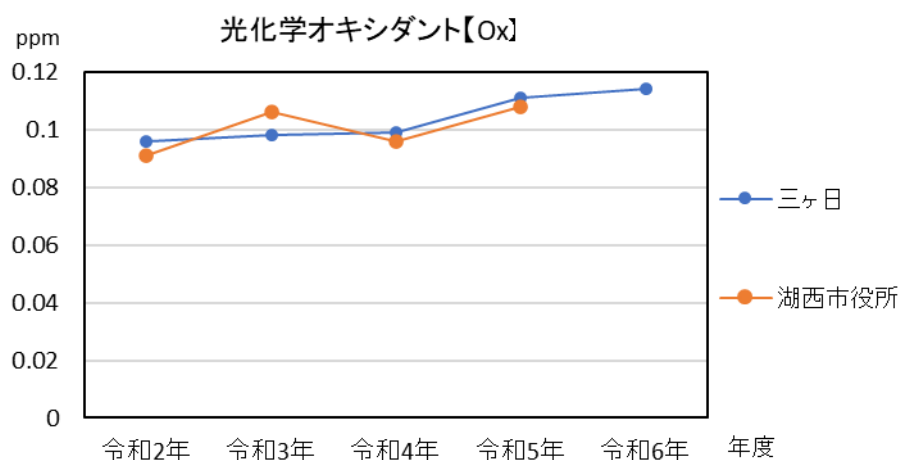
[単位：ppm]

No.	測定局	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	三ヶ日	0.096	0.098	0.099	0.111	0.114
2	湖西市役所	0.091	0.106	0.096	-	-

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 表中の「-」は、データが公表されていないことを示します。

出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)



出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

図 4-1-8 光化学オキシダントの経年変化（昼間の1時間値の最高値）

## 6) 一酸化炭素 (CO)

調査区域において、一酸化炭素に関する測定は行われていません。

## 7) 微小粒子状物質 (PM2.5)

令和6年度の測定結果は表4-1-12に、過去5年間(令和2年～令和6年度)の経年変化は表4-1-13及び図4-1-9に示すとおりです。

令和6年度における1日平均値の年間98%値は三ヶ日測定局が20.2  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、湖西市役所測定局が24.2  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、年平均値は三ヶ日測定局が7.7  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、湖西市役所測定局が8.1  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、環境基準を達成しています。過去5年間の年平均値は、概ね減少もしくは横ばい傾向にあります。

表4-1-12 微小粒子状物質の測定結果(令和6年度)

No.	種別	測定局	有効測定日数	1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数	1日平均値の年間98%値	環境基準との比較(短期基準)	年平均値	環境基準との比較(長期基準)
			日	日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	達成・非達成	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	達成・非達成
1	一般局	三ヶ日	-	-	20.2	○	7.7	○
2		湖西市役所	-	-	24.2	○	8.1	○

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

注2) 環境基準は1年平均値が15  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が35  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることです。

注3) 環境基準との比較は、以下に示します評価によります。(達成:○ 非達成:×)

長期的評価:

(短期基準)年間における1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもの(1日平均値の年間98%値)が35  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

(長期基準)1年平均値が15  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないもしくはデータが公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

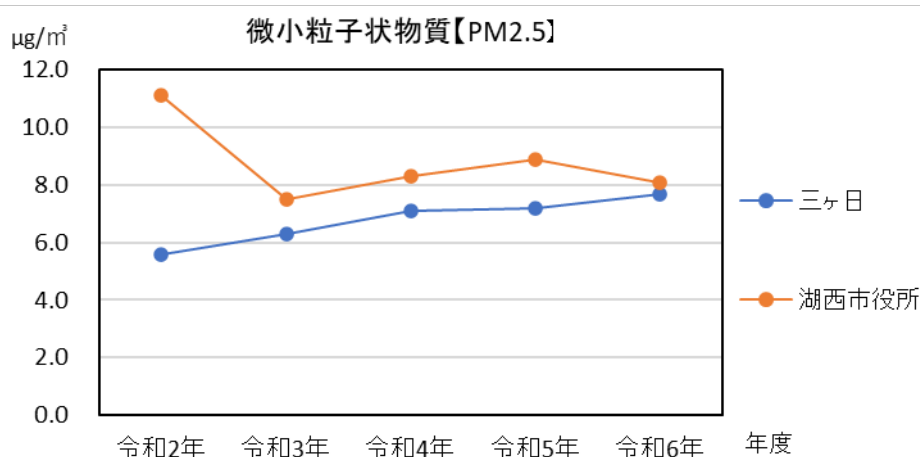
表 4-1-13 微小粒子状物質の経年変化（年平均値）

[単位：μg/m<sup>3</sup>]

No.	測定局	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	三ヶ日	5.6	6.3	7.1	7.2	7.7
2	湖西市役所	11.1	7.5	8.3	8.9	8.1

注1) 地点番号は図4-1-4に対応します。

出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)



出典) 「環境展望台 大気汚染常時監視データ」(国立環境研究所 環境情報メディアホームページ)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-9 微小粒子状物質の経年変化（年平均値）

### 8) 有害大気汚染物質

調査区域において、有害大気汚染物質に関する測定は行われていません。

### 9) ダイオキシン類

調査区域において、ダイオキシン類に関する測定は行われていません。

**(3) 騒音の状況****1) 一般環境騒音**

調査区域における、一般環境騒音の測定結果は表 4-1-14 に示すとおりです。  
調査結果は環境基準を達成しています。

**表 4-1-14 一般環境騒音測定結果（令和2年度）**

No.	市	測定地点	地域 類型	時間 区分	測定値 (dB)	環境 基準 (dB)	環境基準との 比較
							達成・非達成
1	浜松市	三ヶ日浄化センター	B	昼間	44	55	○
				夜間	40	45	○

注1) 地点番号は図4-1-10に対応します。

注2) 令和3～6年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和2年度の測定結果を示します。

注3) 地域類型A：専ら住居の用に供される地域

地域類型B：主として住居の用に供される地域

地域類型C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

注4) 測定値は昼間2時間帯の測定結果のうち、値の高い方を記載しています。

注5) 環境基準との比較 [達成：○ 非達成：×]

出典) 「令和2年度環境騒音測定結果(一般地域)」(浜松市ホームページ)

**2) 道路交通騒音**

調査区域における道路交通騒音の測定結果は表 4-1-15 に示すとおりです。  
測定を実施しているすべての地点で環境基準を下回っています。

**表 4-1-15 道路交通騒音調査（令和5年度）**

No.	市	道路名	測定地点	時間 区分	測定値 (dB)	環境基準と の比較
2	湖西市	3号豊橋湖西線	岡崎	昼間	65	○
				夜間	59	○

注1) 地点番号は図4-1-10に対応します。

注2) 令和6年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和5年度の測定結果を示します。

注3) 環境基準との比較は、「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月30日環境庁告示第64号、最終改正：令和2年3月30日号外 環境省告示第35号)に基づく「幹線交通を担う道路に近接する空間」における基準値(昼間70dB以下、夜間65dB以下)により評価します。(○：超過していない  
×：超過している)

注4) 昼間：6～22時、夜間：22～6時

出典) 「令和5年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和6年8月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

**(4) 振動の状況**

**1) 一般環境振動**

調査区域において、一般環境振動の測定は行われていません。

**2) 道路交通振動**

調査区域において、道路交通振動の測定は行われていません。

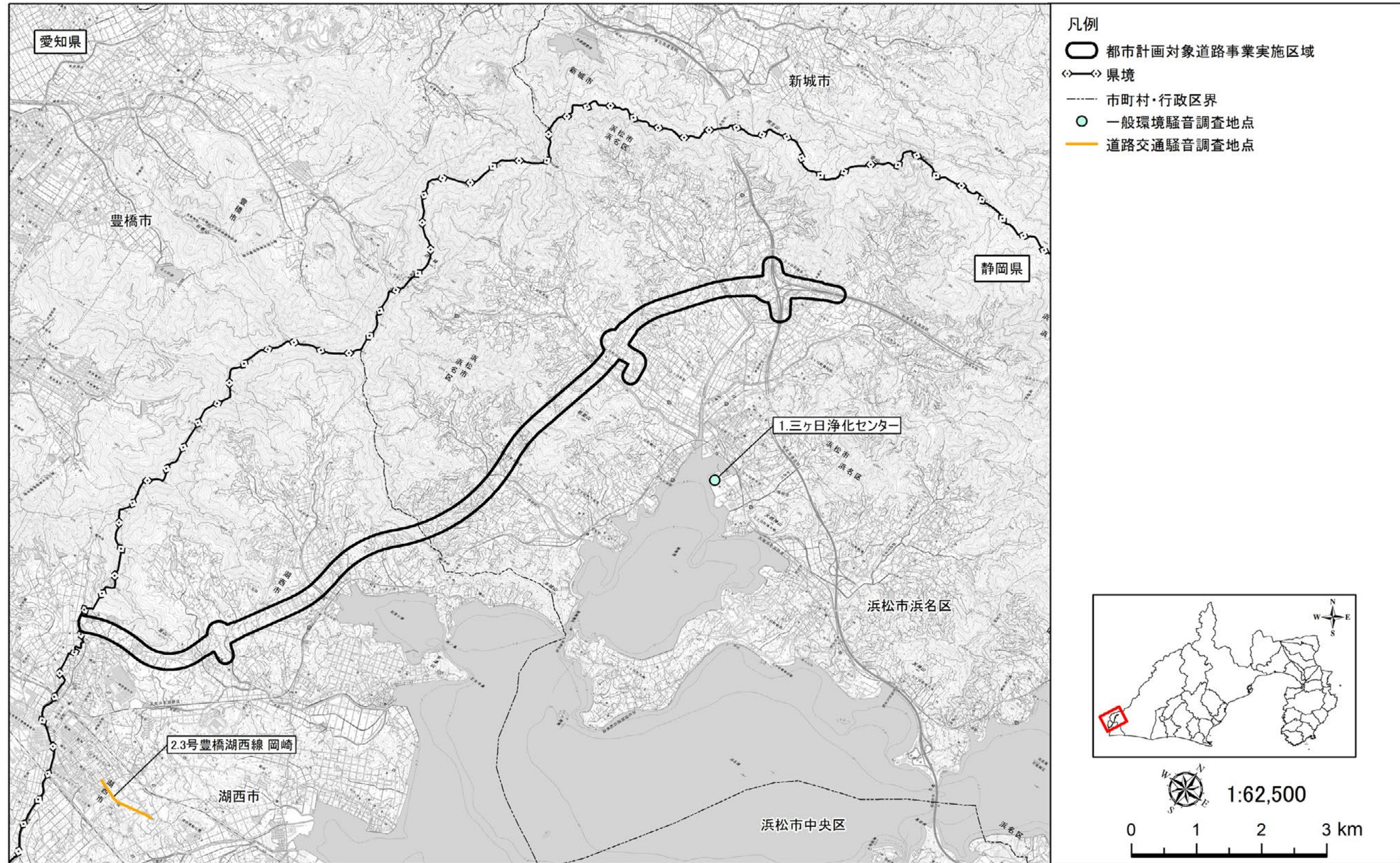
**(5) その他の大気の状態**

**1) 低周波音**

調査区域において、低周波音の測定は行われていません。

**2) 悪臭**

調査区域において、悪臭に関する測定は行われていません。



注1) No. 2の3号豊橋湖西線岡崎の地点は、詳細な測定位置が不明であるため、該当する区間を図示します。  
 出典) 「令和2年度浜松市環境騒音測定結果(一般地域)」(浜松市ホームページ)  
 「令和5年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和6年8月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-10 騒音・振動測定地点位置図

## 1.2. 水象、水質、水底の底質その他の水に係る環境の状況

## (1) 水象の概況

調査区域における主な河川は表 4-1-16 及び図 4-1-11 に示すとおりであり、都田川水系の河川が浜名湖に、梅田川水系の河川が三河湾に向かって流下しています。主要な河川として、宇利山川、日比沢川、西神田川、今川、入出太田川等があります。また、調査区域における海域としては、浜名湖があります。

各水系の概要は、表 4-1-17 に示すとおりです。

表 4-1-16 河川一覧

No.	水系	河川名	延長 (km)	等級
1	都田川水系	都筑大谷川	3.72	二級河川
2		宇志川	1.12	二級河川
3		川名宮川	2.05	二級河川
4		釣橋川	5.77	二級河川
5		平山川	3.05	二級河川
6		宇利山川	3.35	二級河川
7		日比沢川	4.42	二級河川
8		南川	1.35	二級河川
9		西神田川	3.12	二級河川
10		今川	3.73	二級河川
11		入出太田川	3.10	二級河川
12		笠子川	3.02	二級河川
13		坊瀬川	2.80	二級河川
14	梅田川水系	梅田川	14.40	二級河川

注1) 地点番号は図4-1-11に対応します。

出典) 「国土数値情報 河川データ (平成20年度版)」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)

「都田川水系河川整備計画」(平成 28 年 6 月、静岡県・浜松市)

「二級河川梅田川水系河川整備計画」(令和元年 5 月 17 日、愛知県・静岡県)

表 4-1-17 水系の概要

水系	区分	水系の位置	河川延長	流域面積	下流部の 川幅
都田川	二級河川	都田川水系は、静岡県西部に位置し、都田川や新川等の浜名湖に流入する河川と浜名湖及び猪鼻湖や松見ヶ浦等の支湖から成り、今切口から遠州灘に注ぐ。	166km	524km <sup>2</sup>	200m (今切口)
梅田川	二級河川	梅田川は、愛知県豊橋市雲谷町地先に源を発し、愛知県と静岡県の県境を南に流下し、途中、境川、精進川、落合川、坪口川、浜田川、西ノ川、内張川を合流し、三河湾に注ぐ。	14.4km	89km <sup>2</sup>	約 80～200m

出典) 「都田川水系河川整備計画」(平成28年6月、静岡県・浜松市)

「二級河川梅田川水系河川整備計画」(令和元年5月17日、愛知県・静岡県)

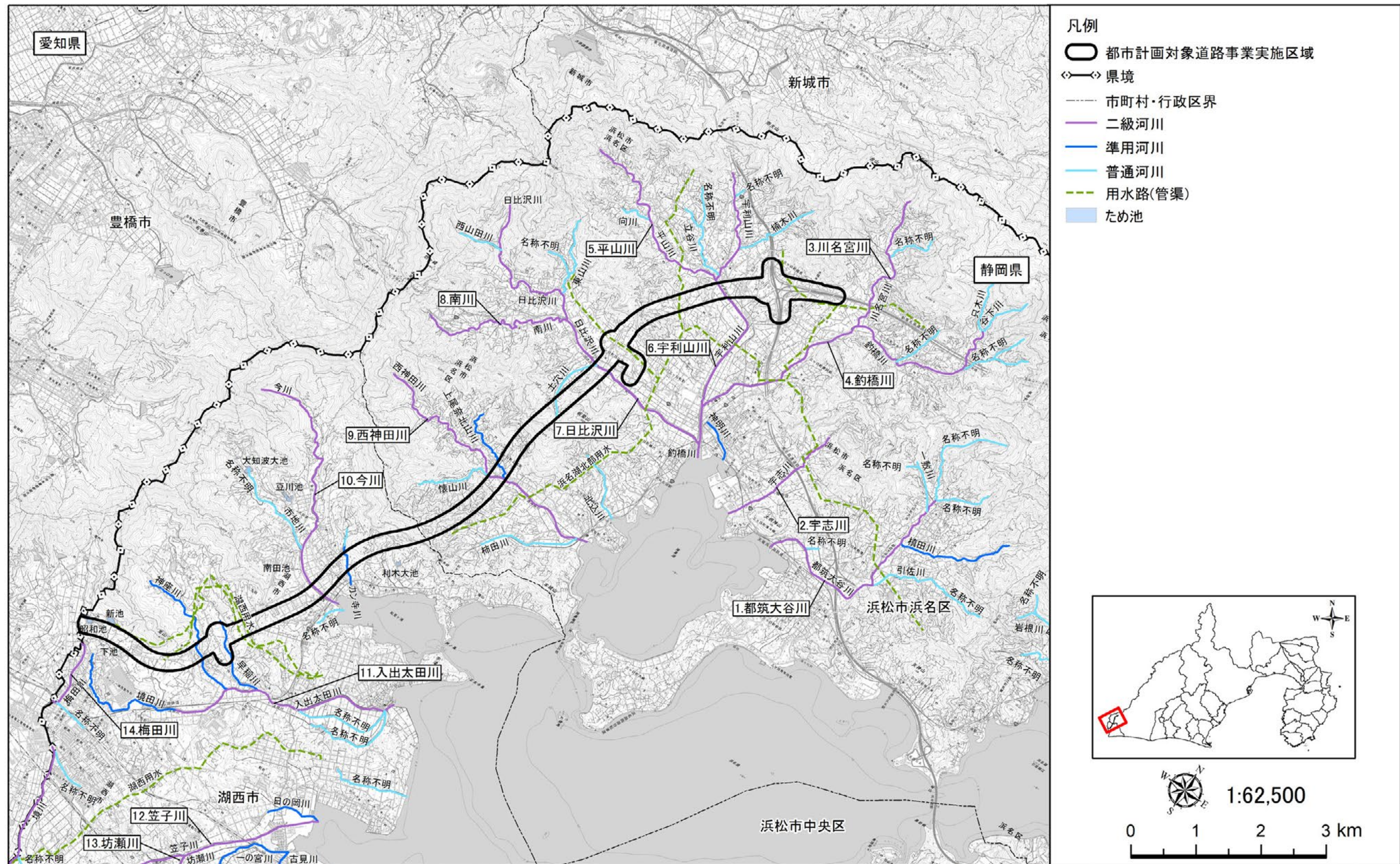


図 4-1-11 河川位置図

(2) 水質の状況

1) 河川

① 生活環境項目

調査区域における令和6年度の公共用水域水質（生活環境項目）測定地点は図4-1-12に、調査結果は表4-1-18(1)～(3)に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は、表4-1-19(1)～(4)、表4-1-20(1)～(3)、表4-1-21(1)～(2)に示すとおりです。

調査区域の河川には、水域の類型区分の指定はなされていませんが、参考として各類型区分の環境基準値を示しました。なお、大腸菌数は調査区域の河川では調査されていません。

表 4-1-18(1) 水質（河川・生活環境項目）測定結果（令和6年度）

No	水域名	測定地点	類型 (河川)	pH	DO	BOD	SS	大腸菌数
					(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	(CFU/100mL)
1	都筑大谷川	末端		7.4～8.2	9.3	1.4	2	-
2	宇志川	東宇志橋		7.4～7.9	8.8	1.2	3	-
3	神明川	栄橋		7.4～8.2	7.8	3.2	3	-
4	宇利山川	宇利山川橋		7.4～8.3	9.3	1.0	2	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川		7.4～8.2	9.8	0.6	2	-
6	釣橋川	三代橋		7.4～7.9	8.6	1.1	2	-
7	西神田川	堀切橋		7.3～8.1	9.9	2.9	1	-
8	今川	末端		7.2～8.0	9.6	0.8	2	-
9	入出太田川	末端		7.4～7.9	9.8	0.7	5	-
10	笠子川	末端		7.4～7.9	8.9	2.0	7	-
11	梅田川	末端		7.2～7.5	8.3	3.2	7	-
環境基準			AA	6.5～8.5	7.5以上	1.0以下	25以下	20以下
			A	6.5～8.5	7.5以上	2.0以下	25以下	300以下
			B	6.5～8.5	5.0以上	3.0以下	25以下	1,000以下
			C	6.5～8.5	5.0以上	5.0以下	50以下	-
			D	6.0～8.5	2.0以上	8.0以下	100以下	-
			E	6.0～8.5	2.0以上	10.0以下	ゴミ等の浮遊が認められないこと。	-

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) pHは最小～最大、BODは年間75%値、大腸菌数は90%水質値、その他の項目は年平均値を示します。

注3) 類型欄に斜線で示した河川は、環境基準の類型指定がされていません。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-18(2) 水質(河川・水生生物の保全に係る環境基準項目)測定結果(令和6年度)

No	水域名	測定地点	類型 (河川)	全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩 (LAS)
				(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)
1	都筑大谷川	末端		0.003	-	-
2	宇志川	東宇志橋		0.003	-	-
3	神明川	栄橋		-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋		-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川		-	-	-
6	釣橋川	三代橋		0.002	-	-
7	西神田川	堀切橋		0.003	-	-
8	今川	末端		-	-	<0.0006
9	入出太田川	末端		-	-	0.0017
10	笠子川	末端		-	-	0.0022
11	梅田川	末端		0.011	<0.00006	0.0054
環境基準			生物 A	0.03 以下	0.0010 以下	0.03 以下
			生物特 A	0.03 以下	0.0006 以下	0.02 以下
			生物 B	0.03 以下	0.0020 以下	0.05 以下
			生物特 B	0.03 以下	0.0020 以下	0.04 以下

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 類型欄に斜線で示した河川は、環境基準の類型指定がされていないことを示します。

注4) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注5) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「公共用水域の水質測定結果(令和6年度)」(浜松市ホームページ)

表 4-1-18(3) 水質(河川・全窒素・全磷)測定結果(令和6年度)(年平均値)

No.	水域名	測定地点	全窒素	全磷
			(mg/L)	(mg/L)
1	都筑大谷川	末端	2.7	0.11
2	宇志川	東宇志橋	2.0	0.074
3	神明川	栄橋	4.1	0.60
4	宇利山川	宇利山川橋	3.5	0.092
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	2.9	0.049
6	釣橋川	三代橋	2.2	0.067
7	西神田川	堀切橋	2.6	0.071
8	今川	末端	0.9	0.026
9	入出太田川	末端	2.9	0.14
10	笠子川	末端	4.3	0.38
11	梅田川	末端	4.8	0.77

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「公共用水域の水質測定結果(令和6年度)」(浜松市ホームページ)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-19(1) 水質(河川・生活環境項目：pH)の経年変化(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	8.0	7.9	7.8	8.0	7.9
2	宇志川	東宇志橋	7.8	7.7	7.8	7.6	7.6
3	神明川	栄橋	7.9	7.9	8.0	7.7	7.8
4	宇利山川	宇利山川橋	8.0	8.1	8.3	8.1	8.0
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	8.0	8.1	8.3	8.1	8.0
6	釣橋川	三代橋	7.5	7.6	7.5	7.5	7.5
7	西神田川	堀切橋	7.6	7.8	8.0	7.9	7.8
8	今川	末端	7.3	7.1	7.3	7.5	7.6
9	入出太田川	末端	7.6	7.4	7.7	7.7	7.6
10	笠子川	末端	7.5	7.4	7.6	7.7	7.7
11	梅田川	末端	7.4	7.3	7.4	7.4	7.3

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(令和3年10月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-19(2) 水質(河川・生活環境項目:D0)の経年変化(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	9.2	9.8	8.9	10	9.3
2	宇志川	東宇志橋	8.8	9.9	9.0	9.1	8.8
3	神明川	栄橋	8.4	9.5	9.3	7.9	7.8
4	宇利山川	宇利山川橋	9.9	10.0	10.0	9.9	9.3
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	9.7	10.0	11.0	9.8	9.8
6	釣橋川	三代橋	8.0	9.2	8.3	8.5	8.6
7	西神田川	堀切橋	8.6	9.1	9.4	10	9.9
8	今川	末端	9.3	9.5	8.9	9.4	9.6
9	入出太田川	末端	9.9	9.4	11.0	9.7	9.8
10	笠子川	末端	8.6	8.0	8.6	8.7	8.9
11	梅田川	末端	8.8	8.8	8.5	8.0	8.3

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は mg/L です。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(令和3年10月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-19(3) 水質(河川・生活環境項目:BOD)の経年変化(年間75%値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	1.3	0.8	0.9	0.6	1.4
2	宇志川	東宇志橋	1.5	0.9	0.8	0.6	1.2
3	神明川	栄橋	3.8	2.2	2.2	2.3	3.2
4	宇利山川	宇利山川橋	1.1	0.9	0.6	0.7	1.0
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	0.8	0.5	0.7	0.5	0.6
6	釣橋川	三代橋	2.3	1.5	0.9	1.0	1.1
7	西神田川	堀切橋	2.2	3.8	0.7	2.4	2.9
8	今川	末端	0.6	0.6	0.5	0.9	0.8
9	入出太田川	末端	1.1	1.1	0.9	0.9	0.7
10	笠子川	末端	1.6	2.1	2.3	2.6	2.0
11	梅田川	末端	3.2	2.2	3.0	4.9	3.2

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年間75%値を示します。

注3) 単位はmg/Lです。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(令和3年10月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-19(4) 水質(河川・生活環境項目:SS)の経年変化(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	2	2	2	2	2
2	宇志川	東宇志橋	3	3	4	2	3
3	神明川	栄橋	5	2	3	2	3
4	宇利山川	宇利山川橋	4	2	2	1	2
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	3	1	1	1	2
6	釣橋川	三代橋	6	2	2	2	2
7	西神田川	堀切橋	3	1	1	1	1
8	今川	末端	3	1	2	2	2
9	入出太田川	末端	3	3	3	51	5
10	笠子川	末端	6	6	7	11	7
11	梅田川	末端	3	4	6	8	7

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は mg/L です。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(令和3年10月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-20(1) 水質(河川・水生生物の保全に係る環境基準項目：全亜鉛)の経年変化  
(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
1	都筑大谷川	末端	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003
2	宇志川	東宇志橋	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	0.008	0.007	0.002	0.002	0.002
7	西神田川	堀切橋	0.003	0.003	0.001	0.003	0.003
8	今川	末端	-	-	-	-	-
9	入出太田川	末端	-	-	-	-	-
10	笠子川	末端	-	-	-	-	-
11	梅田川	末端	0.018	0.018	0.013	0.014	0.011

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は mg/L です。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「公共用水域の水質測定結果(令和2年度～6年度)」(浜松市ホームページ)

表 4-1-20(2) 水質(河川・水生生物の保全に係る環境基準項目：ニルフェール)の  
経年変化(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
1	都筑大谷川	末端	-	-	-	-	-
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	-	-	-	-	-
7	西神田川	堀切橋	-	-	-	-	-
8	今川	末端	-	-	-	-	-
9	入出太田川	末端	-	-	-	-	-
10	笠子川	末端	-	-	-	-	-
11	梅田川	末端	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

注4) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注5) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-20(3) 水質(河川・水生生物の保全に係る環境基準項目: LAS)の経年変化  
(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	-	-	-	-	-
2	宇志川	東宇志橋	-	-	-	-	-
3	神明川	栄橋	-	-	-	-	-
4	宇利山川	宇利山川橋	-	-	-	-	-
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	-	-	-	-	-
6	釣橋川	三代橋	-	-	-	-	-
7	西神田川	堀切橋	-	-	-	-	-
8	今川	末端	0.0006	<0.0006	0.0009	0.0025	<0.0006
9	入出太田川	末端	0.0100	0.0050	0.0026	0.0035	0.0017
10	笠子川	末端	0.0016	0.0026	0.0020	0.0028	0.0022
11	梅田川	末端	0.0021	0.0011	0.0012	0.039	0.0054

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-21(1) 水質(河川・全窒素)の経年変化(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	2.7	2.8	2.8	2.7	2.7
2	宇志川	東宇志橋	1.9	2.1	1.9	2.3	2.0
3	神明川	栄橋	4.7	5.9	3.9	3.1	4.1
4	宇利山川	宇利山川橋	4.0	4.3	3.9	4.4	3.5
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	3.2	3.2	3.3	3.7	2.9
6	釣橋川	三代橋	2.2	2.3	2.5	2.6	2.2
7	西神田川	堀切橋	2.7	2.8	2.9	3.2	2.6
8	今川	末端	1.4	1.1	1.3	1.1	0.9
9	入出太田川	末端	5.1	3.7	3.6	3.3	2.9
10	笠子川	末端	4.7	3.7	3.0	3.3	4.3
11	梅田川	末端	5.2	4.8	4.0	5.9	4.8

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「公共用水域の水質測定結果(令和2年度～6年度)」(浜松市ホームページ)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-21(2) 水質(河川・全磷)の経年変化(年平均値)

No	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	都筑大谷川	末端	0.092	0.076	0.075	0.081	0.108
2	宇志川	東宇志橋	0.080	0.061	0.087	0.067	0.074
3	神明川	栄橋	0.312	0.232	0.295	0.365	0.598
4	宇利山川	宇利山川橋	0.151	0.079	0.073	0.068	0.092
5	日比沢川	鮎ヶ瀬川	0.078	0.058	0.040	0.037	0.049
6	釣橋川	三代橋	0.102	0.048	0.053	0.057	0.067
7	西神田川	堀切橋	0.164	0.062	0.063	0.11	0.071
8	今川	末端	0.023	0.017	0.020	0.024	0.026
9	入出太田川	末端	0.190	0.130	0.130	0.250	0.141
10	笠子川	末端	0.220	0.230	0.260	0.320	0.378
11	梅田川	末端	0.970	0.630	0.600	0.760	0.770

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「公共用水域の水質測定結果(令和2年度～6年度)」(浜松市ホームページ)

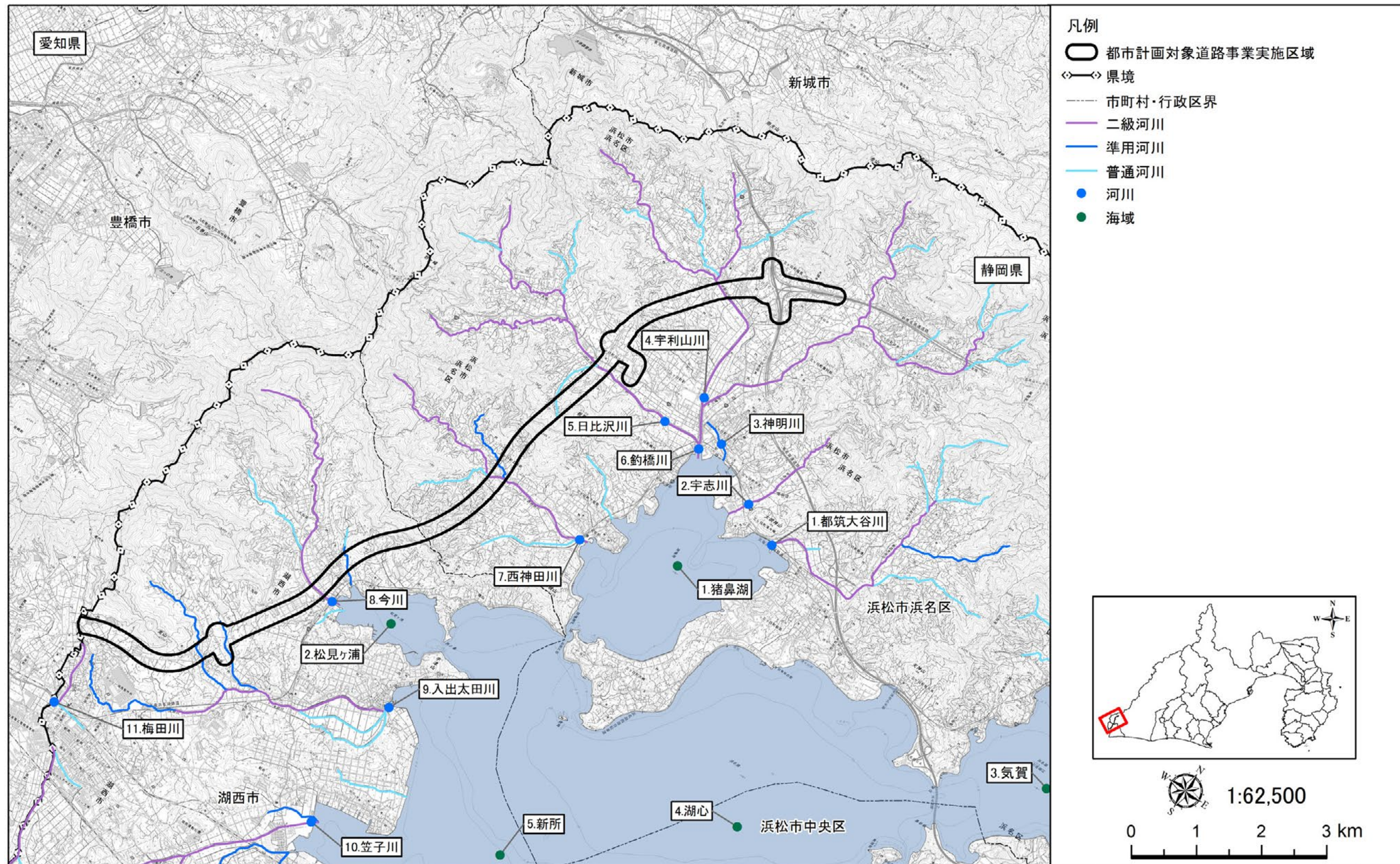
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)



出典) 「国土数値情報 河川データ (平成20年度版)」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)  
 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「浜松市川づくり計画」(令和7年4月、浜松市土木部河川課)  
 「湖西市地域防災計画 資料編(令和7年1月修正)」(湖西市防災会議)

図4-1-12 水質測定地点位置図

② 健康項目

調査区域における令和6年度の公共用水域水質（健康項目）測定地点は前掲の図4-1-12に、測定結果は表4-1-22(1)～(2)に示すとおりです。

令和6年度測定結果では、釣橋川三代橋及び今川末端のほう素が環境基準を達成していませんが、それ以外の地点では全項目で環境基準を達成しています。

表4-1-22(1) 水質（河川・健康項目）測定結果（令和6年度）

No.		1	2	6	7	環境基準	環境基準 達成状況
水域名		都筑 大谷川	宇志川	釣橋川	西神田 川		
測定地点		末端	東宇志 橋	三代橋	堀切橋		達成・非達成
カドミウム	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下	○
全シアン	mg/L	ND	ND	ND	ND	検出されないこと	
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下	
六価クロム	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02mg/L以下	
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.01mg/L以下	
総水銀	mg/L	<0.0005	-	<0.0005	<0.0005	0.0005mg/L以下	
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-
PCB	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1mg/L以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	-	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	-	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	-	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下	
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L以下	
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	2.2	2.0	2.2	2.4	10mg/L以下	
ふっ素	mg/L	<0.08	-	0.50	<0.08	0.8mg/L以下	
ほう素	mg/L	<0.1	-	2.0	<0.1	1mg/L以下	×
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	-	0.05mg/L以下	-

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 全シアンは年最大値を、その他の項目は年平均値を示します。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注4) 表中の「ND」は不検出を示します。

注5) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「公共用水域の水質測定結果(令和6年度)」(浜松市ホームページ)

表 4-1-22(2) 水質(河川・健康項目)測定結果(令和6年度)

No.		8	9	10	11	環境基準	環境基準 達成状況	
水域名		今川	入出太 田川	笠子川	梅田川		達成・非達成	
測定地点		末端	末端	末端	末端			
カドミウム	mg/L	-	-	-	<0.0003	0.003mg/L以下	○	
全シアン	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-	
鉛	mg/L	-	-	-	<0.005	0.01mg/L以下	○	
六価クロム	mg/L	-	-	-	-	0.05mg/L以下	-	
砒素	mg/L	-	-	-	-	0.01mg/L以下	-	
総水銀	mg/L	-	-	-	<0.0005	0.0005mg/L以下	○	
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-	
PCB	mg/L	-	-	-	-	検出されないこと	-	
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下	○	
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下		
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004mg/L以下		
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.1mg/L以下		
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04mg/L以下		
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1mg/L以下		
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下		
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下		
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01mg/L以下		
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002mg/L以下		
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L以下		
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003mg/L以下		
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L以下		
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L以下		
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.01mg/L以下		
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	0.70	2.5	2.9	3.9	10mg/L以下		
ふっ素	mg/L	0.43	0.11	0.47	<0.08	0.8mg/L以下		
ほう素	mg/L	1.4	0.25	0.35	<0.1	1mg/L以下		×
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L以下		○

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

### ③ ダイオキシン類

調査区域において公共用水域水質(ダイオキシン類)測定は行われていません。

## 2) 湖沼及び海域

調査区域には公共用水域水質測定が行われている湖沼が存在しないため、海域についてのみ記述します。なお、浜名湖については、海域の区分として扱います。

### ① 生活環境項目

調査区域における令和6年度の公共用水域水質（生活環境項目）測定地点は前掲の図4-1-12に、測定結果は表4-1-23(1)～(3)に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は、表4-1-24(1)～(4)、表4-1-25(1)～(2)、表4-1-26(1)～(3)に示すとおりです。

調査区域の海域には、海域の類型区分の指定がされています。令和6年度測定結果では、全地点のpH、気賀、湖心及び新所のCOD、湖心の大腸菌数が環境基準を達成していませんが、それ以外の地点では全項目で環境基準を達成しています。

表4-1-23(1) 水質（海域・生活環境項目）測定結果（令和6年度）

No.	水域名	測定地点	類型 (海域)	pH	DO	COD	大腸菌 数	n-ヘキサン 抽出物質 (油分等)	環境基準 達成状況	
					(mg/L)	(mg/L)	(CFU/ 100mL)	(mg/L)	達成・非達成	
1	浜名湖	猪鼻湖	B	8.3～8.8	9.3	2.8	160	-	○	×
2	浜名湖	松見ヶ浦	B	8.1～8.8	8.3	2.1	27	-		
3	浜名湖	気賀	A	8.3～8.6	9.0	3.5	-	-	○	×
4	浜名湖	湖心	A	8.3～8.7	8.8	3.9	620	-		
5	浜名湖	新所	A	8.3～8.6	8.8	2.1	130	-	○	×
環境基準			A	7.8～8.3	7.5 以上	2.0 以下	300 以下	検出されな いこと		
			B	7.8～8.3	5.0 以上	3.0 以下		検出されな いこと		
			C	7.0～8.3	2.0 以上	8.0 以下			× 大腸 菌数 No. 4	

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) pHは最小～最大、CODは年間75%値、大腸菌数は90%水質値、その他の項目は年平均値を示します。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

注4) 表中の斜線で示した類型区分は、環境基準値が設定されていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-23(2) 水質(海域・全窒素・全磷)測定結果(令和6年度)

No.	水域名	測定地点	類型 (海域)	全窒素	全磷	環境基準 達成状況	
				(mg/L)	(mg/L)	達成・非達成	
						全窒素	全磷
1	浜名湖	猪鼻湖	Ⅲ	0.75	0.040	○	○
2	浜名湖	松見ヶ浦		0.30	0.026		
3	浜名湖	気賀		0.39	0.033		
4	浜名湖	湖心	Ⅲ	0.27	0.027	○	○
5	浜名湖	新所	Ⅲ	0.24	0.023	○	○
環境基準			Ⅰ	0.2 以下	0.02 以下		
			Ⅱ	0.3 以下	0.03 以下		
			Ⅲ	0.6 以下	0.05 以下		
			Ⅳ	1.0 以下	0.09 以下		

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 表中の斜線で示した水域は、類型設定がされていないことを示します。

注4) 全窒素及び全磷については、浜名湖(口)水域(猪鼻湖、湖心、新所)で評価することとなり、浜名湖(口)水域においては環境基準を達成している。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-23(3) 水質(海域・水生生物の保全に係る環境基準項目)測定結果(令和6年度)

No.	水域名	測定地点	類型 (海域)	全亜鉛	ノニル フェノール	直鎖アルキ ルベンゼン スルホン酸 及びその塩 (LAS)	環境基準 達成状況
				(mg/L)	(mg/L)	(mg/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	生物 A	0.008	<0.00006	<0.0006	○
2	浜名湖	松見ヶ浦	生物 A	0.006	<0.00006	0.0007	○
3	浜名湖	気賀	生物 A	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	生物 A	0.009	<0.00006	<0.0006	○
5	浜名湖	新所	生物特 A	0.005	<0.00006	<0.0006	○
環境基準			生物 A	0.02 以下	0.0010 以下	0.010 以下	
			生物特 A	0.01 以下	0.0007 以下	0.006 以下	

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注4) 表中の「-」は未測定を示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-24(1) 水質(海域・生活環境項目：pH)の経年変化(年平均値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	8.6	8.7	8.5	8.5	8.6
2	浜名湖	松見ヶ浦	8.4	8.6	8.3	8.3	8.4
3	浜名湖	気賀	8.5	8.7	8.4	8.4	8.4
4	浜名湖	湖心	8.4	8.6	8.5	8.3	8.5
5	浜名湖	新所	8.4	8.5	8.4	8.4	8.4

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-24(2) 水質(海域・生活環境項目：D0)の経年変化(年平均値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	9.7	9.8	9.6	9.0	9.3
2	浜名湖	松見ヶ浦	8.4	9.0	8.9	7.8	8.3
3	浜名湖	気賀	9.2	9.1	8.8	8.1	9.0
4	浜名湖	湖心	8.8	9.0	8.7	8.1	8.8
5	浜名湖	新所	8.9	9.1	8.6	8.6	8.8

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-24(3) 水質(海域・生活環境項目:COD)の経年変化(年間75%値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	2.9	2.7	2.9	2.7	2.8
2	浜名湖	松見ヶ浦	2.2	2.2	2.2	2.0	2.1
3	浜名湖	気賀	2.0	1.8	3.8	2.9	3.5
4	浜名湖	湖心	2.0	1.9	4.1	3.4	3.9
5	浜名湖	新所	1.9	1.8	1.5	2.1	2.1

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年間75%値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-24(4) 水質（海域・生活環境項目：大腸菌群数・大腸菌数）の経年変化

No.	水域名	測定地点	令和2 年度 <sup>注2)</sup>	令和3 年度 <sup>注2)</sup>	令和4 年度 <sup>注3)</sup>	令和5 年度 <sup>注3)</sup>	令和6 年度 <sup>注3)</sup>
1	浜名湖	猪鼻湖	47	4305	2	2300	160
2	浜名湖	松見ヶ浦	-	-	-	-	27
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	1	130	14	63	620
5	浜名湖	新所	-	-	-	-	130

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 単位は、MPN/100m で平均値です。

注3) 単位は、CFU/100mL で90%水質値です。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度静岡県公共用水域の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-25(1) 水質（海域・全窒素）の経年変化(年平均値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	0.84	0.79	0.66	0.81	0.75
2	浜名湖	松見ヶ浦	0.36	0.31	0.29	0.42	0.30
3	浜名湖	気賀	0.41	0.31	0.43	0.49	0.39
4	浜名湖	湖心	0.29	0.22	0.32	0.34	0.27
5	浜名湖	新所	0.31	0.24	0.25	0.32	0.24

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-25(2) 水質（海域・全磷）の経年変化(年平均値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	0.043	0.034	0.035	0.048	0.040
2	浜名湖	松見ヶ浦	0.034	0.026	0.030	0.039	0.026
3	浜名湖	気賀	0.032	0.029	0.035	0.037	0.033
4	浜名湖	湖心	0.023	0.023	0.030	0.032	0.027
5	浜名湖	新所	0.024	0.022	0.026	0.030	0.023

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)  
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)  
「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-26(1) 水質（海域・水生生物の保全に係る環境基準項目：全亜鉛）の経年変化  
(年平均値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	0.003	0.006	0.007	0.006	0.008
2	浜名湖	松見ヶ浦	0.003	0.004	0.003	0.004	0.006
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	0.003	0.006	0.003	0.006	0.009
5	浜名湖	新所	0.003	0.004	0.003	0.004	0.005

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/Lです。

注4) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-26(2) 水質（海域・水生生物の保全に係る環境基準項目：ニルフィン）の経年変化  
(年平均値)

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006
2	浜名湖	松見ヶ浦	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006
5	浜名湖	新所	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/L です。

注4) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注5) 表中の記号「-」は未測定を示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

表 4-1-26(3) 水質（海域・水生生物の保全に係る環境基準項目：LAS）の経年変化  
（年平均値）

No.	水域名	測定地点	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度
1	浜名湖	猪鼻湖	<0.0006	<0.0006	0.0008	<0.0006	<0.0006
2	浜名湖	松見ヶ浦	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.0007
3	浜名湖	気賀	-	-	-	-	-
4	浜名湖	湖心	<0.0006	<0.0006	0.0007	<0.0006	<0.0006
5	浜名湖	新所	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 年平均値を示します。

注3) 単位は、mg/L です。

注4) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注5) 表中の記号「-」は未測定を示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」（令和7年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和5年度浜松市の環境測定結果」（令和6年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度浜松市の環境測定結果」（令和5年9月、浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度浜松市の環境測定結果」（令和4年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和5年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和4年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和6年3月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和4年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年9月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

② 健康項目

調査区域における令和6年度の公共用水域水質（健康項目）測定地点は前掲の図4-1-12に、測定結果は表4-1-27に示すとおりです。

測定された全項目について、全地点で環境基準を達成しています。

表4-1-27 水質（海域・健康項目）測定結果（令和6年度）

No		1	2	3	4	5	環境基準	環境基準達成状況
水域名		浜名湖	浜名湖	浜名湖	浜名湖	浜名湖		達成・非達成
測定地点		猪鼻湖	松見ヶ浦	気賀	湖心	新所		
カドミウム	mg/L	<0.0003	-	-	<0.0003	-	0.003 mg/L 以下	○
全シアン	mg/L	ND	-	-	ND	-	検出されないこと	
鉛	mg/L	<0.005	-	-	<0.005	-	0.01mg/L 以下	
六価クロム	mg/L	<0.01	-	-	<0.01	-	0.02mg/L 以下	
砒素	mg/L	<0.005	-	-	<0.005	-	0.01mg/L 以下	
総水銀	mg/L	<0.0005	-	-	<0.0005	-	0.0005mg/L 以下	
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	-	-	検出されないこと	
PCB	mg/L	-	-	-	-	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	-	-	<0.002	-	0.02mg/L 以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	-	-	<0.0002	-	0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	-	-	<0.0004	-	0.004mg/L 以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	-	-	<0.01	-	0.1mg/L 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	-	-	<0.004	-	0.04mg/L 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	-	-	<0.0005	-	1mg/L 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	-	-	<0.0006	-	0.006mg/L 以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	-	-	<0.001	-	0.01mg/L 以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	-	-	<0.0005	-	0.01mg/L 以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	-	-	<0.0002	-	0.002mg/L 以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	-	-	<0.0006	-	0.006mg/L 以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	-	-	<0.0003	-	0.003mg/L 以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	-	-	<0.002	-	0.02mg/L 以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	-	-	<0.001	-	0.01mg/L 以下	
セレン	mg/L	<0.002	-	-	<0.002	-	0.01mg/L 以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.43	0.06	0.14	0.07	0.03	10mg/L 以下	
ふっ素	mg/L	-	-	-	-	-	0.8mg/L 以下	-
ほう素	mg/L	-	-	-	-	-	1mg/L 以下	-
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	-	-	<0.005	-	0.05mg/L 以下	○

注1) 地点番号は図4-1-12に対応します。

注2) 全シアンは年最大値を、その他の項目は年平均値を示します。

注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注4) 表中の記号「ND」は不検出を示します。

注5) 表中の記号「-」は、測定が行われていない、または公表されていないことを示します。

出典) 「公共用水域の水質測定結果(令和2年度～6年度)」(浜松市ホームページ)

「令和6年度静岡県公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和7年10月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

## ③ ダイオキシン類

調査区域における令和6年度の公共用水域水質（ダイオキシン類）測定地点は図4-1-13、測定結果は表4-1-28に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は表4-1-29に示すとおりです。

測定結果は、環境基準を達成しています。

表4-1-28 水質（海域・ダイオキシン類）測定結果（令和6年度）

No.	水域名	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/L)	(pg-TEQ/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	0.19	1	○
2	浜名湖	湖心	0.17	1	○

注1) 地点番号は図4-1-13に対応します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」（令和7年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

表4-1-29 水質（海域・ダイオキシン類）測定結果の経年変化

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	-	-	0.084	-	0.19
2	浜名湖	湖心	0.089	-	0.062	-	0.17
3	浜名湖	気賀	-	-	-	0.34	-

注1) 地点番号は図4-1-13に対応します。

注2) 単位は pg-TEQ/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」（令和7年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和5年度浜松市の環境測定結果」（令和6年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和4年度浜松市の環境測定結果」（令和5年9月、浜松市環境部環境保全課）

「令和3年度浜松市の環境測定結果」（令和4年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和2年度浜松市の環境測定結果」（令和3年8月、浜松市環境部環境保全課）

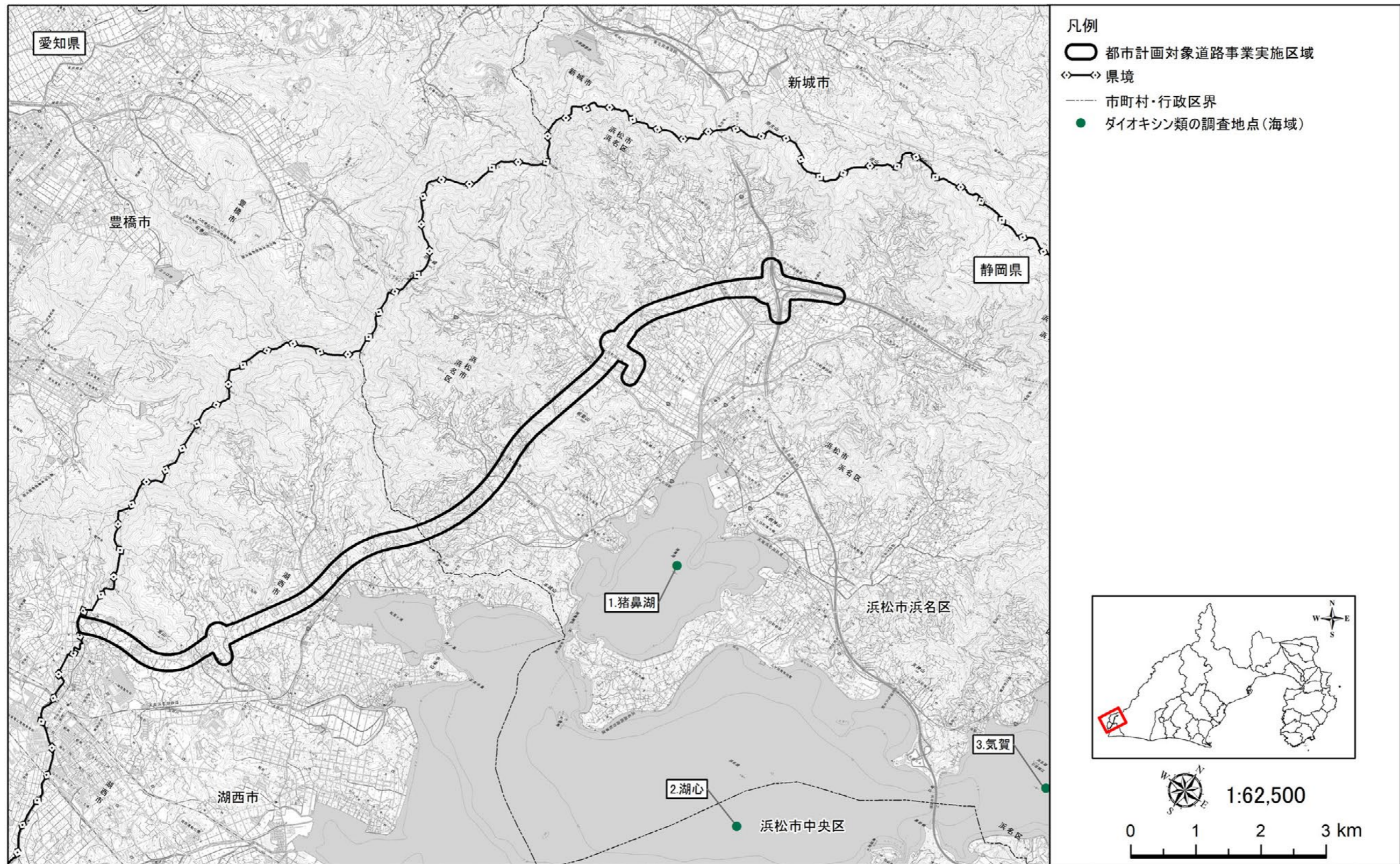
「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和5年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和6年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和3年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和4年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）

「令和2年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和3年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県暮らし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-13 ダイオキシン類調査地点位置図

**(3) 水底の底質****1) 河川**

調査区域の河川では、水底の底質(ダイオキシン類)の測定は行われていません。

**2) 湖沼及び海域**

調査区域には水底の底質(ダイオキシン)の測定が行われている湖沼が存在しないため、海域についてのみ記述します。

調査区域の海域における令和6年度の水底の底質(ダイオキシン類)測定地点は前掲の図4-1-13に、測定結果は表4-1-30に示すとおりです。また、過去5年間の測定結果の推移は表4-1-31に示すとおりです。

測定結果は、全地点で環境基準を達成しています。

**表4-1-30 水底の底質(海域・ダイオキシン類)測定結果(令和6年度)**

No.	水域名	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準達成状況
			(pg-TEQ/L)	(pg-TEQ/L)	達成・非達成
1	浜名湖	猪鼻湖	13	150	○
2	浜名湖	湖心	5.5	150	○

注1) 地点番号は図4-1-13に対応します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

**表4-1-31 水底の底質(海域・ダイオキシン類)測定結果の経年変化**

No.	水域名	測定地点	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1	浜名湖	猪鼻湖	-	-	12	-	13
2	浜名湖	湖心	6.4	-	6.1	-	5.5
3	浜名湖	気賀	-	-	-	11	-

注1) 地点番号は図4-1-13に対応します。

注2) 単位は pg-TEQ/L である。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示します。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和5年度浜松市の環境測定結果」(令和6年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和4年度浜松市の環境測定結果」(令和5年9月、浜松市環境部環境保全課)

「令和3年度浜松市の環境測定結果」(令和4年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和2年度浜松市の環境測定結果」(令和3年8月、浜松市環境部環境保全課)

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和5年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和6年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和4年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和5年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和3年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和4年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

「令和2年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和3年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

(4) その他の水に係る環境（地下水水質）

1) 環境基準項目

調査区域における令和6年度の地下水水質測定地点は図4-1-14に、測定結果は表4-1-32に示すとおりです。

測定された全項目について、環境基準を達成しています。

表4-1-32 地下水水質測定結果（令和6年度）

No.		1	環境基準	環境基準達成状況
市町村名		浜松市		達成・非達成
地区名		三ヶ日町 三ヶ日		
使用用途		工業用		
カドミウム	mg/L	<0.0003	0.003mg/L以下	○
全シアン	mg/L	不検出	検出されないこと <sup>注5)</sup>	
鉛	mg/L	<0.005	0.01mg/L以下	
六価クロム	mg/L	<0.01	0.02mg/L以下	
砒素	mg/L	<0.005	0.01mg/L以下	
総水銀	mg/L	<0.0005	0.0005mg/L以下	
アルキル水銀	mg/L	-	検出されないこと	
PCB	mg/L	-	検出されないこと	-
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	0.02mg/L以下	○
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.002mg/L以下	
クロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.002mg/L以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	0.004mg/L以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	0.1mg/L以下	
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	0.04mg/L以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	1mg/L以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	0.006mg/L以下	
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.01mg/L以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	0.01mg/L以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002mg/L以下	
チウラム	mg/L	<0.0006	0.006mg/L以下	
シマジン	mg/L	<0.0003	0.003mg/L以下	
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	0.02mg/L以下	
ベンゼン	mg/L	<0.001	0.01mg/L以下	
セレン	mg/L	<0.002	0.01mg/L以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	2.9	10mg/L以下	
ふっ素	mg/L	<0.08	0.8mg/L以下	
ほう素	mg/L	<0.1	1mg/L以下	
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	0.05mg/L以下	

注1) 地点番号は図4-1-14に対応しますが、測定位置は非公開のため、地点が位置する行政区画の範囲全域を図示しています。

注2) 年平均値を示します。

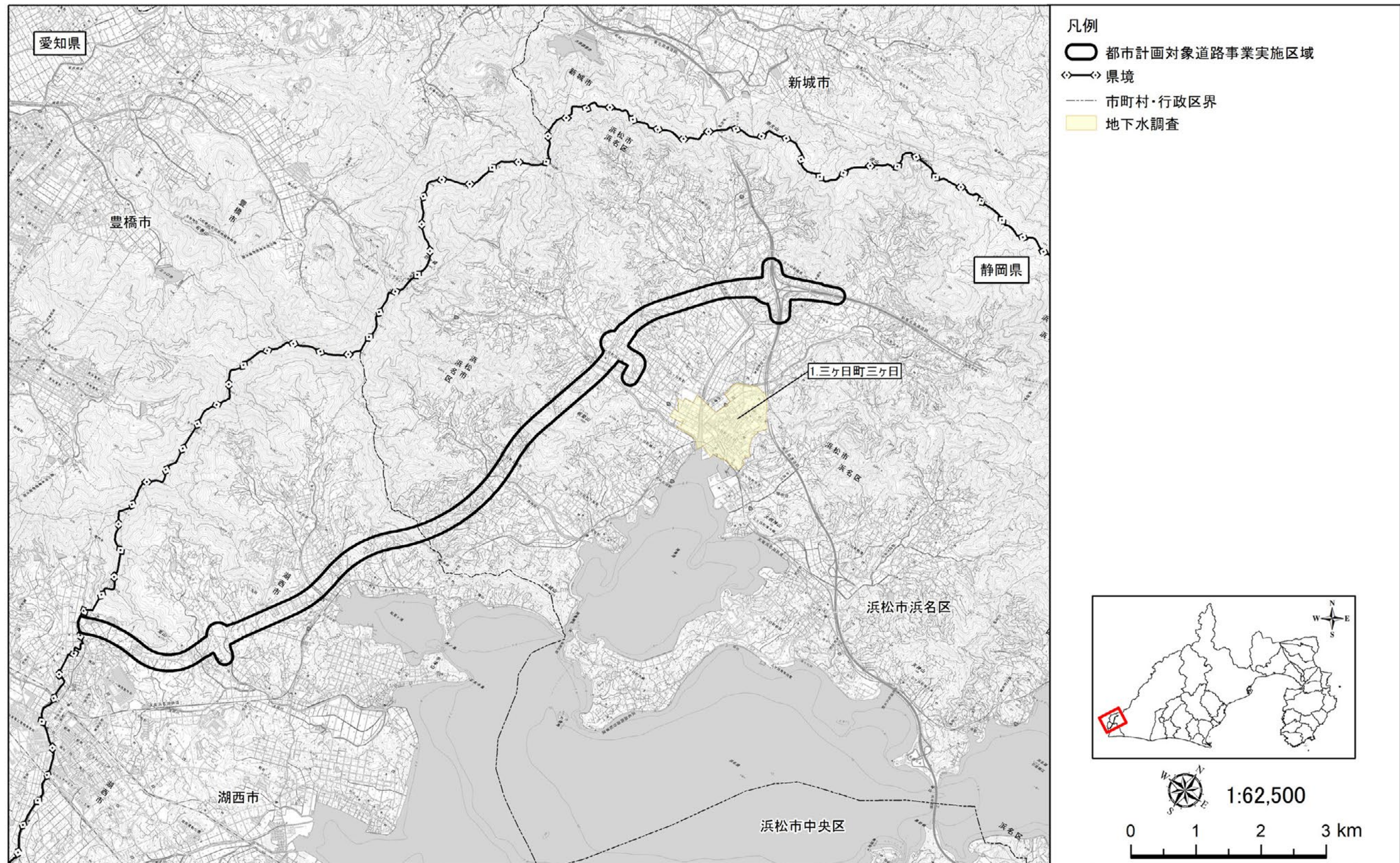
注3) 表中の記号「<」は報告下限値未満を示します。

注4) 表中の「-」は未測定または未公表を示します。

注5) 全シアンについては、測定点における年間の総検体の測定値の最高値により評価します。測定値の最高値は公表されていませんが、環境基準は達成されています。

出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」（令和7年8月、浜松市環境部環境保全課）

「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」（令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課）



注1) No.1浜松市浜名区三ヶ日町三ヶ日の測定位置は非公開のため、地点が位置する行政区画の範囲全域を図示している。  
 出典) 「令和6年度浜松市の環境測定結果」(令和7年8月、浜松市環境部環境保全課)  
 「令和6年度大気汚染及び水質汚濁等の状況」(令和7年8月、静岡県くらし・環境部環境局生活環境課)

図 4-1-14 地下水水質測定地点位置図

## 2) ダイオキシン類

調査区域における地下水水質（ダイオキシン類）測定地点は図4-1-15に、測定結果は表4-1-33に示すとおりです。調査区域では、令和元年度（平成31年度）に測定が行われ、その結果は環境基準を達成しています。

表4-1-33 地下水水質測定結果（ダイオキシン類）測定結果（令和元年度）

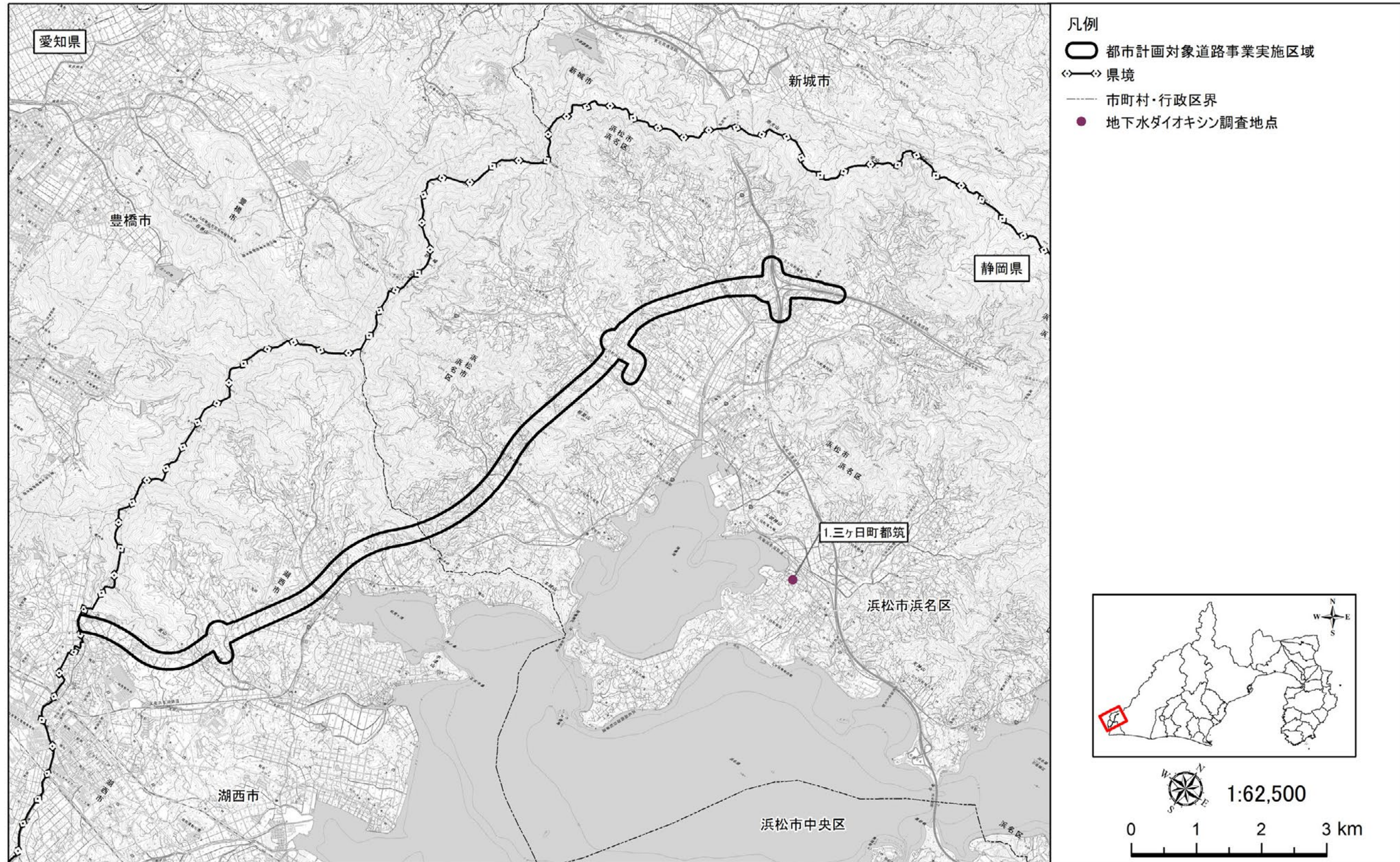
No.	市	測定地点	測定結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/L)	(pg-TEQ/L)	達成・非達成
1	浜松市	浜名区三ヶ日町都筑	0.021	1	○

注1) 地点番号は図4-1-15に対応します。

注2) 令和2～6年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和元年（平成31年度）の測定結果を示します。

注3) 表中の「-」は、測定が行われていないことを示します。

出典) 「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(令和2年10月、浜松市環境部環境保全課)



出典) 「浜松市の環境の現状と対策(令和2年度)」(令和2年10月、浜松市環境部環境保全課)

図 4-1-15 地下水水質測定地点位置図(ダイオキシン)

### 1.3. 土壌及び地盤の状況

#### (1) 土壌の状況

##### 1) 土壌の区分及び分布状況

調査区域における土壌の状況は、図 4-1-16 に示すとおりです。

調査区域には、山地部を中心として乾性褐色森林土壌（赤褐色系）や褐色森林土壌（赤褐色系）、赤色土壌が分布しています。その他の台地・低地部では、主に黄色土壌、細粒グライ土壌が分布しています。

##### 2) 土壌汚染の状況

調査区域における土壌中ダイオキシン類濃度の測定地点は図 4-1-17 に、測定結果は表 4-1-34 に示すとおりです。

測定は1地点で行われており、測定結果は環境基準を達成しています。

また、調査区域には「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」（昭和45年12月25日法律第139号、最終改正：平成23年8月30日号外 法律第105号）に基づき指定された農用地土壌汚染対策地域はありません。

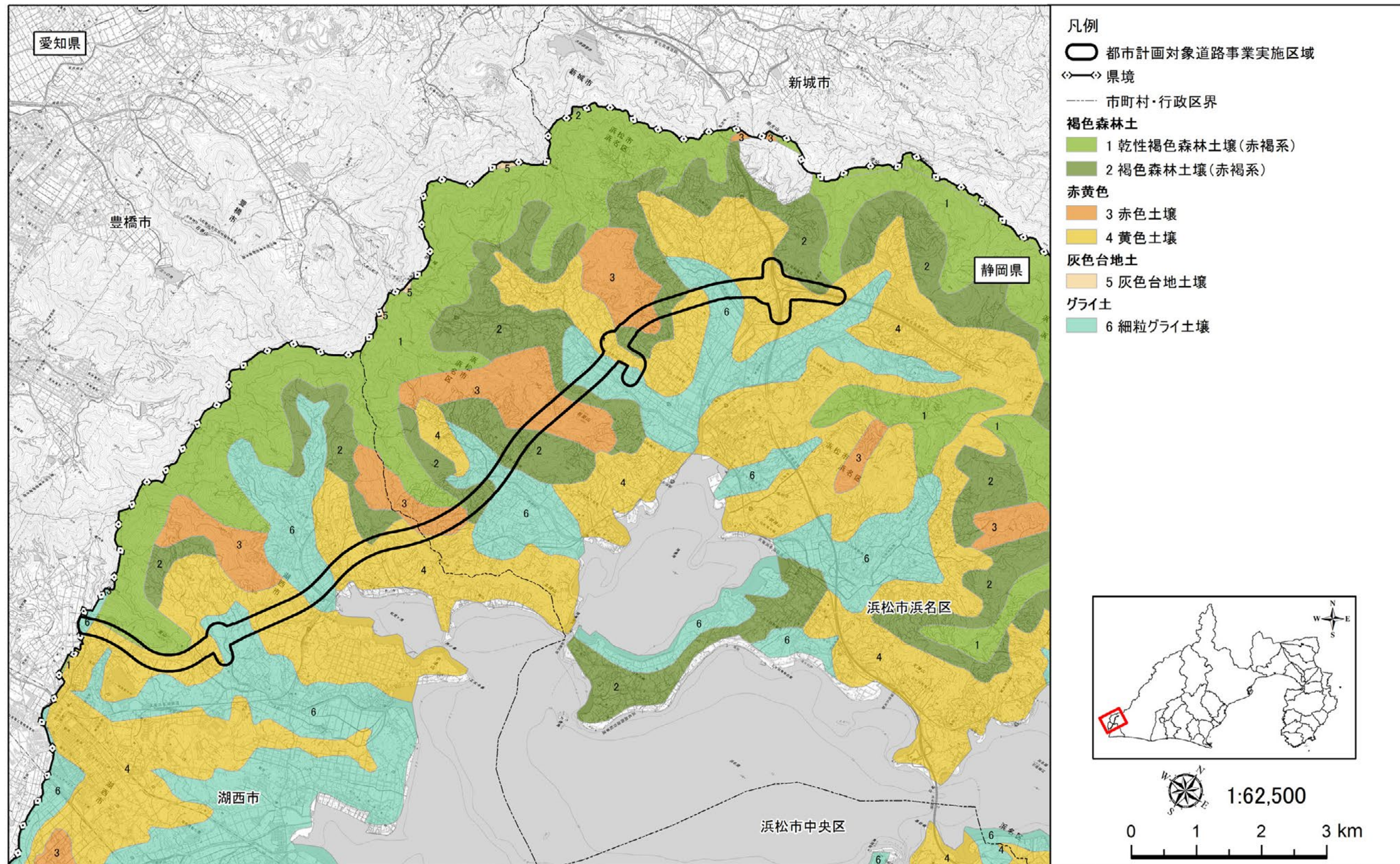
表 4-1-34 土壌中ダイオキシン類濃度測定結果(令和2年度)

No.	市	測定地点	調査結果	環境基準	環境基準 達成状況
			(pg-TEQ/g)	(pg-TEQ/g)	達成・非達成
1	浜松市	浜松市立三ヶ日西小学校	0.0049	1,000	○

注1) 地点番号は図4-1-17に対応します。

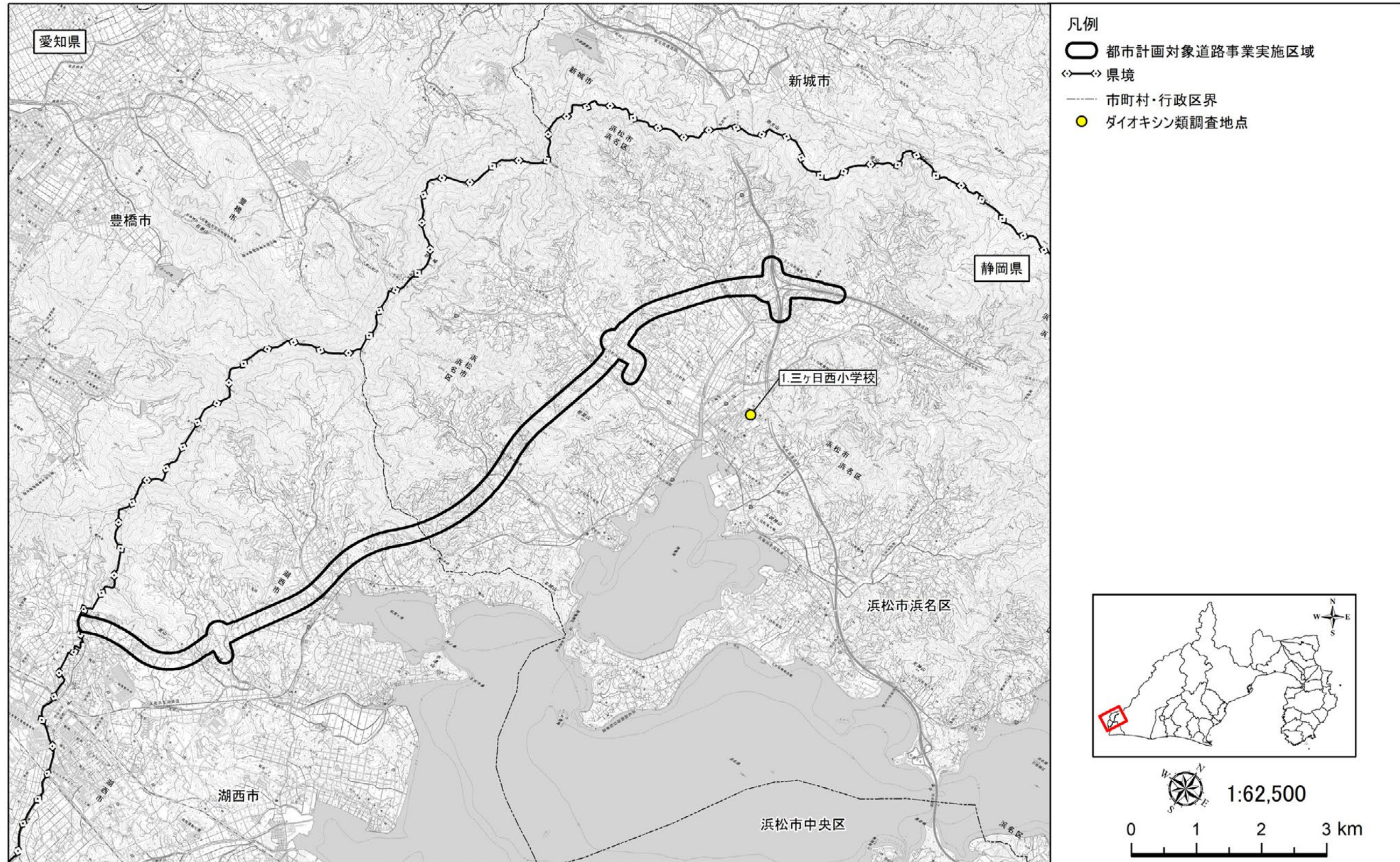
注2) 令和3～6年度に調査区域内で測定を実施していないことから、令和2年度の測定結果を示します。

出典) 「令和2年度浜松市の環境測定結果」（令和3年8月、浜松市環境部環境保全課）



出典) 「20万分の1都道府県土地分類基本調査 土壌図」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)

図 4-1-16 土壌の状況



出典) 「令和2年度浜松市の環境測定結果」(令和3年8月、浜松市環境部環境保全課)

図 4-1-17 土壤中ダイオキシン類濃度の測定地点位置図

## (2) 地盤の状況

### 1) 地盤の状況

「平成29年版 環境白書(詳細版)」(平成29年12月、静岡県)によると、静岡県で平成28年度に実施した西遠地域における地盤沈下調査の結果、最大沈下量は0.9mm/年であり、地盤沈下はほとんど見られていません。

### 2) 地盤沈下の状況

調査区域において、地盤沈下の調査は行われていません。

### 3) 地下水の分布

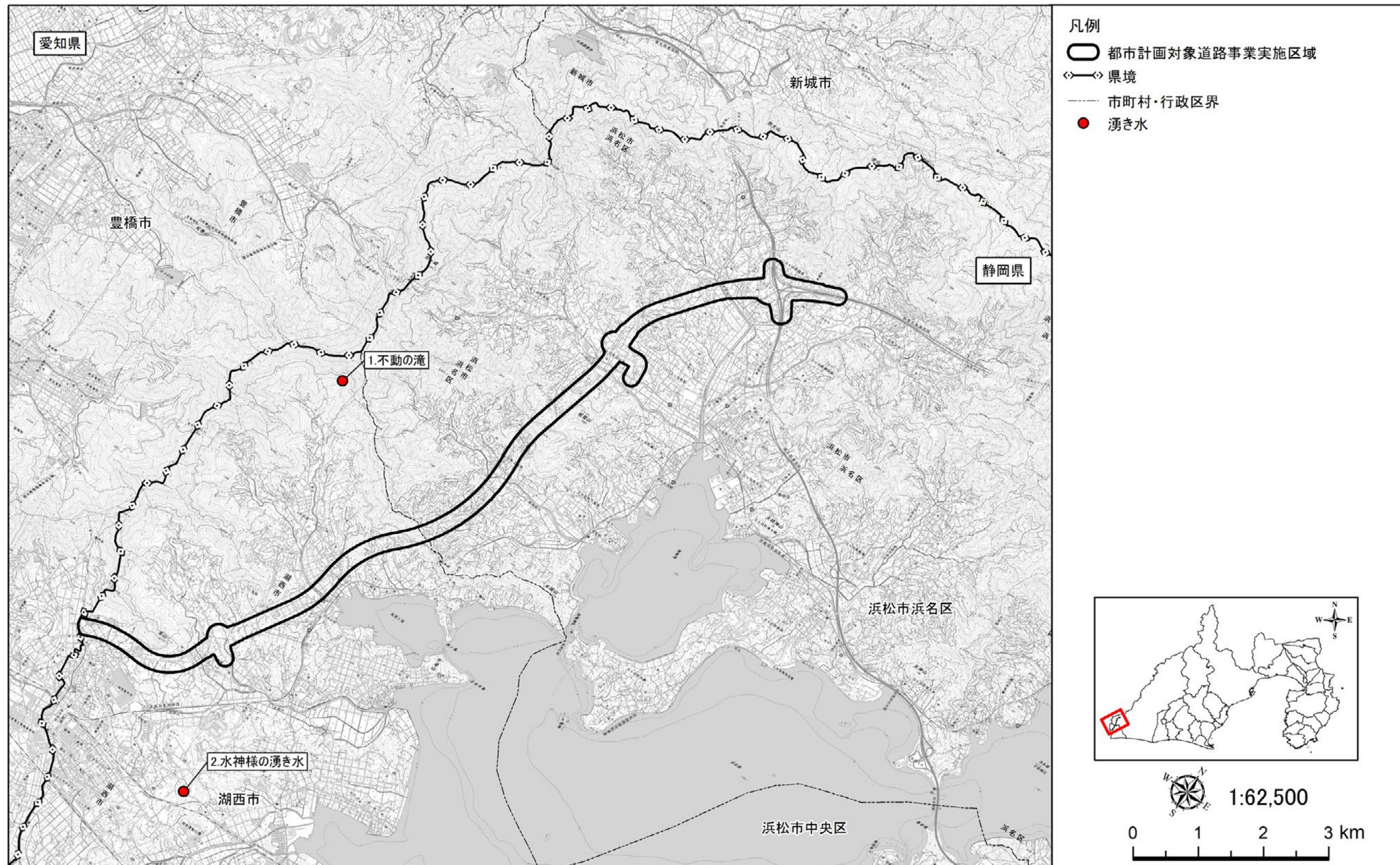
調査区域における湧き水の分布状況は、表4-1-35及び図4-1-18に示すとおりです。

調査区域において2箇所の湧き水が確認されています。

表4-1-35 湧き水一覧

No.	河川名	所在地
1	不動の滝	静岡県湖西市大知波
2	水神様の湧き水	静岡県湖西市岡崎

出典) 「静岡県の湧き水」(令和5年9月閲覧、静岡県ホームページ)



出典) 「静岡県の湧き水」(令和5年9月閲覧、静岡県ホームページ)

図 4-1-18 湧き水分布図

## 4) 地下水位の状況

調査区域における地下水位の調査地点は図4-1-19に、調査結果は表4-1-36に示すとおりです。

平成19年度から令和4年度にかけて9地点で調査が行われており、自然水位は2.33～32.30mとなっています。

調査区域には、「工業用水法」(昭和31年法律第146号、最終改正：令和4年6月17日号外法律第68号)に基づく指定地域及び「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」(昭和37年5月1日法律第100号、最終改正：令和4年6月17日号外法律第68号)に基づく指定地域に含まれる市町は存在しません。

なお、浜松市の一部は「静岡県地下水の採取に関する条例」(昭和52年8月1日条例第25号、最終改正：平成30年3月28日条例第17号)に基づく規制区域等に該当します。また、浜松市では「浜松市旧細江地域自治区及び旧三ヶ日地域自治区地下水の採取の適正化に関する条例」(平成17年6月1日浜松市条例第141号、最終改正：平成24年3月23日浜松市条例第6号)を定めており、調査区域の一部は同条例に基づく適正化地域に該当します。湖西市は「静岡県地下水の採取に関する条例(昭和52年8月1日条例第25号)」に基づく規制区域等には該当しませんが、自主規制区域(浜名湖西岸)として、揚水設備設置の届出や取水基準の遵守等、県条例区域とほぼ同様の規制が行われています。

表4-1-36 地下水位調査結果

No.	市	井戸の所在地 <sup>注1)</sup>	使用目的 <sup>注2)</sup>	地盤標高 (m)	自然水位 (m)	調査年度
1	浜松市	三ヶ日津々崎	工業用	3.00	2.33	H20 <sup>注3)</sup>
2		細江町	工業用	4.00	2.82	H19 <sup>注3)</sup>
3	湖西市	デンソー1号	-	31.00 <sup>注5)</sup>	9.99 <sup>注6)</sup>	R4 <sup>注4)</sup>
4		デンソー3号	-	31.00 <sup>注5)</sup>	9.03 <sup>注6)</sup>	R4 <sup>注4)</sup>
5		岡崎	農業用	37.10	32.30	H24 <sup>注3)</sup>
6		利木	その他	75.00	16.83	H20 <sup>注3)</sup>
7		白須賀	生活用	3.00	7.05	H20 <sup>注3)</sup>
8		太田	その他	2.00	2.68	H19 <sup>注3)</sup>
9		梅田	農業用	31.00	25.60	H19 <sup>注3)</sup>

注1) 井戸の所在地が公表されているデンソー1号、デンソー3号について、図4-1-19に位置を図示しました。その他の井戸については、非公表のため図示していません。

注2) 使用目的の「その他」は、生活用、都市用、工業用、農業用以外の使用目的を、「-」は使用目的非公表を指します。

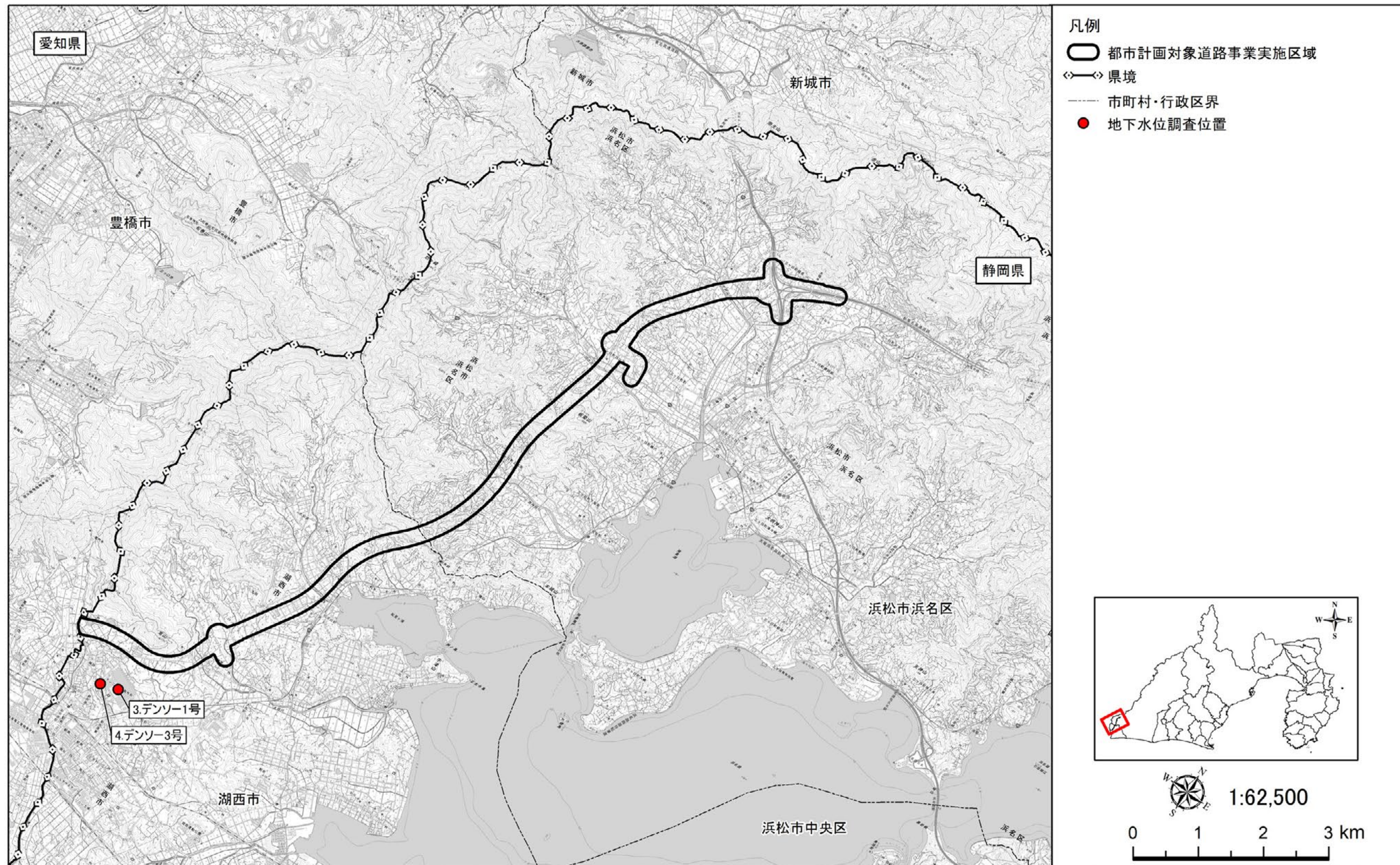
注3) 調査年度は「全国地下水資料台帳」に記載の調査年度としました。

注4) 調査年度は「地下水調査」(静岡県ホームページ)に記載の調査年度としました。

注5) 管頭標高

注6) ポンプ停止後1時間以上経過後に観測

出典) 「全国地下水資料台帳」(国土交通省国土政策局国土情報課ホームページ)  
「地下水調査」(静岡県ホームページ)



注1) 井戸の所在地が公表されているNo.3 デンソー1号及びNo.4 デンソー3号について位置を図示した。その他の井戸については、非公表のため図示していない。  
出典) 「地下水調査」(静岡県ホームページ)

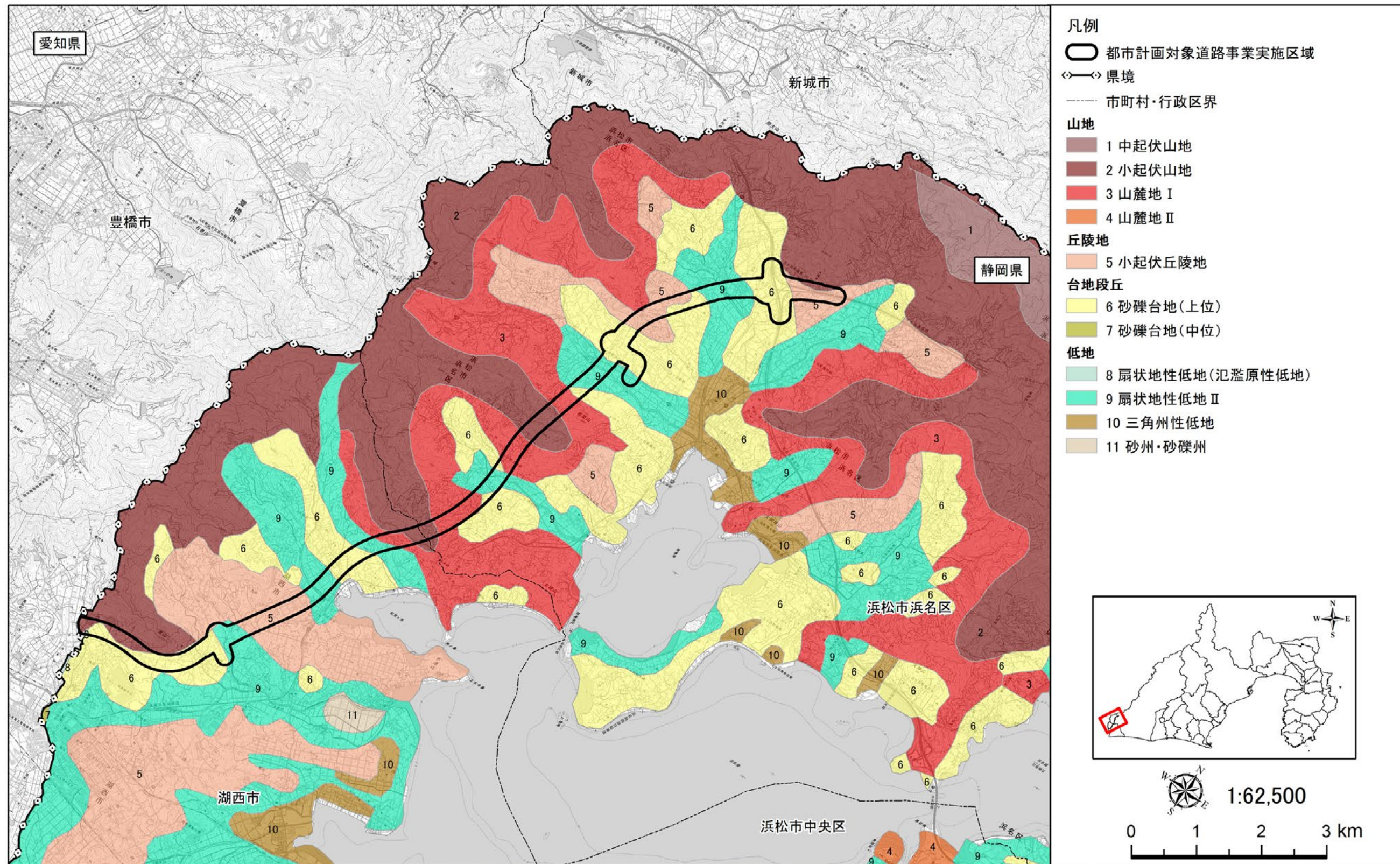
図 4-1-19 地下水調査位置図

## 1.4. 地形及び地質の状況

### (1) 地形及び地質の状況

調査区域における地形の状況は、図 4-1-20 に示すとおりです。事業実施区域の西側、静岡県と愛知県の県境付近には弓張山地が存在し、その周囲は主に小起伏山地、山麓地Ⅰ、小起伏丘陵地が広く分布します。浜名湖に注ぐ河川周辺には扇状地性低地Ⅱ、三角州性低地が分布します。

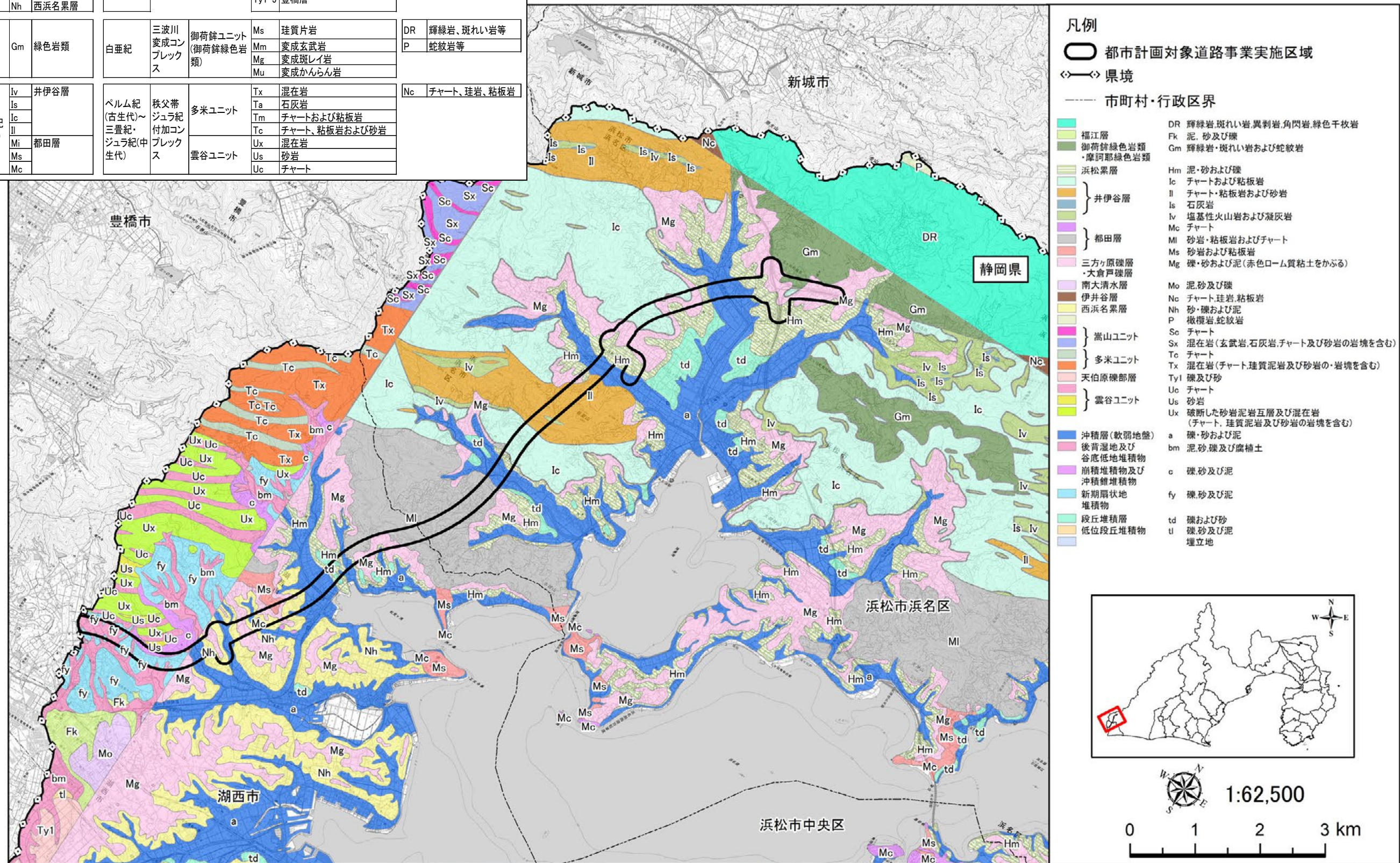
調査区域における地質の状況は、図 4-1-21 に示すとおりです。調査区域の基盤岩類は硬質な中～古生層で、付加帯に属する秩父帯コンプレックス(混成岩類(砂岩、泥岩、チャート、石灰岩など)：凡例 I1、Iv、Ic 等)で構成され、基本的に東北東-西南西方向の帯状の地質分布を示します。事業実施区域の北東側には秩父帯と断層で接して付加帯の三波川変成岩類(御荷鉾緑色岩類：凡例 Gm)が分布します。浜名湖に近い山裾や湖西市側の台地や扇状地では砂礫を中心とした更新世の地層(凡例 Nh、Mg)が分布しています。河川沿いには軟弱地盤とされる完新世の地層(沖積層：凡例 a 等)が分布しています。



出典) 「20万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)

図 4-1-20 地形分類図

＜各図幅の地層対比＞			
○浜松図幅		○豊橋・田原図幅	○三河大野図幅
地質年代	凡例 地層・岩相	地質年代	凡例 地層・岩相
完新世	ds 砂丘砂 a 沖積層 td 段丘堆積物	完新世	a 沖積層 tl 低位段丘堆積物 fy 新期扇状地堆積物
更新世	Mg 三方ヶ原礫層 Hm 浜松累層 Nh 西浜名累層	更新世	Ty1-5 豊橋層
中～古生代	Gm 緑色岩類	白亜紀	三波川変成コンプレックス 御荷鉾ユニット(御荷鉾緑色岩類)
			Ms 珪質片岩 Mm 変成玄武岩 Mg 変成斑レイ岩 Mu 変成かんらん岩
			DR 輝緑岩、斑れい岩等 P 蛇紋岩等
ペルム紀(古生代)	lv 井伊谷層 ls lc li mi 都田層 ms mc	ペルム紀(古生代)～三畳紀・ジュラ紀(中生代)	秩父帯ジュラ紀付加コンプレックス 多米ユニット 雲谷ユニット
			Tx 混在岩 Ta 石灰岩 Tm チャートおよび粘板岩 Tc チャート、粘板岩および砂岩 Ux 混在岩 Us 砂岩 Uc チャート
			Nc チャート、珪岩、粘板岩



注1) 隣接する3つの図幅(西端「豊橋および田原」、浜名湖周辺「浜松」、東端「三河大野」)の情報を元に記載した。各図幅は作成した研究者や年代が違うため、解釈や表現方法が異なり、境界部が不連続となっている。  
出典) 5万分の1地質図幅(国立研究開発法人 産業技術総合研究所ホームページ)

図4-1-21 表層地質図

## (2) 重要な地形及び地質の状況

重要な地形及び地質の概要は表 4-1-37 に、位置は図 4-1-22 に示すとおりです。

調査区域に分布する法令、条例等によって定められた重要な地形及び地質として、浜名湖があります。

また、「第1回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)、「日本の地形レッドデータブック第2集ー保存すべき地形ー」(平成14年3月、小泉武栄、青木賢人編)及び「わが国の失われつつある土壌の保全をめざしてーレッド・データ土壌の保全ー」(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)に掲載されている、または(仮称)浜松湖西豊橋道路計画段階環境配慮書(令和3年12月)に対する静岡県知事意見において重要性が指摘される等、学術上または希少性の観点で重要と判断される地形及び地質として、石灰岩・化石産地(洪積臥骨、哺乳類)、チョコレート褐色土、ナウマンゾウ化石産出地等があります。

なお、調査区域内には、「日本の地形レッドデータブック第1集ー危機にある地形ー」(平成12年12月、小泉武栄、青木賢人編)に掲載された危機にある地形は存在しません。

表 4-1-37 重要な地形及び地質の概要

No	名称	概要	重要度の分類基準	出典
1	石灰岩・化石産地 (洪積臥骨、哺乳類)	「第1回自然環境保全基礎調査すぐれた自然調査」に掲載されている。	②a	1
2	チョコレート褐色土	チョコレート褐色土の母岩である蛇紋岩そのものが局地的に分布しているため、この土壌の分布も極めて局地的かつ小面積である。チョコレート褐色土の属する暗赤色土壌群の成因については他の土壌型と比べて未だ十分に研究されておらず、その保存は学術上極めて重要である。	②b	2
3	ナウマンゾウ化石産出地	計画段階環境配慮書に対する静岡県知事意見において、大型哺乳類等の化石が発掘された貴重な地域(浜松市中央区佐浜町(ナウマンゾウの模式標本発掘地)や浜名区三ヶ日町只木など)の重要性が指摘されている。	②a	3
4	灰色低地土	浜名湖北岸に位置する当該地域は、比較的狭い地形内に地形連鎖が存在し、各種土壌の分布や生成の観察・研究に好適なフィールドである。土壌母材もチャート・石灰岩・蛇紋岩・河成砂礫層等と多様である。近年、該当地域は樹園地の基盤整備、道路や市街地の拡大等により観察しやすい断面(露頭)が少なくなりつつある。	②b	2
5	赤色土、暗赤色土、黄色土		②b	2
6	褐色森林土		②b	2
7	浜名湖	静岡県指定の名勝であり、「日本の地形レッドデータブック第2集-保存すべき地形-」に掲載されている。 汽水湖としては太平洋側最大の湖であり、引佐細江・猪鼻湖・庄内半島などの内湖や岬が複雑な溺れ谷地形をなす。	①, ②a	4, 5

注1) 地点番号は図4-1-22に対応します。

重要度の分類基準:

①法律、条例等によって定められた重要な地形及び地質

②法令等の規定はないが学術上又は希少性の観点で重要と判断される場合のある地形及び地質

a: 公的機関によって定められた重要な地形及び地質

b: 学会等で定められた重要な地形及び地質

出典) 1. 「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)

2. 「わが国の失われつつある土壌の保全をめざして-レッド・データ土壌の保全-」  
(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)

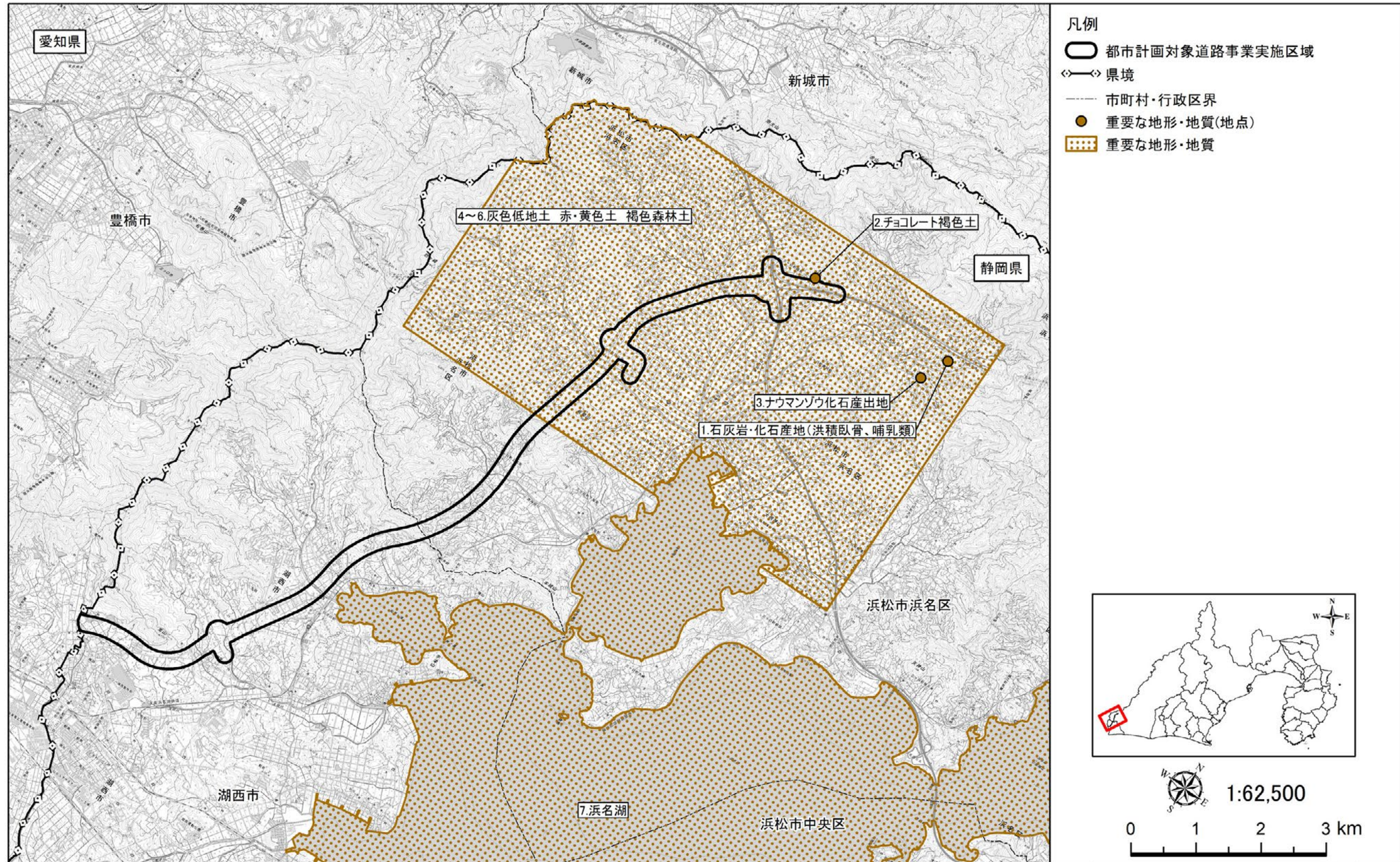
3. 「浜名湖周辺地域産出のナウマンゾウ化石 静岡地学第87号(2003)」(静岡県地学会)

4. 「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)

5. 「日本の地形レッドデータブック第2集-保存すべき地形-」  
(平成14年3月、小泉武栄・青木賢人編)

### (3) 活断層の状況

「活断層データベース」(国立研究開発法人産業技術総合研究所ホームページ)によると、調査区域には活断層は存在していません。



出典) 「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然調査」(昭和51年、環境庁)  
 「わが国の失われつつある土壌の保全をめざして—レッド・データ土壌の保全—」(平成12年3月、日本ペトロロジー学会)  
 「浜名湖周辺地域産出のナウマンゾウ化石 静岡地学第87号(2003)」(静岡県地学会)  
 「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)  
 「日本の地形レッドデータブック第2集—保存すべき地形—」(平成14年3月、小泉武栄・青木賢人編)

図 4-1-22 重要な地形及び地質

## 1.5. 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

## (1) 使用文献一覧

動植物の生息及び生育の状況を把握するため、調査区域における確認種を抽出しました。対象地域は静岡県湖西市、浜松市としました。

使用文献の一覧を表 4-1-38(1)～(2)に示します。

表 4-1-38(1) 動物・植物の生息状況の把握に用いた文献・資料

文献番号	文献名	発行元/発行年	対象地域	項目												
				哺乳類	鳥類	両生類	爬虫類	魚類	昆虫類	底生動物	クモ類	陸産貝類	植物			
1	第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図	環境庁、昭和51年	湖西市、浜松市													
2	第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書	環境庁、昭和57年3月	湖西市、浜松市	●	●	●		●	●							
3	第3回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境庁、昭和63年	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●				●		
4	第4回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境庁、平成5年	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●				●		
5	第5回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省、平成13～14年	湖西市、浜松市	●		●	●	●	●	●				●		
6	第6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書	環境省、平成15～16年	湖西市、浜松市	●	●											
7	まもりたい静岡県の野生生物2019ー静岡県静岡県レッドデータブック<動物編>ー	静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、平成31年3月	湖西市、浜松市	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
8	まもりたい静岡県の野生生物2020ー静岡県静岡県レッドデータブック<植物・菌類編>ー	静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月	湖西市、浜松市													●
9	第12次鳥獣保護管理事業計画	静岡県、平成31年3月	湖西市、浜松市	●	●											
10	ふじのくに生物多様性地域戦略2018-2027	静岡県、平成30年	湖西市、浜松市													●
11	静岡県自然観察ガイドブック30 湖西連峰	静岡県環境森林部地球環境室、平成10年11月	湖西市、浜松市							●		●				●
12	生物多様性はままつ戦略2024【資料編】	浜松市、令和7年	浜松市	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	新・湖西市環境基本計画(平成28年度中間見直し)	湖西市、平成28年度	湖西市							●						
14	第3次湖西市環境基本計画(2025年度中間見直し)	湖西市、令和8年3月	湖西市	●	●	●	●	●	●	●	●					●

表 4-1-38(2) 動物・植物の生息状況の把握に用いた文献・資料

文献 番号	文献名	発行元/発行年	対象 地域	項目										
				哺乳 類	鳥 類	両 生 類	爬 虫 類	魚 類	昆 虫 類	底 生 動 物	ク モ 類	陸 産 貝 類	植 物	
15	サイエンスミュージアムネット	国立科学博物館 HP、令和3年2月 閲覧	湖西市、 浜松市	●	●			●	●	●	●	●	●	
16	東海自然誌ーふじの くに地球環境史ミュ ージアム研究報告ー 第1号～第15号	ふじのくに地球環 境史ミュージアム HP、令和4年5月 閲覧	湖西市、 浜松市	●						●	●			●
17	日本のシダ植物図 鑑：分布・生態・ 分類	東京大学出版会、 平成16年	湖西市、 浜松市											●
18	静岡県の鳥類第2版	静岡の鳥編集委員 会、平成22年	湖西市、 浜松市		●									
19	静岡県の鳥類第3版	静岡の鳥編集委員 会、令和2年6月	湖西市、 浜松市		●									
20	静岡県産蜂類目録	池田二三高、昭和 51年	湖西市、 浜松市						●					
21	静岡県産蝶類分布目 録	静岡県昆虫同好 会、平成15年	湖西市、 浜松市						●					
22	静岡県の自然環境シ リーズ(哺乳類、淡 水魚類、重要昆虫、 植物群落)	静岡県自然保護 課、昭和56年～平 成元年	湖西市、 浜松市	●				●	●	●				●
23	静岡県陸淡水産貝類 相, 東海大学自然史博 物館研究報告, (3), 1-82,	ちりぼたん 20(1・ 2), 43, 平成元年	湖西市、 浜松市										●	
24	静岡県植物誌	杉本順一、 昭和59年	湖西市、 浜松市											●
25	静岡県産希少植物図 鑑	杉野孝雄、平成21 年	湖西市、 浜松市											●
26	全国鳥類繁殖分布調 査報告 日本の鳥の 今を描こう 2016- 2021年	鳥類繁殖分布調査 会、令和3年	湖西市、 浜松市		●									
27	全国鳥類越冬分布調 査 2016-2022年	バードリサーチ・ 日本野鳥の会、令 和5年	湖西市、 浜松市		●									
28	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック3 みっかび の野鳥	三ヶ日町教育委員 会、平成5年	浜松市		●									
29	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック4 野の花 みっかび	三ヶ日町教育委員 会、平成6年	浜松市											●
30	ふるさと三ヶ日ガイ ドブック5 山の花 みっかび	三ヶ日町教育委員 会、平成10年	浜松市											●
31	静岡県蝶類分布図	静岡県昆虫同好会、 令和5年	湖西市、 浜松市							●				
32	静岡県昆虫集録：駿河 の昆虫編	静岡県昆虫同好会、 平成31年	湖西市、 浜松市							●				

注1) 「第1回自然環境保全基礎調査 すぐれた自然図」では、調査区域における動植物の生息・生育情報は確認できませんでした。

## (2) 動物の生息の状況

### 1) 動物相の状況

#### ① 哺乳類の概況

調査区域において生息記録のある哺乳類として、アカネズミ、タヌキ、ニホンイタチ、イノシシ、ニホンジカ等を含む7目19科48種が確認されています。

#### ② 鳥類の概況

調査区域において生息記録のある鳥類として、ミサゴやオオタカ等の猛禽類をはじめ、カルガモ、キジバト、ダイサギ、シジュウカラ、ホオジロ等を含む21目62科262種が確認されています。

#### ③ 両生類の概況

調査区域において生息記録のある両生類として、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエル等を含む2目8科20種が確認されています。

#### ④ 爬虫類の概況

調査区域において生息記録のある爬虫類として、クサガメ、ニホンヤモリ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ニホンマムシ等を含む2目10科16種が確認されています。

#### ⑤ 魚類の概況

調査区域において生息記録のある魚類として、ニホンウナギ、オイカワ、ドジョウ、ミナミメダカ、ボウズハゼ等を含む14目36科106種が確認されています。

#### ⑥ 昆虫類の概況

調査区域において生息記録のある昆虫類として、シオカラトンボ、ショウリョウバッタ、アゲハ、ノコギリクワガタ、ゲンジボタル等を含む11目114科823種が確認されています。

#### ⑦ 底生動物の概況

調査区域において生息記録のある底生動物として、ヒメタニシ、カワニナ、マメシジミ、ヤマトヌマエビ、モクズガニ等を含む17目60科103種が確認されています。

#### ⑧ その他の動物

##### (a) クモ類の概況

調査区域において生息記録のあるクモ類として、ジグモ、カネコトタテグモ、アケボノユウレイグモ、オニグモ、エンシュウナミハグモ等を含む1目10科21種が確認されています。

**(b) 陸産貝類の概況**

調査区域において生息記録のある陸産貝類として、トウカイヤマトガイ、ミカワギセル、ヤマナメクジ、ヒメカサキビ、ビロウドマイマイ等を含む4目23科109種が確認されています。

## 2) 動物の重要な種及び注目すべき生息地の状況

動物の重要な種の選定基準を表 4-1-39(1)～(2)に示します。

表 4-1-39(1) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
1	「文化財保護法」(昭和25年5月30日法律第214号、最終改正：令和4年6月17日号外法律第68号)に基づく天然記念物及び特別天然記念物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別天然記念物(特天)</li> <li>・天然記念物(天)</li> </ul>
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年6月5日法律第75号、最終改正：令和4年6月17日号外法律第68号)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成5年2月10日政令第17号、最終改正：令和7年1月22日号外政令第9号)に基づく国内希少野生動植物種等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内希少野生動植物種(国内)</li> <li>・緊急指定種(緊急)</li> </ul>
3	「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成22年8月6日条例第37号、最終改正：令和6年10月25日条例第45号)に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県指定種(県指)</li> </ul>
4	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年3月30日愛知県条例第3号、最終改正：令和7年3月25日条例第1号)に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県指定種(県指)</li> </ul>
5	<p>■鳥類、爬虫類・両生類 「環境省第5次レッドリスト(鳥類及び爬虫類・両生類)」(環境省、令和8年3月)の掲載種</p> <p>■その他の分類群 「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年3月)の掲載種</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX：絶滅</li> <li>・EW：野生絶滅</li> <li>・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR：絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN：絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU：絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT：準絶滅危惧</li> <li>・DD：情報不足</li> <li>・LP：絶滅のおそれのある地域個体群</li> </ul>
6	「静岡県版レッドリスト2020」(静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、令和2年3月)の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX：絶滅</li> <li>・EW：野生絶滅</li> <li>・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR：絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN：絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU：絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT：準絶滅危惧</li> <li>・DD：情報不足</li> <li>・LP：地域個体群</li> </ul> <p>要注目種：(静岡県独自のカテゴリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・N-I：現状不明</li> <li>・N-II：分布上注目種等</li> <li>・N-III：部会注目種</li> </ul>
7	「レッドリストあいち2025」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和7年3月)の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX：絶滅</li> <li>・EW：野生絶滅</li> <li>・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR：絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN：絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU：絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT：準絶滅危惧</li> <li>・DD：情報不足</li> <li>・LP：地域個体群</li> </ul>

表 4-1-39(2) 動物の重要な種の選定基準

動物の重要な種の選定基準		
8	「静岡県立自然公園条例」(昭和36年10月4日静岡県条例第53号、最終改正：令和6年10月25日条例第45号)に基づく浜名湖県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	・○：静岡指定
9	「環境省海洋生物レッドリスト」(環境省、平成29年3月)の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX：絶滅</li> <li>・EW：野生絶滅</li> <li>・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR：絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN：絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU：絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT：準絶滅危惧</li> <li>・DD：情報不足</li> <li>・LP：絶滅のおそれのある地域個体群</li> </ul>

注1) 動物の重要な種の選定基準8は、両生類、爬虫類、昆虫類が該当し、9は魚類、底生動物が該当します。

① 哺乳類の重要な種

調査区域において確認記録のある哺乳類の重要な種はノレンコウモリ、ヤマネ等の6目11科26種で、表4-1-40に示すとおりです。

なお、哺乳類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-40 文献により確認された哺乳類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	
1	モグラ目 (食虫目)	トガリネズミ科	カワネズミ						NT	VU	
2		モグラ科	アズマモグラ							VU	
3	コウモリ目 (翼手目)	キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ (ニホンコキクガシラコウモリ)						NT	NT	
4			キクガシラコウモリ						NT	NT	
5		ヒナコウモリ科	ヒメホオヒゲコウモリ						N-II		
6			モモジロコウモリ						NT	VU	
7			クロホオヒゲコウモリ					VU	DD		
8			ノレンコウモリ					VU	VU	CR	
9			ヒナコウモリ						DD	EN	
10			チチブコウモリ					LP	VU	CR	
11			ニホンウサギコウモリ						DD		
12			コテングコウモリ						DD	CR	
13			テングコウモリ						DD	EN	
14			ウサギ目	ウサギ科	ノウサギ						
15		ネズミ目 (齧歯目)	リス科	ニホンリス						N-III	NT
16	ニホンモモンガ								DD	EN	
17	ムササビ								NT	NT	
18	ヤマネ科		ヤマネ	国天					DD	NT	
19	ネズミ科		スミスネズミ							NT	
20			ハタネズミ						N-III	NT	
21			カヤネズミ						NT	VU	
22	ネコ目 (食肉目)		クマ科	ツキノワグマ							CR
23		イタチ科	テン(ホンドテン)							NT	
24			オコジョ					NT	DD		
25			アナグマ							NT	
26	ウシ目 (偶蹄目)	ウシ科	カモシカ	特天							
計	6目	11科	26種	2種	0種	0種	0種	4種	19種	21種	

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

② 鳥類の重要な種

調査区域において確認記録のある鳥類の重要な種は、チュウヒ、コノハズク等の19目42科139種で、表4-1-41(1)～(3)に示すとおりです。

なお、鳥類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-41(1) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7				
										越冬	繁殖	通過		
1	キジ目	キジ科	ウズラ					VU	VU	EN				
2			ヤマドリ						NT	NT	NT			
3	カモ目	カモ科	ヒシクイ	国天				NT						
4			マガン	国天										
5			カリガネ					EN						
6			コクガン	国天				VU		EN				
7			ツクシガモ					DD		VU				
8			オシドリ							NT	VU			
9			トモエガモ					DD	VU	VU				
10			ホシハジロ					NT						
11			アカハジロ					CR						
12			キンクロハジロ					VU						
13			スズガモ					NT						
14			シノリガモ						NT	VU				
15			ビロードキンクロ							EN				
16			クロガモ							NT				
17			ミコアイサ						NT					
18			カワアイサ								NT			
19			カイツブリ目	カイツブリ科	アカエリカイツブリ							EN		
20					ミミカイツブリ							VU		
21	ネッタイチョウ目	ネッタイチョウ科	アカオネッタイチョウ					VU						
22	ミズナギドリ目	ミズナギドリ科	シロハラミズナギドリ					VU						
23	コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	特天	国内			EN		NT				
24	カツオドリ目	ウ科	ヒメウ					EN		NT				
25	ペリカン目	サギ科	サンカノゴイ					CR	EN			EN		
26			ヨシゴイ					DD	EN		CR	CR		
27			オオヨシゴイ		国内			CR						
28			ミゾゴイ					NT	EN		VU	NT		
29			ゴイサギ					VU	N-III	NT	NT			
30			ササゴイ					VU	EN					
31			アマサギ					EN						
32			チュウサギ					NT			NT	NT		
33			コサギ					VU						
34			クロサギ							EN				
35			カラシラサギ									NT		
36			トキ科	トキ科	ヘラサギ					EN				
37					クロツラヘラサギ		国内			VU		VU		
38			ツル目	クイナ科	シマクイナ		国内			EN				
39	クイナ							NT	NT					
40	ヒメクイナ							DD						
41	ヒクイナ							NT	VU		VU	NT		
42	バン							VU		NT	VU			

表 4-1-41(2) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7				
										越冬	繁殖	通過		
43	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ									VU	NT	
44			ツツドリ									VU	NT	
45			カッコウ										VU	NT
46	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ					NT	VU			EN	VU	
47	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ						VU					
48			アマツバメ						VU					
49			ヒメアマツバメ									NT	NT	
50	チドリ目	チドリ科	タゲリ								NT			
51			ケリ						DD		VU	NT		
52			ムナグロ							VU		NT		
53			イカルチドリ								NT	NT	VU	
54			シロチドリ							VU	VU	VU	EN	
55			ミヤコドリ科	ミヤコドリ									NT	
56		セイタカシギ科	セイタカシギ						DD	NT	NT	VU		
57		シギ科	ヤマシギ								DD	NT		
58			アオシギ									VU		
59			オオジシギ						NT	N-II			EX	VU
60			オオハシシギ							N-II	EN			
61			オグロシギ								VU			EN
62			オオソリハシシギ							VU	VU			EN
63			コシヤクシギ							EN				VU
64			ダイシャクシギ								VU	VU		
65			ホウロクシギ							VU	VU			EN
66			ツルシギ							EN	EN			EN
67			アカアシシギ							CR	VU			VU
68			コアオアシシギ								VU			
69			タカブシギ							VU	VU			EN
70			メリケンキアシシギ											EN
71			キョウジョシギ							NT				
72			オバシギ											VU
73			ミュビシギ									NT	VU	
74			トウネン								NT			VU
75			オジロトウネン									VU		VU
76			ヒバリシギ									VU		CR
77			ウズラシギ									VU		EN
78			ハマシギ							VU	VU	VU		
79			ヘラシギ				国内			CR	CR			CR
80			キリアイ									VU		EN
81		エリマキシギ											CR	
82		タマシギ科	タマシギ						DD	VU	EN	EN		
83	ツバメチドリ科	ツバメチドリ							VU			CR	EN	
84	カモメ科	ズグロカモメ							VU		VU			
85		ウミネコ							VU					
86		オオセグロカモメ							EN		NT			
87		コアジサシ							EN	EN		EN	VU	
88	ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	国天						VU	CR				
89	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ							N-III		VU		
90		タカ科	ハチクマ						DD	VU		VU		
91			オジロワシ	国天	国内					VU	EN			

表 4-1-41(3) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準										
				1	2	3	4	5	6	7				
										越冬	繁殖	通過		
92	(タカ目)	(タカ科)	オオワシ	国天	国内			VU	N-II					
93			チュウヒ		国内			EN	EN	VU	CR			
94			ハイロチュウヒ						N-II	VU				
95			ツミ								NT			
96			ハイタカ					NT	VU	NT				
97			オオタカ					NT	NT	VU	VU			
98			サシバ					VU	VU		EN	NT		
99			イヌワシ		国天	国内			EN	CR				
100			クマタカ			国内			EN	VU	EN	EN		
101			フクロウ目	フクロウ科	オオコノハズク						DD	NT	VU	
102	コノハズク						希少		EN		CR	VU		
103	フクロウ								NT	NT	NT			
104	アオバズク								VU		EN	VU		
105	トラフズク									DD	EN			
106	コムミズク									EN	VU			
107	ブッポウソウ目	カワセミ科			アカショウビン						VU		VU	NT
108			ヤマセミ					VU	EN	CR	CR			
109		ブッポウソウ科	ブッポウソウ					EN	CR		CR	VU		
110	キツツキ目	キツツキ科	アリスイ						NT					
111			オオアカゲラ						NT	NT	VU			
112	ハヤブサ目	ハヤブサ科	コショウゲンボウ						N-III					
113			ハヤブサ		国内			NT	VU	NT	VU			
114	スズメ目	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ		国内			DD	EN		EN	VU		
115		サンショウクイ科	サンショウクイ						EN					
116		カササギヒタキ科	サンコウチョウ						NT					
117		モズ科	チゴモズ					EN	CR			CR		
118		ツバメ科	コシアカツバメ						VU					
119		ムシクイ科	イイジマムシクイ	国天				EN	VU					
120		センニュウ科	ウチヤマセンニュウ					VU	VU					
121			オオセッカ		国内			EN	EN	EN				
122		ヨシキリ科	コヨシキリ					NT			EX	CR		
123		キバシリ科	キバシリ							VU	EN			
124		ミソサザイ科	ミソサザイ							NT	VU			
125		カワガラス科	カワガラス							VU	VU			
126		ヒタキ科	マミジロ							VU		EX	EN	
127			クロツグミ									CR	NT	
128			アカハラ									EX		
129			アカコッコ	国天	国内				EN	DD				
130			コマドリ									EX	EN	
131			コルリ									VU	NT	
132			ノビタキ								N-II			
133			コサメビタキ								VU		NT	NT
134			セキレイ科	ピンズイ					NT			VU	EX	
135			ホオジロ科	ホオアカ								NT	EX	
136		カシラダカ							EN					
137		ミヤマホオジロ									NT			
138		ノジコ							NT				EX	EN

表 4-1-41(4) 文献により確認された鳥類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7		
										越冬	繁殖	通過
139	(スズメ目)	(ホオジロ科)	コジュリン					EN	VU	EN		
計	19目	42科	139種	10種	14種	0種	1種	77種	76種	54種	51種	43種

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

③ 両生類の重要な種

調査区域において確認記録のある両生類の重要な種はアカイシサンショウウオ、ナガレタゴガエル等の2目5科14種で、表4-1-42に示すとおりです。

なお、両生類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-42 文献により確認された両生類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	8
1	有尾目	サンショウウオ科	アカイシサンショウウオ		国内			EN	CR	CR	
2			ヒガシヒダサンショウウオ		第二			VU	VU	NT	
3			ハコネサンショウウオ						VU	NT	
4		イモリ科	アカハライモリ					NT	NT	NT	
5	無尾目	ヒキガエル科	アズマヒキガエル						N-III		
6		アカガエル科	タゴガエル						N-III		
7			ナガレタゴガエル				希少		DD	CR	
8			ニホンアカガエル						VU		○
9			ネバタゴガエル						N-III		
10			トノサマガエル					NT	NT		
11			ナゴヤダルマガエル					EN	CR	VU	○
12			ツチガエル						NT		
13		アオガエル科	モリアオガエル						NT	NT	
14			カジカガエル						NT	NT	
計	2目	5科	14種	0種	2種	0種	1種	5種	14種	8種	2種

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

④ 爬虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある爬虫類の重要な種はニホンイシガメ、ニホンスッポン等の2目10科17種で、表4-1-43に示すとおりです。

なお、爬虫類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-43 文献により確認された爬虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	8
1	カメ目	ウミガメ科	アカウミガメ					EN	CR	EN	○
2		イシガメ科	ニホンイシガメ					VU	NT	NT	
3			クサガメ						N-III		
4		ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ								
5		スッポン科	ニホンスッポン					DD	DD	DD	
6	有鱗目	ヤモリ科	ニホンヤモリ						N-III		
7		トカゲ科	ヒガシニホントカゲ						N-II		
8		カナヘビ科	ニホンカナヘビ								
9		タカチホヘビ科	タカチホヘビ							DD	
10		ナミヘビ科	シマヘビ								
11			アオダイショウ								
12			ジムグリ								
13			シロマダラ							DD	DD
14			ヒバカリ								
15			ヤマカガシ								DD
16			ナミヘビ科								
17		クサリヘビ科	ニホンマムシ								
計	2目	10科	17種	0種	0種	0種	0種	3種	7種	6種	1種

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

## ⑤ 魚類の重要な種

調査区域において確認記録のある魚類の重要な種はヤリタナゴ、カワバタモロコ等の9目19科51種で、表4-1-44(1)～(2)に示すとおりです。

なお、魚類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-44(1) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準									
				1	2	3	4	5	6	7	9		
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ北方種					VU	EN	EN※1			
2			スナヤツメ南方種					VU	EN	EN※1			
-			スナヤツメ類					VU※2	EN※2	EN			
3	カライワシ目	イセゴイ科	イセゴイ						N-III				
4	ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ					EN	EN	EN			
5			オオウナギ						N-III				
6	コイ目	コイ科	ヤリタナゴ			希少		NT	CR	CR			
7			アブラボテ					NT	DD	DD			
8			イチモンジタナゴ						CR		DD		
9			ゼニタナゴ		第一				CR				
10			カワバタモロコ		第二	希少			EN	CR	EN		
11			カワムツ							N-II			
12			タカハヤ							N-II			
13			タモロコ							N-II			
14			イトモロコ									NT	
15			ドジョウ科	ドジョウ科	ドジョウ類					NT※3	DD※3	VU※3	
16					ニシシマドジョウ						N-II	VU	
17					ヒガシシマドジョウ							N-II	
18					トウカイコガタスジシマドジョウ						EN	EN	EN
19			フクドジョウ科	フクドジョウ科	ホトケドジョウ					EN	EN	EN	
20	トウカイナガレホトケドジョウ							EN	EN	EN			
21	ナマズ目	アカザ科	アカザ					VU	EN	NT			
22	サケ目	シラウオ科	イシカワシラウオ						VU				
23		サケ科	ヤマトイワナ						CR				
24			サツキマス (アマゴ)					NT	VU	DD			
25	トゲウオ目	ヨウジウオ科	ガンテンイシヨウジ							N-III			
26			イッセンヨウジ								N-III		
27			テングヨウジ								N-III		
28	ダツ目	メダカ科	ミナミメダカ					VU	VU	VU			
29		サヨリ科	クルマサヨリ					NT	DD	DD			
30	スズキ目	アカメ科	アカメ					EN	N-III				
31		クロサギ科	ヤマトイトヒキサギ								DD		
32		ユゴイ科	ユゴイ							N-III			
33		カジカ科	カジカ科	カマキリ					VU	VU	EN		
34				カジカ					NT	NT	EN		
35				ウツセミカジカ (淡水性両側回遊型)						EN	VU	VU	
				ドソコ科	ドソコ								EN
37		カワアナゴ科	カワアナゴ科	カワアナゴ						N-III	NT		
38				チチブモドキ							N-III		
39				オカメハゼ							N-III		

表 4-1-44(2) 文献により確認された魚類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	9	
40	(スズキ目)	ハゼ科	イドミミズハゼ					NT	CR※4			
41			ヒモハゼ					NT	VU	VU		
42			コガネチワラスボ					EN※5	EN※6	DD※5		
43			トビハゼ					NT	CR	VU		
44			ボウズハゼ							VU		
45			ノボリハゼ							N-III		
46			ヒナハゼ							N-III		
47			クロコハゼ							N-III		
48			カワヨシノボリ							N-II		
49			オオヨシノボリ								NT	
50			ピリンゴ							N-II		
51			エトハゼ						VU	NT	NT	
計	9目	19科	51種	0種	2種	2種	0種	25種	44種	28種	1種	

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

注3) スナヤツメ類は、スナヤツメ北方種またはスナヤツメ南方種に該当するため、種数にカウントしていません。

※1 スナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種：記載種はスナヤツメ類

※2 スナヤツメ類：記載種はスナヤツメ北方種、スナヤツメ南方種

※3 ドジョウ類：記載種はドジョウ

※4 イドミミズハゼ：記載種はイドミミズハゼ類の1種

※5 コガネチワラスボ：記載種はチワラスボ

※6 コガネチワラスボ：記載種はチワラスボ属の1種 B、チワラスボ属の1種 C

⑥ 昆虫類の重要な種

調査区域において確認記録のある昆虫類の重要な種はベッコウトンボ、ヒメヒカゲ本州中部亜種等の10目61科185種で、表4-1-45(1)～(4)に示すとおりです。

なお、調査区域内で詳細な位置を特定できた重要な昆虫類は、ヨツボシトンボ、ハッチョウトンボの2種です。確認位置は図4-1-23に示すとおりです。

表4-1-45(1) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	8
1	トンボ目(蜻蛉目)	アオイトトンボ科	ホソミオツネトンボ						NT		
2			コバネアオイトトンボ					EN	CR	CR	
3			オツネトンボ						NT		
4		イトトンボ科	ベニイトトンボ					NT	CR	VU	
5			ヒヌマイトトンボ					EN	CR	EN	
6			モートンイトトンボ					NT	VU	VU	
7			オオイトトンボ						CR	EN	
8		モノサシトンボ科	グンバイトンボ					NT	CR	EN	
9		カワトンボ科	アオハダトンボ					NT	NT		
10			ニホンカワトンボ						EN		
11		ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ					NT	NT	NT	
12			アオヤンマ					NT	VU	CR	
13			カトリヤンマ						NT		
14		サナエトンボ科	キイロサナエ					NT	EN	VU	
15			ホンサナエ						VU		
16			タバサナエ					NT	VU		
17			フタスジサナエ					NT	EN	VU	
18			コサナエ						VU	VU	
19		エゾトンボ科	トラフトンボ						EN	VU	
20			キイロヤマトンボ					NT	CR	NT	
21			ハネヒロエゾトンボ					VU	VU	EN	
22			エゾトンボ						CR	CR	
23		トンボ科	ベッコウトンボ		国内				CR	CR	CR
24			ヨツボシトンボ						NT		
25			ハッチョウトンボ						EN		
26			キトンボ						CR	EN	
27			ノシメトンボ							NT	
28			マイコアカネ							NT	NT
29			マダラナニワトンボ						EN	N-I	CR
30			ミヤマアカネ								NT
31			オオキトンボ						EN	CR	CR
32	ゴキブリ目(網翅目)		オオゴキブリ科	オオゴキブリ							NT
33	カマキリ目(螳螂目)	カマキリ科	ウスバカマキリ					DD	DD		
34	ハサミムシ目(革翅目)	クギヌキハサミムシ科	クギヌキハサミムシ						N-I		
35	バッタ目(直翅目)	クツワムシ科	タイワンクツワムシ							NT	
36		キリギリス科	スルガツユムシモドキ						N-III		
37		コオロギ科	オオオカメコオロギ						DD		
38			クチナガコオロギ						NT		
39		ヒバリモドキ科	ハマズズ						NT	EN	
40		バッタ科	ヤマトマダラバッタ						NT	NT	

表 4-1-45(2) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	
41	(バッタ目(直翅目))	イナゴ科	ハネナガイナゴ						N-III			
42			カケガワフキバッタ						NT			
43			テカリダケフキバッタ						DD			
44			セグロイナゴ						N-III			
45	カメムシ目(半翅目)	アメンボ科	オオアメンボ							NT		
46			エサキアメンボ						NT	N-III	NT	
47			ハバアメンボ						NT	DD	VU	
48		イトアメンボ科	イトアメンボ						VU	N-I	VU	
49		ミズムシ科(昆)	ミズナシミズムシ						NT	N-III		
50			ホッケミズムシ						NT	VU	NT	
51			ミヤケミズムシ						NT	NT		
52		コオイムシ科	コオイムシ						NT	N-III		
53			タガメ		第二				VU	N-III	EN	
54		タイコウチ科	タイコウチ								NT	
55			ヒメタイコウチ							DD	NT	
56			ミズカマキリ								NT	
57		ナベブタムシ科	ナベブタムシ								NT	
58		ヘビトンボ目	センブリ科	ヤマトセンブリ						DD		
59		チョウ目(鱗翅目)	スカシバガ科	アシナガモモトスカシバ						VU		
60				セセリチョウ科	ホソバセセリ							
61	ギンイチモンジセセリ								NT	N-II	NT	
62	コキマダラセセリ									N-II	EN	
63	ミヤマチャバネセセリ										EN	
64	オオチャバネセセリ									N-II		
65	チャマダラセセリ								EN	EX	CR	
66	スジグロチャバネセセリ 北海道・本州・九州亜種								NT	EX	EN	
67	ヘリグロチャバネセセリ									CR		
68	シジミチョウ科		オナガシジミ								N-II	NT
69			キリシマミドリシジミ本 州以南亜種								DD	
70			オオミドリシジミ								NT	
71			ベニモンカラスシジミ中 部亜種						NT	EN		
72			ウラクロシジミ							NT	VU	
73			ウラナミアカシジミ							VU		
74			クロシジミ						EN	VU	CR	
75			ミヤマシジミ						EN	VU		
76			フジミドリシジミ							N-III	VU	
77			クロツバメシジミ東日本 亜種						NT	VU	EN	
78			シルビアシジミ						EN	EX	EX	
79	タテハチョウ科		コムラサキ							N-II		
80			ウラギンスジヒョウモン						VU	NT	VU	
81			オオウラギンスジヒョウ モン								NT	
82			ヒメヒカゲ本州西部亜種			希少	希少		EN	CR	EN	○
83			クモマベニヒカゲ本州亜 種						NT	N-II		
84			ベニヒカゲ本州亜種						NT	N-II		
85			ツマジロウラジャノメ本 州亜種							NT	DD	

表 4-1-45(3) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準								
				1	2	3	4	5	6	7	8	
86	(チョウ目 (鱗翅目))	(タテハチョウ科)	クロヒカゲモドキ					EN	N-II	EN		
87			ウラジャノメ本州亜種						NT	EN		
88			ヒメジャノメ						N-III			
89			サトキマダラヒカゲ						N-III			
90			クモガタヒョウモン						NT			
91			オオミスジ						N-II			
92			ホシミスジ東北・中部地方亜種						NT			
93			オオヒカゲ						N-I	NT		
94			オオムラサキ					NT	N-III	NT		
95			ギンボンヒョウモン本州亜種						N-III			
96			ウラナミジャノメ本土亜種					VU	EN	VU		
97			アゲハチョウ科	ギフチョウ					VU	VU	VU	
98			シロチョウ科	クモマツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種					VU	EN		
99				ツマグロキチョウ					EN		NT	
100	スジボソヤマキチョウ								CR			
101	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種						EN	VU				
102	ヤママユガ科	オナガミズアオ本土亜種					NT					
103	シャチホコガ科	カバイロシャチホコ					NT	NT	NT			
104	ヒトリガ科	マエアカヒトリ					NT					
105		シロホソバ					NT					
106	ヤガ科	クビグロケンモン					NT	NT				
107		コシロシタバ					NT	NT				
108		カギモンハナオイアツバ					NT					
109		オオチャバネトウ					VU	EN	NT			
110	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	タナカツヤハネゴミムシ					DD	N-III			
111			ジャアナヒラタゴミムシ					VU		EN		
112			リュウガシメクラチビゴミムシ						N-I			
113			オオヒョウタンゴミムシ					NT	NT	VU		
114		ハンミョウ科	カワラハンミョウ					EN	VU	EX		
115			アイヌハンミョウ					NT	N-III	VU		
116		ゲンゴロウ科	キボシケシゲンゴロウ					DD				
117			クロゲンゴロウ					NT	NT	VU		
118			ゲンゴロウ		第二			VU	EN	CR		
119			マルガタゲンゴロウ		第二			VU	N-I	EX		
120	シマゲンゴロウ						NT	N-III	CR			
121	コマルケシゲンゴロウ						NT	NT				
122	オオマルケシゲンゴロウ						NT					
123	ケシゲンゴロウ						NT	N-III				
124	ニセコケシゲンゴロウ						CR	VU				
125	キベリクロヒメゲンゴロウ						NT	NT				
126	キボシツブゲンゴロウ						NT	DD				
127	コウベツブゲンゴロウ						NT	NT				
128	ルイスツブゲンゴロウ						VU	VU				
129	キタノツブゲンゴロウ						EN	VU				
130	キベリマメゲンゴロウ						NT	N-III				

表 4-1-45(4) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	8
131	(コウチュウ目 (鞘翅目))	ミズスマシ科	オオミズスマシ					NT	VU	EN	
132			ヒメミズスマシ					EN	VU		
133			ミズスマシ					VU	VU	CR	
134			コオナガミズスマシ					VU		NT	
135		コガシラミズ ムシ科	クロホシコガシラミズムシ					VU	DD	CR	
136			コガシラミズムシ						DD		
137		コツブゲンゴ ロウ科	ムツボンツヤコツブゲンゴロウ					VU	N-III	NT	
138			キボシチビコツブゲンゴロウ					EN	VU	NT	
139		マルドロムシ 科	ヤマトマルドロムシ						DD		
140		ガムシ科	マルヒラタガムシ					NT	N-III		
141			スジヒラタガムシ					NT	N-III		
142			コガムシ					DD	NT		
143			ガムシ					NT	NT	CR	
144			シジミガムシ					EN			
145	シデムシ科		ヤマトモンシデムシ					NT	N- I	CR	
146	クワガタムシ 科	ツヤハダクワガタ中部亜種							CR		
147		ヒメオオクワガタ							CR		
148	コガネムシ科	アカマダラハナムグリ					DD	N-III	NT		
149		オオフタホシマダコガネ						N- I	EN		
150		ダイコクコガネ					VU	DD			
151		オオチャイロハナムグリ					NT	DD	VU		
152		ヒゲコガネ						NT			
153	ヒメドロムシ 科	アシナガミゾドロムシ						DD			
154	タマムシ科	トゲフタオタマムシ							NT		
155	コメツキムシ 科	アカアシコハナコメツキ							NT		
156	ホタル科	ヘイケボタル						N-III	DD		
157	ゴミムシダマ シ科	ヤマトオサムシダマシ					NT	NT			
158	カミキリムシ 科	ヒメヒロウドカミキリ					NT	DD	EX		
159		ケブカマルクビカミキリ						DD	NT		
160		ヒラヤマコブハナカミキリ							NT		
161		オオホソコバネカミキリ							NT		
162		ヒゲブトハナカミキリ							NT		
163		イワワキセダカコブヤハズカミ キリ							NT		
164		フタコブルリハナカミキリ							NT		
165		ヨツボシカミキリ					EN	VU	EN		
166		アサカミキリ					VU	N-III	EX		
167		ハムシ科	ガガブタネクイハムシ						NT		
168			ツヤネクイハムシ						DD		
169	ゾウムシ科	ハマベゾウムシ						NT	NT		
170		ハハスゲヒメゾウムシ						DD			
171	ハチ目 (膜翅 目)	セイボウ科	オオセイボウ					DD※			
172		アリ科	トゲアリ					VU			
173		スズメバチ科	キオビホオナガスズメバチ					DD			
174			ヤマトアシナガバチ					DD			
175			モンズズメバチ					DD			
176		クモバチ科	アケボノクモバチ					DD			
177			スギハラクモバチ					DD			
178			フタモンクモバチ					NT			
179			アオスジクモバチ					DD			

表 4-1-45(5) 文献により確認された昆虫類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	8
180	(ハチ目(膜翅目))	ギングチバチ科	アカオビケラトリバチ					NT			
181		ドロバチモドキ科	ヤマトスナハキバチ本土亜種					DD			
182		アナバチ科	フジジガバチ					NT			
183			キゴシジガバチ							NT	
184		ミツバチ科	クロマルハナバチ					NT			
185			ナミルリモンハナバチ					DD			
計	10目	61科	185種	0種	4種	1種	1種	108種	135種	99種	1種

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

※ オオセイボウ：記載種は、オオセイボウ本土亜種

⑦ 底生動物の重要な種

調査区域において確認記録のある底生動物の重要な種はマルタニシ、マシジミ等の9目22科36種で、表4-1-46に示すとおりです。

なお、底生動物については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-46 文献により確認された底生動物の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準									
				1	2	3	4	5	6	7	9		
1	古腹足目	ニシキウズガイ科	イボキサゴ					NT			EN		
2	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	ヒロクチカノコガイ					NT			VU		
3	新生腹足目	タニシ科	マルタニシ					VU	NT	NT			
4			オオタニシ					NT	NT				
5		ウミナ科	ウミナ					NT			NT		
6		トゲカワニナ科	タケノコカワニナ					VU	CR	EX			
7		カワニナ科	クロダカワニナ					NT	NT	NT			
8		キバウミナ科	フトヘナタリガイ					NT			NT		
9				ヘナタリガイ				NT			NT		
10				ワカウラツボ科	カワグチツボ					NT			NT
11		ミズツボ科	カワネミジンツボ					DD	DD	DD			
12		カワザンショウガイ科	クリイロカワザンショウガイ						NT			NT	
13				ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ					NT	NT	NT		
14				ヨシダカワザンショウガイ					NT	NT	VU		
15				エゾマメタニシ科	マメタニシ					CR	EN	CR	
16		ミズゴマツボ科	エドガワミズゴマツボ					NT			NT		
17		汎有肺目	オカミミガイ科	オカミミガイ					VU			EN	
18	ウスコミミガイ							NT	VU	VU			
19	モノアラガイ科		モノアラガイ					NT	NT	DD			
20	ヒラマキガイ科		ヒダリマキモノアラガイ					CR+EN	CR	EX			
21				カワゴザラガイ					CR		DD		
22				クロヒラマキガイ					DD				
23				ミズコハクガイ					VU	VU	VU		
24				ヒラマキミズマイマイ					DD	NT	NT		
25				ヒラマキガイモドキ					NT	NT	NT		
26	マイマイ目	スナガイ科	スナガイ					NT			VU		
27	イシガイ目	イシガイ科	ササノハガイ					VU			CR		
28			イシガイ						NT	CR			
29			マツカサガイ東海固有種					NT	CR	CR			
30	マルスダレガイ目	フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ					NT					
31		シジミ科	ヤマトシジミ					NT	NT				
32				マシジミ				VU	NT	DD			
33		マルスダレガイ科	ハマグリ					VU		NT			
34	ワラジムシ目	ウシオワラジムシ科	ニッポンヒイロワラジムシ									DD	
35	エビ目	オサガニ科	オサガニ									NT	
36			ヒメヤマトオサガニ										NT
計	9目	22科	36種	0種	0種	0種	0種	32種	18種	29種	3種		

注1) 種名及び配列は「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

⑧ その他の動物

(a) クモ類の重要な種

調査区域において確認記録のあるクモ類の重要な種はワスレナグモ、キノボリトタテグモ等の1目9科11種で、表4-1-47に示すとおりです。

なお、クモ類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-47 文献により確認されたクモ類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準						
				1	2	3	4	5	6	7
1	クモ目	ジグモ科	ワスレナグモ					NT	VU	VU
2		カネコトタテグモ科	カネコトタテグモ					NT	NT	VU
3		トタテグモ科	キノボリトタテグモ					NT	NT	VU
4			キノウエトタテグモ					NT	NT	VU
5		ユウレイグモ科	アケボノユウレイグモ						N-II	EN
6		ヒメグモ科	シロタマヒメグモ						N-II	EN
7		アシナガグモ科	ミドリアシナガグモ						N-II	
8		コガネグモ科	オニグモ						NT	
9			コガネグモ						NT	NT
10		タナグモ科	イナズマクサグモ						NT	
11		ナミハグモ科	エンシュウナミハグモ						N-II	
計	1目	9科	11種	0種	0種	0種	0種	4種	11種	7種

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

(b) 陸産貝類の重要な種

調査区域において確認記録のある陸産貝類の重要な種はホウライジギセル、オモイガケナマイマイ等の4目18科56種で、表4-1-48(1)～(2)に示すとおりです。

なお、陸産貝類については、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表4-1-48(1) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準							
				1	2	3	4	5	6	7	
1	オキナエビス目	ゴマオカタニシ科	ゴマオカタニシ					NT		NT	
2			ベニゴマオカタニシ					VU	NT	VU	
3		ヤマキサゴ科	ヤマキサゴ							VU	
4	ニナ目	ヤマタニシ科	トウカイヤマトガイ					VU	DD	VU	
5			サドヤマトガイ					NT		DD	
6		ムシオイガイ科	ムシオイガイ							NT	
7		カワザンショウガイ科	ホラアナゴマオカチグサガイ					CR+EN	NT		
8	オカミミガイ目	ケシガイ科	ケシガイ					NT		DD	
9	マイマイ目	オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ					NT	NT	NT	
10		キバサナギガイ科	クチマガリスナガイ					VU	NT		
11			ナタネキバサナギガイ					VU	NT	VU	
12			ヤマトキバサナギガイ					VU	VU	EN	
13			クチミゾガイ科	ナニワクチミゾガイ					NT	EN	VU
14		マキゾメガイ科	ヒラドマルナタネ							NT	
15		ナタネガイモドキ科	ナタネガイモドキ					NT	NT		
16		キセルガイモドキ科	フトキセルガイモドキ								DD
17			キセルガイモドキ								NT
18		キセルガイ科	オオギセル	オオギセル					NT		
19				ミカワギセル					NT		NT
20				ホウライジギセル					CR+EN	EN	CR
21				オクガタギセル					NT	NT	NT
22				ホソヤカギセル					NT		NT
23				ツバクロイワギセル					VU	VU	
24				ハチノコギセル					NT		NT
25				ツメギセル					NT		
26				チュウゼンジギセル					NT		
27				クビナギセル					VU		VU
28				エルベリギセル					DD		
29				ヒメギセル						NT	
30		ナメクジ科	イボイボナメクジ					NT	DD	NT	
31		オオコウラナメクジ科	オオコウラナメクジ					NT	DD	DD	
32			ヤマコウラナメクジ					NT	DD		
33		ベッコウマイマイ科	ミドリベッコウ					DD			
34			カントウベッコウ					DD		NT	
35			スカシベッコウ					NT		NT	
36			ハクサンベッコウ					DD		DD	
37			ヒメハリマキビ					NT		NT	
38			スジキビ					NT	NT	NT	
39			カサネシタラガイ					NT	NT	NT	
40	ウメムラシタラガイ						NT		NT		
41	ヒラシタラガイ						LP		VU		

表 4-1-48(2) 文献により確認された陸産貝類の重要な種

No.	目名	科名	種名	重要な種の選定基準						
				1	2	3	4	5	6	7
42	(マイマイ目)	(バッコウマイ マイ科)	オオウエキビ					DD		
43			タカキビ					NT		NT
44			ヒメカサキビ					NT		NT
45			サドタカキビ					DD	DD	
46	ニッポンマイ マイ科	ビロウドマイマイ	ビロウドマイマイ					DD		NT
47			ヒメビロウドマイマイ					VU		
48			キヌビロウドマイマイ					NT		
49			ミニビロウドマイマイ					VU	DD	VU
50			ミノブマイマイ					VU	VU	
51	オナジマイマ イ科	オモイガケナマイマイ	オモイガケナマイマイ		国内		希少	CR+EN	CR	CR
52			カドコオオベソマイマイ					NT		NT
53			コケラマイマイ					NT		
54			ミヤマヒダリマキマイマイ					VU	NT	VU
55			ミカワマイマイ					CR+EN	EN	CR
56			イシマキシロマイマイ					VU	NT	VU
計	4目	18科	56種	0種	1種	0種	1種	50種	25種	39種

注1) 種名及び配列は主に「日本産野生生物目録 無脊椎動物編Ⅲ」(環境庁、平成10年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-39に示すとおりです。

※1 コンボウギセルは亜種ミカワギセル(⑤NT、⑦NT)の可能性がります。

※2 ウスベニギセルは亜種エルベリギセル(DD)の可能性がります。

※3 ミヤマヒダリマキマイマイは記載種は亜種ミカワマイマイ(CR+EN)、亜種ミヤマヒダリマキマイマイ(VU)の可能性がります。

※4 ミヤマヒダリマキマイマイ：記載種は亜種ミカワマイマイ(EN)、亜種ミヤマヒダリマキマイマイ(NT)の可能性がります。

※5 ミヤマヒダリマキマイマイ：記載種は亜種ミカワマイマイ(CR)、ミヤマヒダリマキマイマイ(亜種ヒラヒダリマキマイマイ)(VU)の可能性がります。

⑨ 注目すべき生息地の状況

調査区域における注目すべき生息地は表 4-1-49、図 4-1-23 に示すとおりです。  
環境省が選定している「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(重要湿地)として、「浜名湖周辺湧水湿地群」、「浜名湖」が分布しています。

表 4-1-49 注目すべき生息地

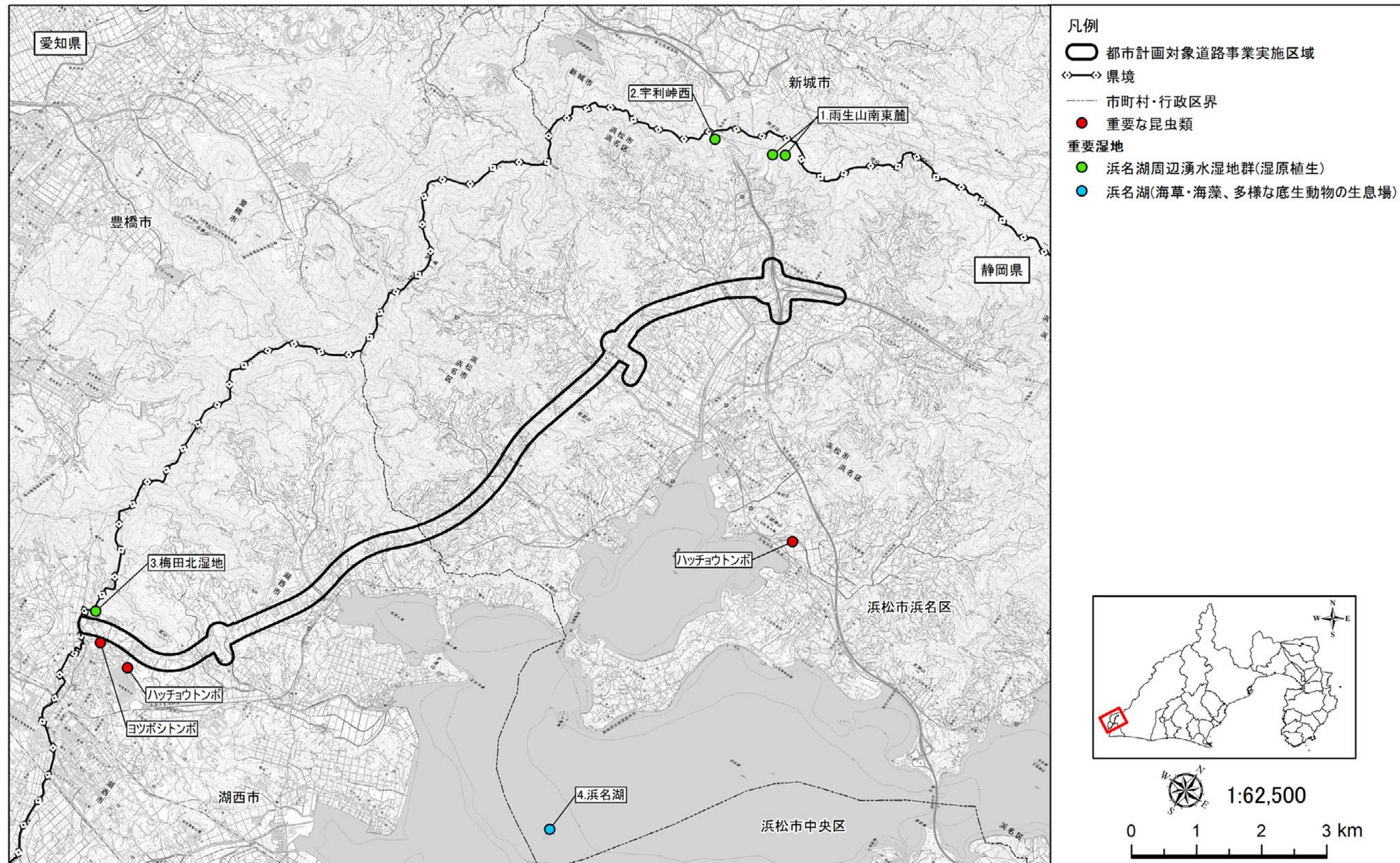
No	生息域		生物分類群	選定基準・理由	選定基準
1	浜名湖 周辺湧水 湿地群	雨生山南東麓	湿原植生	生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合。 ミカワバイケイソウ等東海丘陵要素植物の東限に位置するほか、湿生植物の生育地として重要。	2
2		宇利峠西			
3		梅田北湿地			
4	浜名湖		海草・海藻	生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合。 本州太平洋岸中部の潟湖アマモ場の典型。広大な汽水域に成立したアマモ場。	1
			底生動物	希少種、固有種等が生育・生息している場合。 砂泥底とアマモ場からなる環境に多様なベントスが生息する。イボキサゴが優占し、ナメクジウオやミドリシャミセンガイ、ミサキギボシムシ等が生息する。	2

注1) 選定基準は以下のとおりです。

1. 湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・砂浜・マングローブ湿地、藻場、さんご礁等の生態系のうち、生物の生育・生息地として典型的又は相当の規模の面積を有している場合
2. 希少種、固有種等が生育・生息している場合
3. 多様な生物相を有している場合(ただし、外来種を除く)
4. 特定の種の個体群のうち、相当な割合の個体数が生育・生息する場合
5. 生物の生活史の中で不可欠な地域(採餌場、繁殖場等)である場合

注2) 浜名湖周辺湧水湿地群の個別の湿地位置は、「東海地方の湧水湿地」(2019年 湧水湿地研究会)を参考に調査区域内に位置するものを図示しています。

出典) 「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省ホームページ)



出典) 「第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書」(環境庁、昭和56年)  
 「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」(環境省ホームページ)  
 「東海地方の湧水湿地」(2019年 湧水湿地研究会)

※ 各重要湿地の位置情報は、絶滅危惧種の保全等に留意し、おおよその代表地点を示したものです。  
 浜名湖周辺湧水湿地群の個別の湿地位置は、「東海地方の湧水湿地」(2019年 湧水湿地研究会)を参考に図示しています。

図 4-1-23 文献による重要な動物確認位置及び注目すべき生息地の位置図

### (3) 植物の生育及び植生の状況

#### 1) 植物相の状況

既存資料において、調査区域での確認記録のある植物はコシダ、コナギ、スダジイ、クチナシ、ノコンギク等の187科2,692種です。

当該地域に特徴的な種として、シデコブシ、ミカワバイケイソウ、シラタマホシクサ等の東海丘陵要素(東海地方の台地や丘陵地に形成された湿地に生育する種)やシライトソウ、ヒメシャラ、モチツヅジ等の襲速紀要素(ソハヤキ要素：中央構造線の太平洋側に沿って北上した暖地性の植物で九州中南部・四国南部・紀伊半島・東海地方に分布の中心がある種)の種が含まれています。

#### 2) 植生の状況

環境省が実施した「第6回自然環境保全基礎調査植生調査」及び「第7回自然環境保全基礎調査植生調査」に基づく植生図を図4-1-24に示します。

事業実施区域及びその周囲は、奥浜名湖をとりまく山地・丘陵地となっており、果樹園やスギ・ヒノキ・サワラ植林、コナラ群落(VII)、シイ・カシ二次林等が分布しています。事業実施区域の北側の丘陵の尾根部には、アカマツ群落(VII)が分布します。

浜名湖に注ぐ河川周辺には水田雑草群落、浜名湖岸にはわずかにヨシクラスの植生が見られます。その他、低地部や丘陵地下部では、市街地や緑の多い住宅地、畑雑草群落が分布します。

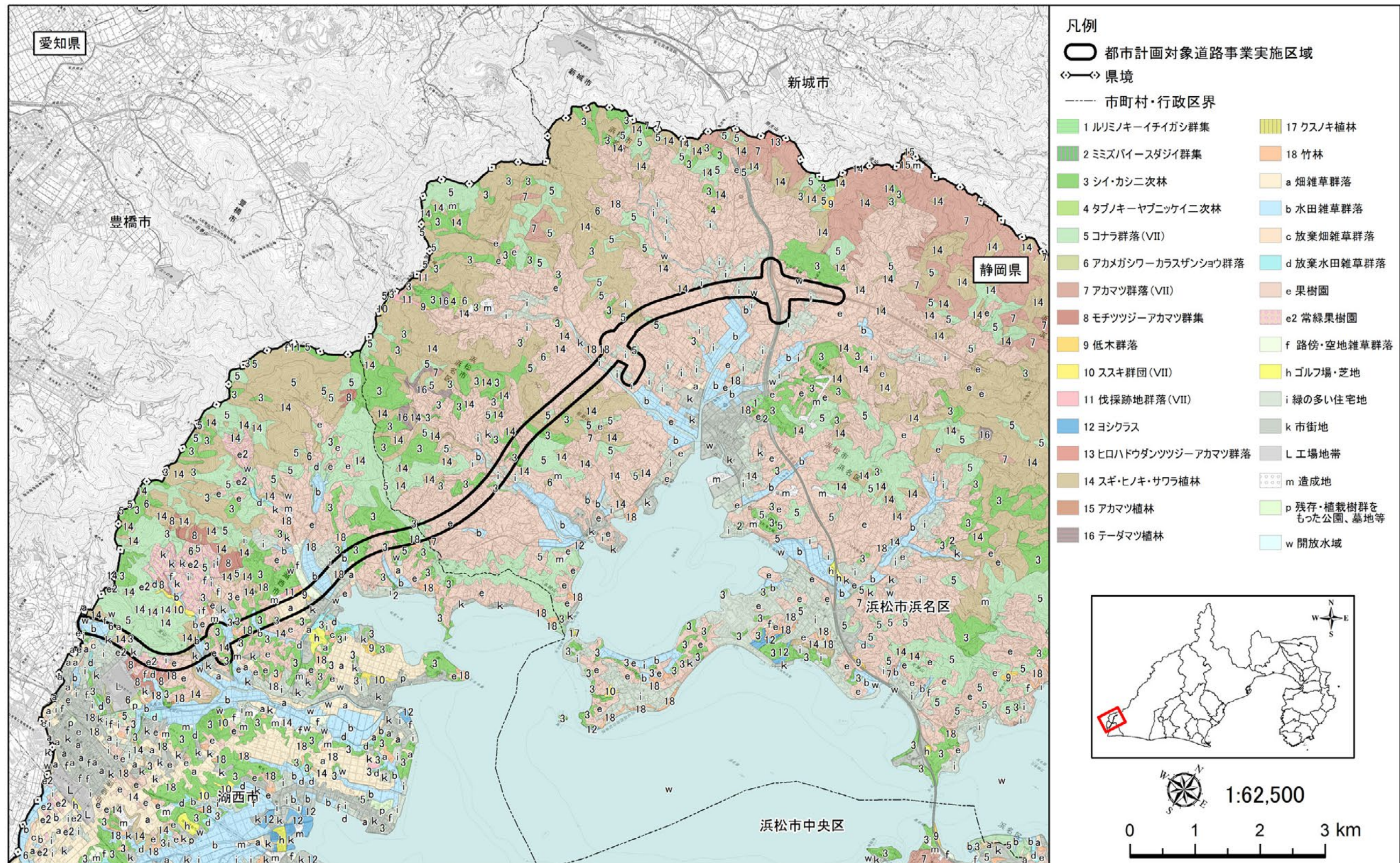


図 4-1-24 植生図

### 3) 植物の重要な種

植物の重要な種の選定基準を表 4-1-50(1)～(2)に示します。

調査区域において確認記録のある植物の重要な種はホテイラン、ナガバノイシモチソウ等の 130 科 679 種で、表 4-1-51(1)～(11)に示すとおりです。また、トキワマンサク北限群生地等の天然記念物の確認状況及び確認位置は、「4) 重要な植物群落等 ③ 文化財指定されている樹木等(天然記念物)」に示します。

なお、調査区域では詳細な位置を特定できる文献情報は得られませんでした。

表 4-1-50(1) 植物の重要な種の選定基準

植物の重要な種の選定基準		
①	「文化財保護法」(昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日号外法律第 68 号)に基づく天然記念物及び特別天然記念物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別天然記念物(特天)</li> <li>・天然記念物(天)</li> </ul>
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成 4 年 6 月 5 日法律第 75 号、最終改正：令和 4 年 6 月 17 日号外法律第 68 号)及び「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(平成 5 年 2 月 10 日政令第 17 号、最終改正：令和 7 年 1 月 22 日号外政令第 9 号)に基づく国内希少野生動植物種等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内希少野生動植物種(国内)</li> <li>・緊急指定種(緊急)</li> </ul>
③	「静岡県希少野生動植物保護条例」(平成 22 年 8 月 6 日条例第 37 号、最終改正：令和 6 年 10 月 25 日条例第 45 号)に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県指定種(県指)</li> </ul>
④	「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和 48 年 3 月 30 日愛知県条例第 3 号、最終改正：令和 7 年 3 月 25 日条例第 1 号)に基づく指定希少野生動植物種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県指定種(県指)</li> </ul>
⑤	「第 5 次レッドリスト(植物・菌類)」(環境省、令和 7 年 3 月)の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX：絶滅</li> <li>・EW：野生絶滅</li> <li>・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR：絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN：絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU：絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT：準絶滅危惧</li> <li>・DD：情報不足</li> <li>・LP：絶滅のおそれのある地域個体群</li> </ul>
⑥	「まもりたい静岡県の野生生物 2020—静岡県レッドデータブック<植物・菌類編>—」(静岡県暮らし・環境部環境局自然保護課、令和 2 年 3 月)の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EX：絶滅</li> <li>・EW：野生絶滅</li> <li>・CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・CR：絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・EN：絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・VU：絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・NT：準絶滅危惧</li> <li>・DD：情報不足</li> <li>・LP：地域個体群</li> </ul> 要注目種：(静岡県独自の 카테고리) <ul style="list-style-type: none"> <li>・N-I：現状不明</li> <li>・N-II：分布上注目種等</li> <li>・N-III：部会注目種</li> </ul>

表 4-1-50(2) 植物の重要な種の選定基準

植物の重要な種の選定基準		
⑦	「レッドリストあいち 2025」(愛知県環境局環境政策部自然環境課、令和7年3月)の掲載種	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EX : 絶滅</li> <li>・ EW : 野生絶滅</li> <li>・ CR+EN : 絶滅危惧Ⅰ類</li> <li>・ CR : 絶滅危惧ⅠA類</li> <li>・ EN : 絶滅危惧ⅠB類</li> <li>・ VU : 絶滅危惧Ⅱ類</li> <li>・ NT : 準絶滅危惧</li> <li>・ DD : 情報不足</li> <li>・ LP : 地域個体群</li> </ul>
⑧	「静岡県立自然公園条例」(昭和36年10月4日静岡県条例第53号、最終改正:令和6年10月25日条例第45号)に基づく浜名湖県立自然公園の特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ○ : 静岡指定</li> </ul>

表 4-1-51(1) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
1	ヒカゲノカズラ科	ミズスギ									○
2		アスヒカズラ						N-III	VU		
3		スギラン					VU	VU	VU		○
4		ヒモラン					EN	CR	CR		
5	イワヒバ科	エゾノヒメクラマゴケ							EN		
6		イワヒバ									○
7	ミズニラ科	ミズニラ					NT	VU	NT		○
8	トクサ科	イヌスギナ							VU		
9	ハナヤスリ科	ナガホノナツノハナワラビ								NT	
10		ハマハナヤスリ						N-III			○
11		ヒロハハナヤスリ								VU	
12	マツバラ科	マツバラ					NT	VU	VU		○
13	コケシノブ科	コケホラゴケ					NT			VU	
14		チチブホラゴケ						N-III	EN		
15		オオハイホラゴケ						N-III			
16	デンジソウ科	デンジソウ					NT	CR	CR		○
17	サンショウモ科	オオアカウキクサ					EN	VU	CR	CR	○
18		アカウキクサ					EN	VU	CR		○
19		サンショウモ					NT	VU	EN		○
20	キジノオシダ科	ヤマソテツ						CR	VU		
21	ホングウシダ科	エダウチホングウシダ						N-III			○
22	コバノイシカグマ科	ユノミネシダ							VU		○
23		イシカグマ									NT
24	イノモトソウ科	タキミシダ					VU	VU	EN		
25		ナカミシラン							VU	EN	
26		アイコハチジョウシダ							VU		
27		マツサカシダ								EN	
28		ハチジョウシダモドキ							VU		
29		ナチシダ									
30	ナヨシダ科	エビラシダ								CR	
31		イワウサギシダ							VU		
32	チャセンシダ科	カミガモシダ						EN	EN		○
33		ヒノキシダ							VU	EN	
34		オクタマシダ					VU			VU	
35		イチョウシダ					NT	EN			
36		コタニワタリ						N-III	EN		
37		テンリュウヌリトラノオ					VU	NT	EN		
38		アオチャセンシダ							N-I		
39		ホウビシダ								VU	
40	ヒメシダ科	ミヤマワラビ								NT	
41		ヒメハシゴシダ						N-II			
42		テツホシダ						N-III	EX		○
43		ミゾシダモドキ						N-III			
44	オオバショリマ								CR		
45	イワデンダ科	コガネシダ						EN	EN		
46	メシダ科	テバコワラビ					VU	VU			
47		ミヤマメシダ								CR	
48		イワイヌワラビ							N-III		
49		ルリデライヌワラビ							EN		
50		コヒロハシケシダ								VU	
51		ミドリワラビ							EN	CR	
52		ニセコクモウクジャク							VU	VU	○
53		ウスバミヤマノコギリシダ							N-III	VU	
54		イヨクジャク					EN	VU	CR		
55		ミヤマシダ								EX	
56		コクモウクジャク								VU	
57	オシダ科	メヤブソテツ							EN		
58		ヒロハヤブソテツ							VU	VU	
59		ツクシヤブソテツ							VU		
60		ツクシイワヘゴ							N-III	NT	○
61		シラネワラビ								NT	
62		タカサゴシダ					NT	N-II	EN		○
63		サクライカグマ								CR	
64		ヌカイタチシダ								NT	

表 4-1-51(2) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
65	(オンダ科)	ヌカイタチシダモドキ						N-III			
66		ワカナシダ							EN		
67		アツギノヌカイタチシダマガイ						VU		○	
68		ヌカイタチシダマガイ						VU		○	
69		タニヘゴ						VU		○	
70		ナンカイイタチシダ							NT		
71		ヒロハアツイタ					VU	EN			
72		ホソイノデ							EN		
73		オリヅルシダ								EX	
74		フジイノデ						N-II			
75		オニイノデ					VU	EN			
76		ウラボシ科	アオネカズラ						N-III		
77			ミョウギシダ					VU	EN		
78			ヤノネシダ							NT	
79			ナガオノキシノブ							VU	
80	ホテイシダ								NT		
81	クラガリシダ						EN	EN	EN		
82	コウラボシ									○	
83	イシガギコウラボシ								VU		
84	イワヒトデ									○	
85	オオクボシダ								NT		
86	ヒロハヒメウラボシ						CR	CR			
87	イワオモダカ								EN		
88	タカノハウラボシ							VU			
89	マツ科	ウラジロモミ							NT		
90		ハリモミ							VU		
91	コウヤマキ科	コウヤマキ							NT		
92	ヒノキ科	ハイネズ							VU		
93		ネズミサシ							NT		
94	イチイ科	イチイ							EN		
95	ジュンサイ科	ジュンサイ						NT		○	
96	スイレン科	オニバス					VU	VU	CR		
97		コウホネ							EN		
98		ヒメコウホネ					CR	DD	CR		
99		ヒツジグサ							EN	○	
100	ウマノスズクサ科	オオバウマノスズクサ							VU		
101		カギガタアオイ					EN	VU			
102		ヒメカンアオイ								○	
103		イワタカンアオイ					EN	VU	EN	○	
104		ウスバサイシン							N-III		
105		テンリュウカンアオイ							DD		
106	モクレン科	オオヤマレンゲ						EN			
107		シデコブシ					NT		VU		
108	クスノキ科	バリバリノキ						N-III	VU	○	
109		シロモジ						VU			
110		アオガシ							DD		
111	サトイモ科	シコクヒロハテンナンショウ					CR	EN			
112		ヒトツバテンナンショウ							VU	CR	
113		ユモトマムシグサ								EN	
114		ミツバテンナンショウ							N-III		
115		ヒンジモ					EN	VU		○	
116		ミズバショウ							N-I		
117	チシマゼキショウ科	イワショウブ							VU	○	
118	オモダカ科	マルバオモダカ					VU	CR	EN	○	
119		アギナシ					NT	VU		○	
120	トチカガミ科	マルミスブタ					VU	VU	VU	○	
121		スブタ						VU	VU	CR	○
122		トチカガミ					NT	VU	EN	○	
123		ムサシモ					EN	EN	EN	○	
124		ヒロハトリゲモ					NT		VU	○	
125		イトトリゲモ					NT	VU	NT	○	
126		イバラモ							N-I	CR	○
127		トリゲモ						VU	VU		○
128			ミズオオバコ					NT	N-III		

表 4-1-51(3) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
129	シバナ科	シバナ					NT	CR	NT	○
130	アマモ科	コアマモ						NT		○
131	ヒルムシロ科	イトモ					NT	VU	NT	○
132		ヒルムシロ							NT	
133		オヒルムシロ							VU	
134		ヒロハノエビモ						N- I		
135		ツツイトモ					VU	VU		○
136		リュウノヒゲモ					NT	EN		
137		イトクズモ					VU	VU	CR	○
138	カワツルモ科	カワツルモ					NT	VU	NT	○
139	ヒナノシヤクジョウ科	ヒナノシヤクジョウ						N-III	NT	○
140	ヤマノイモ科	キクバドコロ							VU	
141	ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ					NT	EN		○
142	タヌキノシヨクダイ科	タヌキノシヨクダイ					CR	CR		
143	シュロソウ科	シライトソウ								○
144		チャボシライトソウ					VU	EN	EN	
145		エンレイソウ							EN	
146		ミカワバイケイソウ					VU	EN	EN	○
147	ユリ科	ヒロハノアマナ					VU	CR	EN	○
148		カタクリ						N-III		○
149		ミノコバイモ					VU		EN	
150		コシノコバイモ						EN	CR	
151		ヒメアマナ					EN	EN		
152		キバナノアマナ						VU	EN	
153		ササユリ								○
154		スカシユリ								○
155		ホソバナアマナ						N-III	EN	
156		チャボホトトギス						VU		
157	アマナ						N-III			
158	ラン科	ヒナラン					VU	EN	CR	
159		イワチドリ					EN	CR	EN	
160		シラン					NT	NT	NT	○
161		マメヅタラン					NT	NT		○
162		ムギラン					NT	NT		
163		ミヤマムギラン					NT	NT	VU	○
164		キソエビネ					CR	CR		
165		キエビネ					VU	CR		
166		エビネ					NT	NT	NT	○
167		キンセイラン				県指	VU	CR	CR	
168		ナツエビネ					VU	VU	VU	○
169		ホテイラン				県指	EN	CR		
170		ギンラン						N-III		○
171		キンラン					NT	NT	NT	○
172		ササバギンラン							NT	
173		ユウシュンラン					NT	EN	VU	
174		シュンラン								○
175		マヤラン					VU	EN	CR	
176		ナギラン					VU	VU	CR	○
177		コアツモリソウ					NT	VU	EN	
178		クマガイソウ					VU	VU	VU	○
179		イチヨウラン						VU	NT	
180		セッコク						NT	NT	
181		サワラン						CR	CR	○
182		ハコネラン					EN	EN		
183		コイチヨウラン							EN	
184		カキラン								○
185		タシロラン					NT	NT	NT	○
186		カモメラン					NT	EN		
187		カシノキラン					VU	EN	CR	
188		マツラン					VU	VU	EN	
189	モミラン					VU	VU			
190	アキザキヤツシロラン							VU	○	
191	ナヨテンマ					EN	EN	CR		
192	ハルザキヤツシロラン					VU	VU	EN	○	
193	クロヤツシロラン						NT		○	

表 4-1-51(4) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
194	(ラン科)	ベニシユスラン							N-III	VU	
195		アケボノシユスラン							N-III		○
196		ヒロハツリシユスラン					EN		EN		
197		ミヤマウズラ									○
198		シユスラン							N-III	VU	○
199		ダイサギソウ					EN		EN		
200		オオミズトンボ					EN		EN	EX	
201		ミズトンボ					NT		VU	VU	○
202		ムカゴソウ							VU	VU	CR
203		ムヨウラン									○
204		ウスキムヨウラン						NT	NT	VU	○
205		クロムヨウラン						VU	クロムヨウランに和名		○
206		エンシュウムヨウラン							VU		
207		フガクスズムシソウ						VU	EN	CR	
208		セイタカスズムシソウ							EN	EN	
209		ジガバチソウ									○
210		クモキリソウ									○
211		スズムシソウ							VU	CR	
212		コ克蘭									○
213		クモイジガバチ						CR	CR		
214		ホザキイチヨウラン							N-III		
215		アリドオシラン							N-III		
216		フウラン						NT	VU	EN	
217		ノビネチドリ							N-III	EN	
218		コフタバラン								VU	
219		ヒメフタバラン							N-III		○
220		アオフタバラン							N-III		
221		ムカゴサイシン						NT	CR	EN	
222		ヨウラクラン									○
223		コハ克蘭			国内			CR	N-III		
224		サギソウ						NT	VU	VU	○
225		ムカデラン						VU	VU	EN	
226		ムカゴトンボ						EN	CR	EX	
227		ガンゼキラン						VU	CR		
228		イイヌمامカゴ						EN	EN	EN	
229		ツレサギソウ							VU	CR	
230		ヤマサギソウ						VU		VU	○
231		タカネサギソウ							N-II		
232		コバノトンボソウ									○
233		オオヤマサギソウ							VU	VU	
234		トンボソウ									○
235		トキシウ						NT	EN	EN	○
236		ヤマトキシウ							VU	VU	○
237		ヒナチドリ						VU	EN	CR	
238		ウチョウラン						NT	VU	EN	
239	ニョホウチドリ						NT	VU			
240	クモラン									○	
241	カヤラン									○	
242	ヒトツボクロ							N-III		○	
243	キバナノショウキラン						EN	VU			
244	カゲロウラン						NT	VU	EN	○	
245	アヤメ科	ヒオウギ							EN	○	
246		ノハナショウブ								○	
247		ヒメシヤガ					NT	EN			
248	カキツバタ					NT	VU	VU	○		
249	ススキノキ科	ユウスゲ								○	
250		ゼンテイカ							EN		
251	ハマカンゾウ									○	
252	ヒガンバナ科	ステゴビル					VU	EN	EN	○	
253		ヒメニラ							N-III	NT	
254	オオキツネノカミソリ							N-III			
255	クササギカズラ科	ウラジロギボウシ				県指	EN	DD	CR		
256		アキギボウシ								VU	
257		ミズギボウシ								○	
258		マイヅルソウ								NT	

表 4-1-51(5) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
259	(クサスギカズラ科)	ワニグチソウ								EN	
260	ツユクサ科	マルバツユクサ									○
261	ミズアオイ科	ミズアオイ					NT	VU	CR		○
262	ガマ科	ミクリ					NT	NT	EN		○
263		オオミクリ					VU	VU			○
264		ヤマトミクリ					NT	VU	VU		
265		ナガエミクリ					NT	NT			○
266		ヒメミクリ					VU	VU	CR		○
267	ホシクサ科	クロイヌノヒゲ					NT	NT			
268		ゴマシオホシクサ					VU	EN			
269		シラタマホシクサ					VU	VU	VU		○
270		クロホシクサ					NT	EN	EN		○
271	イグサ科	イヌイ						N-I	CR		
272	カヤツリグサ科	コウキヤガラ							N-III		○
273		イトテンツキ					NT	VU	NT		
274		トダスゲ					CR	EN	EX		
275		ハリガネスゲ							VU		○
276		サナギスゲ							VU		
277		ヤマアゼスゲ							N-III		
278		ホソバヒカゲスゲ							VU		○
279		サワヒメスゲ							VU		○
280		キシウナキリスゲ					VU	VU	NT		○
281		マンシュウクロカワスゲ					EN	N-III			
282		タカネマスクサ								EN	
283		ヒメモエギスゲ								VU	
284		ヤブスゲ							N-III	EN	
285		オオクグ						NT	EN		○
286		ジングウスゲ						NT	VU	NT	○
287		ニシノホンモンジスゲ							N-II	VU	
288		アオヒエスゲ								VU	
289		ヒメアオガヤツリ							N-III	CR	
290		ヌマガヤツリ								VU	
291		シロガヤツリ							N-III		○
292		ヒメガヤツリ								VU	
293		カガシラ						VU	VU	CR	○
294		セイタカハリイ								VU	
295		マシカクイ							N-II	VU	○
296		クジュウクリテンツキ								N-III	
297		クグテンツキ								VU	
298		イッスンテンツキ						CR	CR	CR	○
299		ナガボテンツキ								CR	
300		ビロードテンツキ								VU	
301		トネテンツキ						VU	EN	VU	
302		トラノハナヒゲ								CR	
303		オオイヌノハナヒゲ								VU	
304		ミクリガヤ						CR	EN	CR	○
305	ハタベカンガレイ						VU	VU	CR		
306	タイワンヤマイ							N-I			
307	ノグサ								EN		
308	コマツカサススキ								N-III	○	
309	マツカサススキ								N-III		
310	ミカワシンジュガヤ						VU	EN	VU	○	
311	コシンジュガヤ								VU		
312	ケシンジュガヤ								N-III		
313	イネ科	ヒロハノハネガヤ								VU	
314		ヒメコヌカグサ					NT	NT			○
315		ミギワトダシバ					NT	VU			
316		コウヤザサ							N-III		○
317		ヒゲノガリヤス							N-I		
318		ヒナザサ						NT	VU	VU	
319		コゴメカゼクサ								CR	
320		ウンヌケモドキ					NT	VU	VU	VU	○
321		ウンヌケ					VU	VU	NT		○
322		オオトボシガラ							N-III		
323		アズマガヤ								VU	

表 4-1-51(6) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準										
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧			
324	(イネ科)	カモノハシ								VU			
325		ナリヒラダケ								VU			
326		ハマエノコロ								NT			
327		ヒゲシバ								VU			
328		オニシバ								NT			
329	ケシ科	ツルケマン							EN				
330		ヤマキケマン							N-I	EN			
331	ツヅラフジ科	ハスノハカズラ							N-III		○		
332	メギ科	ヒロハヘビノボラズ							EN				
333		ルイヨウボタン									VU		
334		イカリソウ								VU	○		
335	キンボウゲ科	ヤマトリカブト									EN		
336		キタザワブシ						VU	N-III				
337		ルイヨウショウマ									EN		
338			フクジュソウ							VU			
339			イチリンソウ							N-III			
340			キクザキイチゲ							N-III			
341			アズマイチゲ							N-III	NT		
342			レンジョウマ							N-III	EN		
343			フジセンニンソウ								VU		
344			カザグルマ						NT	VU	EN	○	
345			クサボタン								EN		
346			ハコネシロカネソウ						NT	VU			
347			セツブンソウ						NT	VU	VU		
348			ミスミソウ						NT	VU	NT	○	
349			オキナグサ						NT	EN	CR	○	
350			シギンカラマツ								NT		
351			ヒメカラマツ							N-II			
352			オオカラマツ							N-III			
353			タマカラマツ						EN	VU	CR		
354	アワブキ科	ヤマビロ									EN		
355	ヤマモガシ科	ヤマモガシ									VU		
356	ツゲ科	ツゲ							N-III	VU	○		
357		フッキソウ								VU			
358	ボタン科	ヤマシャクヤク						NT	NT	VU			
359		ベニバナヤマシャクヤク						VU	CR	EN		○	
360	マンサク科	コウヤミズキ								VU		○	
361		マンサク										○	
362		トキワマンサク								EN		○	
363	スグリ科	ヤシャビシヤク						NT	VU	EN			
364		ヤブサンザシ								VU	EN		
365	ユキノシタ科	キバナハナネコノメ						NT	NT	NT			
366		ツルネコノメソウ									VU		
367		ミカワチャルメルソウ								N-II			
368	ベンケイソウ科	アズマツメクサ						NT	N-III	EN			
369		ツメレンゲ						NT	NT	NT			
370		マツノハマネンゲサ							NT	VU			
371	タコノアシ科	タコノアシ						NT	NT	NT			
372	アリノトウグサ科	タチモ							NT	EN	NT	○	
373		フサモ								N-III			
374	マメ科	モメンヅル								N-I			
375		ハマナタマメ									EN		
376		シバハギ									CR		
377		ミヤマトベラ								VU	EN		
378		サイカチ									VU		
379		オオバヌスビトハギ									VU		
380		イタチササゲ									VU		
381		レンリソウ								VU	VU		
382		イヌハギ							NT	EN	VU	○	
383		マキエハギ										○	
384		ミソナオシ									VU		
385		ノハラクサフジ									EN		
386		ヨツバハギ									VU		
387		オオバクサフジ									NT		
388		ヒメハギ科	ヒナノカンザシ								VU		○

表 4-1-51(7) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準								
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
389	グミ科	アリマグミ								VU	○
390	クロウメモドキ科	ケンボナシ								EN	
391	アサ科	コバノチョウセンエノキ							EN	EN	
392		カラハナソウ							N-III		
393	クワ科	カジノキ								EN	
394	イラクサ科	ヤナギイチゴ								NT	
395	バラ科	ヤマブキショウマ								EN	
396		ミヤマザクラ								NT	
397		シモツケソウ								EN	
398		イワキンバイ								VU	
399		ヒロハノカワラサイコ					VU	N-I	CR		
400		ミヤコイバラ									○
401		ミヤマモミジイチゴ					NT	N-III			
402		ミヤマワレモコウ						VU	EN		
403		ナガボノワレモコウ						N-III			
404		アイズシモツケ								EN	
405		イワシモツケ								CR	
406	ブナ科	ナラガシワ								EN	
407	カバノキ科	サクラバハンノキ					NT	NT			○
408		ウダイカンバ								VU	
409		オノオレカンバ								VU	
410		ハシバミ						N-I			
411	ウリ科	ミヤマニガウリ						N-III			
412	ニシキギ科	ウメバチソウ									○
413	カタバミ科	コミヤマカタバミ								NT	
414		ミヤマカタバミ								NT	
415	ホルトノキ科	ホルトノキ								VU	
416	トウダイグサ科	ノウルシ					NT	VU			○
417	コミカンソウ科	ヒトツバハギ						EN	VU	VU	○
418	ヤナギ科	キヌヤナギ								NT	
419	スマレ科	アリアケスマレ									○
420		ナガバノスマレサイシン									○
421		ヒゴスマレ							N-III		
422		エイザンスミレ									○
423		サクラスマレ							VU	NT	
424		ヒメスマレ									○
425		コスミレ									○
426		マルバスマレ									○
427		スマレ									○
428		ニオイタチツボスマレ									○
429		キスマレ							VU	CR	○
430		ナガバタチツボスマレ									○
431		シロスマレ									CR
432		アカネスマレ									○
433		オカスマレ									○
434		ミヤマスマレ							EN		
435		フモトスマレ									○
436		フジスマレ							N-I		
437		マキノスマレ									○
438		シハイスミレ									○
439		ノジスマレ									○
440	オトギリソウ科	コオトギリ							NT		
441		アゼオトギリ					EN	EN	EN		
442	フウロソウ科	イヨフウロ					NT	N-III			
443		ミツバフウロ								EN	
444	ミソハギ科	ヒメミソハギ								NT	
445		ミズスギナ					CR	DD	EX		
446		ミズマツバ					NT	NT			○
447		ミズキカシグサ					NT	EN	VU		○
448		ヒメビシ					VU	EN	EN		○
449		アカバナ科	ウスゲチョウジタデ					NT	NT		
450	ムクロジ科	ホソエカエデ								VU	
451		カジカエデ								NT	
452		ハウチワカエデ								VU	
453		メグスリノキ								VU	

表 4-1-51(8) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
454	ミカン科	タチバナ					NT	EN	EN	
455	アオイ科	ハマボウ							VU	○
456	ジンチョウゲ科	コショウノキ								○
457		チョウセンナニワズ					VU	VU		
458		ガンピ								○
459	アブラナ科	カンラン					CR	CR	EX	
460		コンロンソウ							EN	
461		ミズタガラシ							NT	
462		エゾハタザオ						VU		
463		クモナズナ					VU			
464		ツチトリモチ科	ミヤマツチトリモチ					VU	VU	CR
465	タデ科	オオツルイタドリ							EX	
466		サイコクヌカボ					NT	VU	NT	
467		ヤナギヌカボ					NT	NT		○
468		ナガバノウナギツカミ					NT	N-III	NT	
469		ヌカボタデ					VU	VU	VU	○
470		オオミゾソバ							NT	
471		コギシギシ					NT	EN		○
472		マダイオウ							EN	
473	モウセンゴケ科	ナガバノイシモチソウ				県指	VU	EN	CR	○
474		シロバナナガバノイシモチソウ				県指			CR	
475		イシモチソウ					NT	VU	EN	○
476		モウセンゴケ								○
477		コモウセンゴケ								○
478		トウカイコモウセンゴケ							○	
479	ナデシコ科	オオヤマフスマ							VU	
480		ヒゲネワチガイソウ						N-III	EN	
481		オオビランジ					NT	VU		
482	ヒユ科	ホソバハマアカザ						N-III		
483		マルバアカザ							NT	
484		カワラアカザ							NT	
485		ミドリアカザ					CR	N-III		
486		イワアカザ					CR		CR	
487	アジサイ科	ピロードノリウツギ							VU	
488		バイカアマチャ							NT	
489	ツリフネソウ科	エンシュウツリフネソウ					CR	VU		
490	カキノキ科	トキワガキ								○
491	サクラソウ科	オオツルコウジ					EN	EN	DD	
492		クリンソウ						EN	NT	
493		クモイコザクラ					VU	VU		
494		コイワザクラ					VU	VU		
495		シナノコザクラ					NT	VU		
496		ハイノキ科	クロミノニシゴリ						NT	
497	カンザブロウノキ								VU	○
498	イワウメ科	ヤマイワカガミ								○
499		イワウチワ						N-I		
500	ツツジ科	サラサドウダン							NT	
501		カイナンサラサドウダン						VU		
502		シャクジョウソウ							NT	○
503		ハナヒリノキ							VU	
504		ギンリョウソウモドキ								○
505		ギンリョウソウ								○
506		ベニバナイチヤクソウ							CR	
507		ミツバツツジ								○
508		サツキ								○
509		キョウマルシャクナゲ					VU	VU		
510		ヤマツツジ								○
511		モチツツジ								○
512		ホソバシャクナゲ					VU	NT	VU	
513		エンシュウシャクナゲ						NT		
514		コバノミツバツツジ								○
515		ジンГУウツツジ					VU	VU	EN	
516		オオヤマツツジ							VU	○
517	ナガボナツハゼ					県指	CR	EN	CR	

表 4-1-51(9) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
518	アカネ科	ナガバジュズネノキ						VU	EN	○
519		キクムグラ							NT	
520		ハナムグラ					VU	EN		
521		ルリミノキ							NT	○
522		ヒロハコンロンカ						N-II		
523		イナモリソウ						N-III		○
524		オオキスタソウ							EN	
525		リンドウ科	リンドウ							
526	コケリンドウ								VU	
527	ハルリンドウ									○
528	ホソバノツルリンドウ								VU	
529	センブリ									○
530	ムラサキセンブリ						NT	VU	VU	○
531	イヌセンブリ						NT	NT	NT	○
532	マチン科		ヒメナエ					VU	VU	CR
533	キョウチクトウ科	コイケマ							NT	
534		シタキシソウ							VU	○
535		キジョラン								○
536		クサタチバナ					NT	EN	CR	
537		フナバラソウ					NT	N-III	EN	○
538		クサナギオゴケ					VU	NT	NT	○
539		タチガシワ							CR	
540		スズサイコ					NT	NT		○
541	ヒルガオ科	マメダオン					EN	N-III	EX	
542	ナス科	ヤマホオズキ					VU	EN	VU	
543		アオホオズキ					VU	NT	VU	
544	ムラサキ科	ホタルカズラ							EN	
545		ムラサキ					EN	EN	EX	○
546		ミズタバコ							NT	
547	モクセイ科	ミヤマアオダモ							VU	
548		トネリコ						N-I	EN	
549		ハシドイ						VU	NT	
550	イワタバコ科	シンラン					VU	EN		
551	オオバコ科	マルバノサワトウガラシ					NT	EN	NT	○
552		オオアブノメ					VU	VU	VU	○
553		トウオオバコ							EN	
554		ハマクワガタ					NT	N-III		
555		イヌノフグリ					NT	NT		○
556		カワヂシャ					NT			
557		ゴマノハグサ科	ヒナノウスツボ							NT
558	サツキヒナノウスツボ							N-I		
559	シソ科	タチキランソウ					NT	NT		○
560		タニジャコウソウ					NT		EN	
561		ジャコウソウ							VU	
562		アシタカジャコウソウ						N-III	EN	
563		セキヤノアキチョウジ								○
564		オドリコソウ								○
565		キセワタ					VU	EN	CR	
566		マネキグサ					NT	NT		○
567		ラショウモンカズラ						VU		
568		ヤマジソ					NT	VU	VU	○
569		ミズネコノオ					NT	EN	VU	○
570		ミズトラノオ					VU	EN	VU	○
571		シマジタムラソウ					VU	VU	NT	○
572		ミゾコウジュ					NT	NT		○
573		ヤマジノタツナミソウ						VU		
574		ヒメナミキ						VU	NT	○
575		コバノタツナミ								○
576		シソバタツナミ						N-III		
577		ホナガタツナミソウ								○
578	イブキジャコウソウ							CR		
579	カリガネソウ						NT		○	
580	ハエドクソウ科	スズメノハコベ					NT	VU	NT	○

表 4-1-51(10) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準									
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
581	ハマウツボ科	オオナンバンギセル								EX		
582		ゴマクサ					NT	EN	VU		○	
583		イズコゴメグサ					EN	VU	EX		○	
584		シコクママコナ									○	
585		クチナシグサ								NT	○	
586		ハマウツボ					VU	VU	CR		○	
587		ミカワシオガマ					VU	EX	EN			
588		シオガマギク								EN		
589		キヨシミウツボ						N-III	VU			
590		センリゴマ					CR					
591		ヒキヨモギ						N-III	NT			
592		オオヒキヨモギ					NT	NT			○	
593		タヌキモ科	ノタヌキモ					VU	VU	VU		○
594			イヌタヌキモ					NT	VU			
595	ミミカキグサ										○	
596	ホザキノミミカキグサ										○	
597	フサタヌキモ						VU	CR	EX		○	
598	ミカワタヌキモ						EN	EN	CR		○	
599	タヌキモ						NT	VU				
600	ヒメタヌキモ						NT	EN	EN		○	
601	ヒメミミカキグサ						CR	EN	EN		○	
602	ムラサキミミカキグサ						NT	VU	NT		○	
603	モチノキ科	ナナミノキ								VU		
604	キキョウ科	ソバナ								NT		
605		イワシヤジン						N-III	EN			
606		シデシヤジン						N-III			○	
607		ツルギキョウ					VU	VU			○	
608		シブカワニンジン						N-II				
609		バアソブ					VU	VU	EX		○	
610		サワギキョウ							NT		○	
611		キキョウ					NT	VU	VU		○	
612	ミツガシワ科	ミツガシワ						N-II	EX			
613		ヒメシロアサザ					VU	EN	EN		○	
614		ガガブタ					NT	VU	NT		○	
615	アサザ					NT	NT	EN				
616	キク科	エンシュウハグマ									○	
617		トダイハハコ					VU	VU				
618		ヒメヨモギ								CR		
619		ヒメシオン								EN		
620		ヤマジノギク								CR	○	
621		ヤナギノギク					VU	VU	VU			
622		シブカワシロギク					EN	VU			○	
623		オオガンクビソウ								EN		
624		イソギク								CR	○	
625		アワコガネギク					NT					
626		イナベアザミ					CR	DD				
627		フジアザミ								EX		
628		ワタムキアザミ					EN	NT				
629		イズハハコ					NT	NT	VU		○	
630		フジバカマ					NT	VU	EN			
631		スイラン									○	
632		ミズギク						N-III	NT		○	
633		カセンソウ								EN		
634		ホソバニガナ					EN	VU				
635		クモマニガナ						VU				
636		ドロニガナ					NT	DD				
637		タカサゴソウ					VU	VU				
638		ノニガナ						N-III				
639		カワラニガナ					NT	NT				
640		ミコシギク					EN	CR	CR		○	
641		オタカラコウ									○	
642		ハンカイソウ									○	
643	ネコノシタ								NT	○		
644	オオモミジガサ								VU			
645	ミヤマコウモリソウ					EN			VU			

表 4-1-51(11) 文献により確認された植物の重要な種

No.	科名	種名	重要な種の選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
646	(キク科)	オクヤマコウモリ								EN
647		ヤマタイミンガサ								VU
648		アキノハハコグサ					EN	VU	EN	
649		ホクチアザミ						N-II	EN	
650		ミヤコアザミ							EN	
651		ネコヤマヒゴタイ					EN	EN		○
652		ヒメヒゴタイ					VU	EN	EX	○
653		ヤハズトウヒレン						VU		
654		キクアザミ							EN	
655		アオヤギバナ							VU	
656		サワオグルマ								○
657		タカネコウリンカ					NT	NT		
658		ウラギク					NT	VU	VU	○
659		オナモミ					VU	N-III	CR	
660		セリ科	イワニンジン							VU
661	ミシマサイコ						VU	VU	EN	○
662	ホタルサイコ								EX	
663	ドクゼリ							N-I		○
664	ハマボウフウ									○
665	ホソバハナウド						CR	VU		
666	イブキボウフウ								VU	
667	カラボウフウ							N-I		
668	フキヤミツバ						EN	EN	CR	○
669	ヌマゼリ						NT		EX	○
670	ガマズミ科	レンブクソウ						N-III		
671		ミヤマシグレ							EN	
672	スイカズラ科	ベニバナノツクバネウツギ							NT	
673		ナベナ						N-III	VU	
674		キダチニンドウ							VU	○
675		ニッコウヒョウタンボク						VU		
676		ヤマヒョウタンボク						N-III		○
677		キンレイカ							DD	
678		マツムシソウ							NT	○
679		イワツクバネウツギ					VU	EN	EN	
合計	130科	679種	0種	1種	1種	5種	257種	416種	406種	266種

注1) 種名及び配列は主に「令和6年版河川水辺の国勢調査のための生物リスト」(国土交通省、令和6年)に準拠しました。

注2) 重要な種の選定基準の根拠資料番号は表4-1-50に示すとおりです。

## 4) 重要な植物群落等

## ① 特定植物群落

「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)、「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)及び「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)によると、調査区域では、特定植物群落として表4-1-52に示すとおり、浜松市で「尾奈のマンサク群落」等の2件、湖西市で「多米峠の照葉樹林」の1件が確認されています。確認位置は図4-1-25に示すとおりです。

事業実施区域においては、特定植物群落は存在しません。

表4-1-52 特定植物群落

No.	市	調査回	名称	選定基準	相観区分	面積(ha)
1	浜松市	2	尾奈のマンサク群落	C, H	個体群	0.5
2		2	本坂峠の照葉樹林	A	暖温帯常緑広葉高木林	10.0
3	湖西市	3	多米峠の照葉樹林	E	暖温帯常緑広葉高木林	7.0

注1) 選定基準は以下のとおりです。

A: 原生林もしくはそれに近い自然林

B: 国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群

C: 比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群

D: 砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの

E: 郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの

F: 過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの

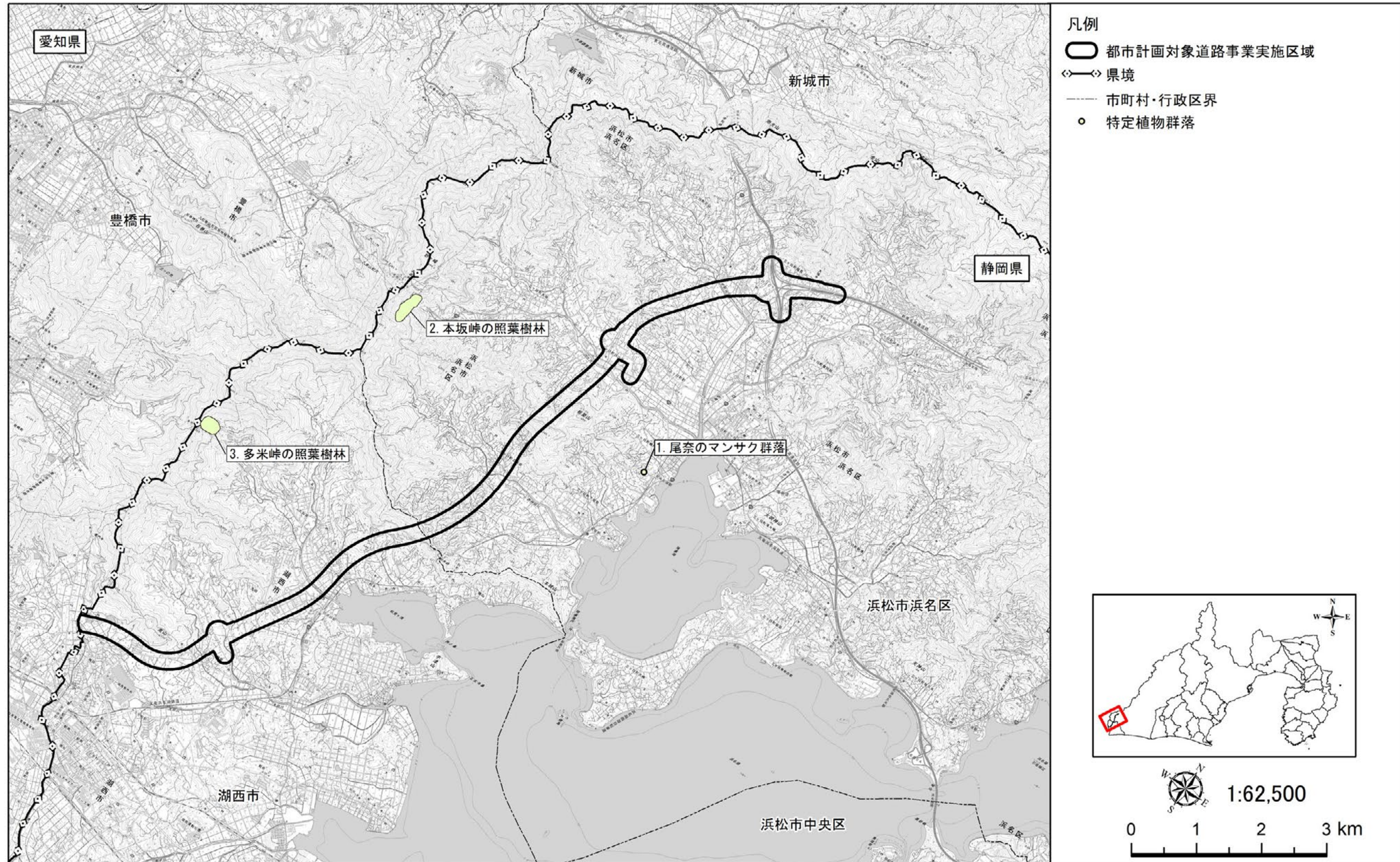
G: 乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群

H: その他、学術上重要な植物群落又は個体群

出典) 「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)

「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)

「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)



出典) 「第2回自然環境保全基礎調査日本の重要な植物群落の分布」(昭和57年、環境庁)  
 「第3回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成元年、環境庁)  
 「第5回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書」(平成12年、環境庁)

図 4-1-25 特定植物群落

## ② 巨樹・巨木林

「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成7年、環境庁)、「第6回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成13年3月、環境省自然環境局生物多様性センター)によると、調査区域では、巨樹・巨木林として表4-1-53に示します22件が確認されています。確認位置は図4-1-26に示すとおりです。

事業実施区域においては、巨樹・巨木林は存在しません。

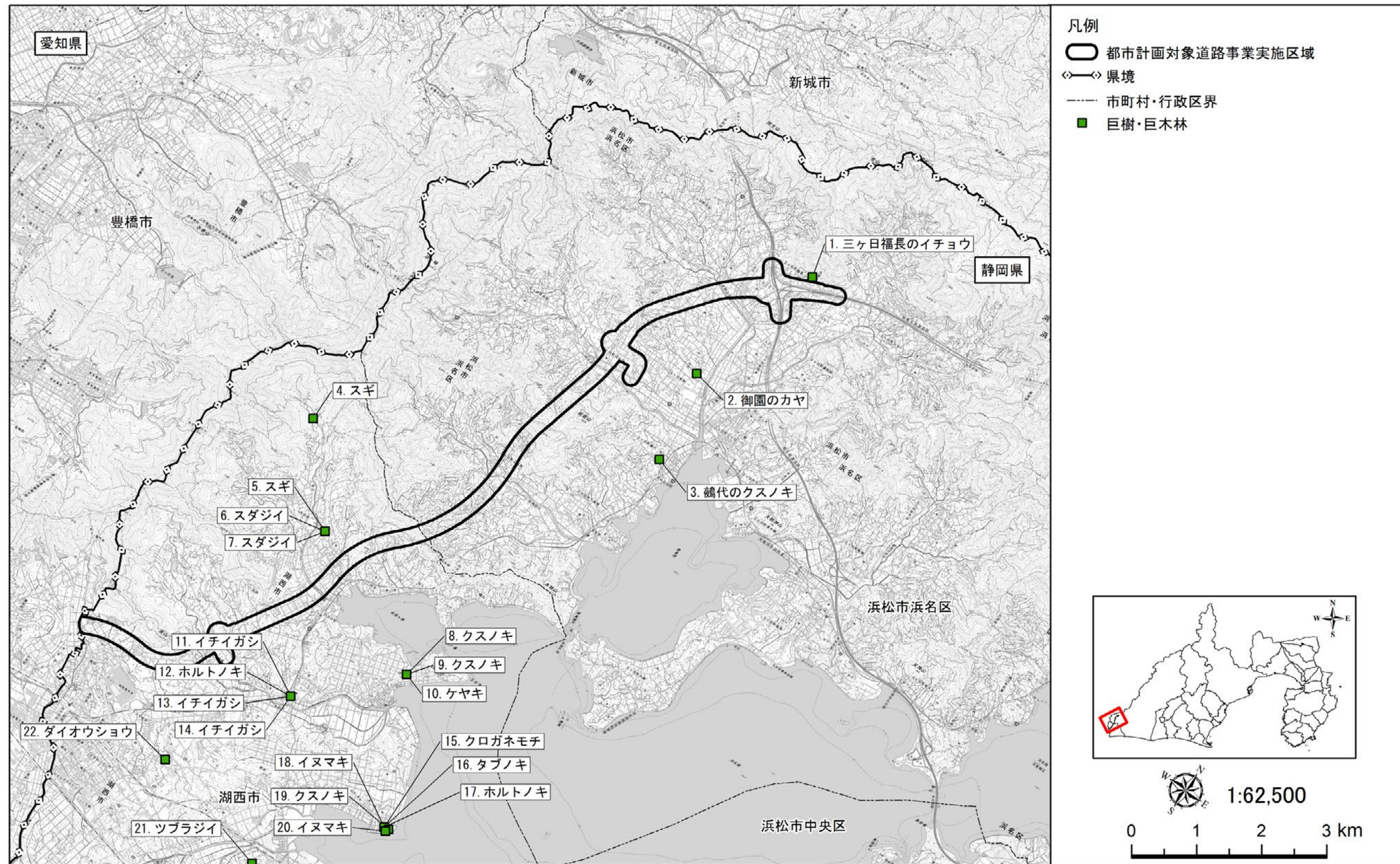
表4-1-53 巨樹・巨木林

No.	所在地	名称	樹種	幹周 (cm)	樹高 (m)
1	浜松市	三ヶ日福長	イチヨウ	360	35
2		御園	カヤ	440	15
3		鶴代	クスノキ	440	40
4	湖西市	-	スギ	430	20
5		-	スギ	355	15
6		-	スダジイ	349	15
7		-	スダジイ	370	15
8		-	クスノキ	390	17
9		-	クスノキ	409	15
10		-	ケヤキ	320	13
11		-	イチイガシ	319	15
12		-	ホルトノキ	300	13
13		-	イチイガシ	319	10
14		-	イチイガシ	326	13
15		-	クロガネモチ	320	15
16		-	タブノキ	334	15
17		-	ホルトノキ	326	15
18		-	イヌマキ	317	15
19		-	クスノキ	330	15
20		-	イヌマキ	300	18
21		-	ツブラジイ	365	13
22		-	ダイオウショウ	202	17

注1) 地点番号は図4-1-26に対応します。

出典) 「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成7年、環境庁)

「第6回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成13年3月、環境省自然環境局生物多様性センター)



出典) 「第4回自然環境保全基礎調査自然環境情報図」(平成7年、環境庁)  
 「第6回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」(平成13年3月、環境省自然環境局生物多様性センター)

図 4-1-26 巨樹・巨木林位置図

## ③ 文化財指定されている樹木等(天然記念物)

調査区域では、天然記念物(植物)として表4-1-54に示します3件が確認されています。確認位置は図4-1-27に示すとおりです。

事業実施区域においては、天然記念物は存在しません。

表4-1-54 植物に係る天然記念物

No	市	指定	名称	所在地	指定年月日
1	浜松市	県	鶴代のマンサク群落	浜松市浜名区三ヶ日町鶴代	昭和46年8月3日
2		市	玉洞寺のサザンカ	浜松市浜名区三ヶ日町上尾奈589	平成8年4月19日
3	湖西市	県	トキワマンサク北限群生地	湖西市神座242	昭和52年12月20日

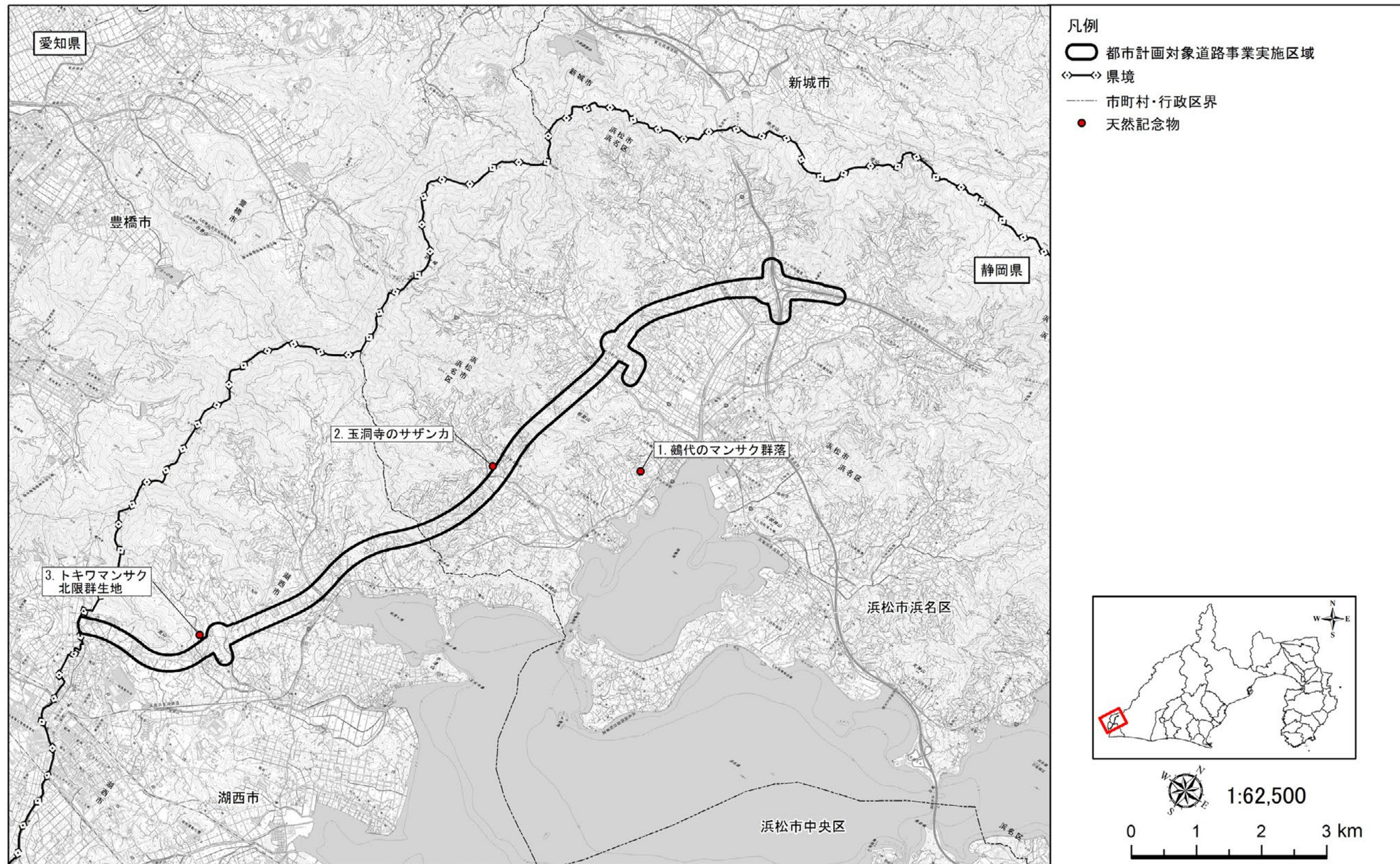
注1) 地点番号は図4-1-27に対応します。

出典) 「浜松市文化財分布図(改訂版)」(令和7年3月、浜松市)

「文化財一覧」(湖西市ホームページ)

「湖西市文化財案内マップ」(湖西市教育委員会)

「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)



出典) 「はままつ文化財」(浜松市ホームページ)、「浜松市文化財分布図(改訂版)」(令和7年3月、浜松市)、  
 「湖西市文化財案内マップ」(湖西市教育委員会)、「しずおか文化財ナビ」(静岡県ホームページ)

図 4-1-27 文化財指定されている樹木・生育地等(天然記念物)位置図

## (4) 生態系の状況

## 1) 自然環境の類型化

事業実施区域及びその周囲は、奥浜名湖をとりまく山地・丘陵地となっており、果樹園や植林地、二次林等が広がっています。

事業実施区域周辺の植生や土地利用の現況を踏まえた自然環境区分を表4-1-55のとおり類型化しました。自然環境類型区分図を図4-1-28に、代表的な箇所における自然環境類型区分の横断模式図を図4-1-29に示します。

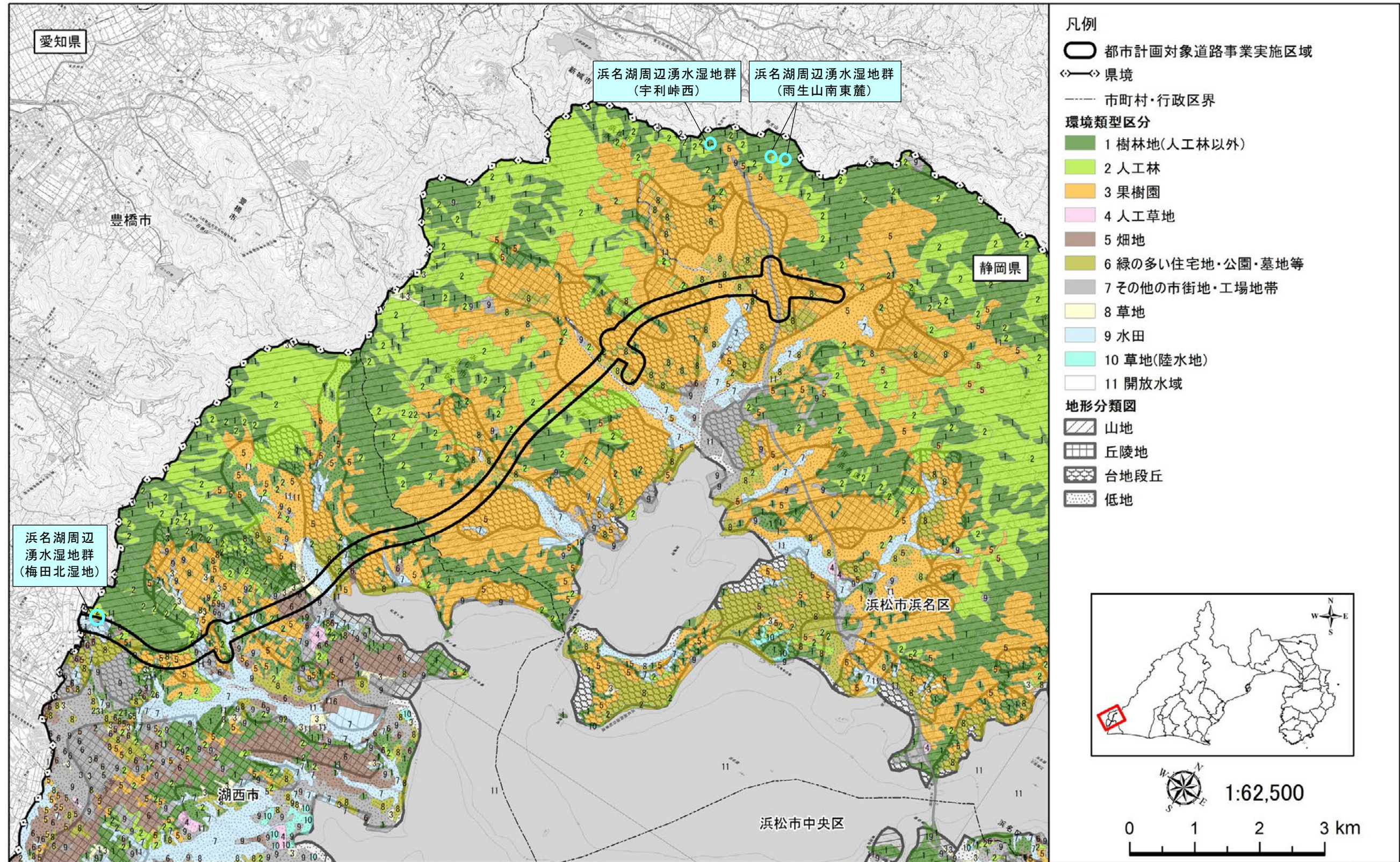
地形については、静岡県と愛知県の県境付近の弓張山地一帯の「山地」、その周囲の山裾に広がる「丘陵地」、「台地段丘」、浜名湖に注ぐ河川周辺の「低地」の4つに区分されます。

植生については、弓張山地を中心に樹林地（人工林以外）、人工林、果樹園等が主に見られ、河川周辺には畑地、草地、水田等が、浜名湖湖岸や調査区域南側の湖西市では、その他の市街地・工場地帯が見られます。

なお、地形区分や植生区分には表れない小規模な環境ですが、弓張山地の中腹から山麓の樹林地において、浜名湖周辺湧水湿地群に該当する小規模な湧水湿地（梅田北湿地、宇利峠西、雨生山南東麓）が分布しています（図4-1-28）。

表 4-1-55 自然環境の類型区分の概況

No	地形区分	植生の類型区分	植生区分
1	山地	樹林地（人工林以外）	ミミズバイースダジイ群集 シイ・カシ二次林 タブノキヤブニッケイ二次林 コナラ群落（Ⅶ） アカメガシワカラスザンショウ群落 アカマツ群落（Ⅶ） 低木群落 ヒロハドウダンツツジアカマツ群落 など
2		人工林	スギ・ヒノキ・サワラ植林 クスノキ植林 など
3		果樹園	果樹園 常緑果樹園
4		人工草地	ゴルフ場・芝地 牧草地
5	丘陵地	畑地	畑雑草群落 放棄畑雑草群落
6	台地段丘	緑の多い住宅地・公園・墓地等	緑の多い住宅地 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等
7	低地	その他の市街地・工場地帯	市街地 工場地帯 造成地
8		草地	ススキ群団（Ⅶ） 路傍・空地雑草群落 など
9		水田	水田雑草群落 放棄水田雑草群落
10	-	草地（陸水域）	ヨシクラス など
11	-	開放水域	開放水域



注1) 「第6回自然環境保全基礎調査植生調査」、「第7回自然環境保全基礎調査植生調査」(環境省自然環境局生物多様性センターホームページ)及び「20万分の1都道府県土地分類基本調査 地形分類図」(国土交通省国土政策局国土情報課 GIS ホームページ)を基に作成しました。

図 4-1-28 自然環境類型区分

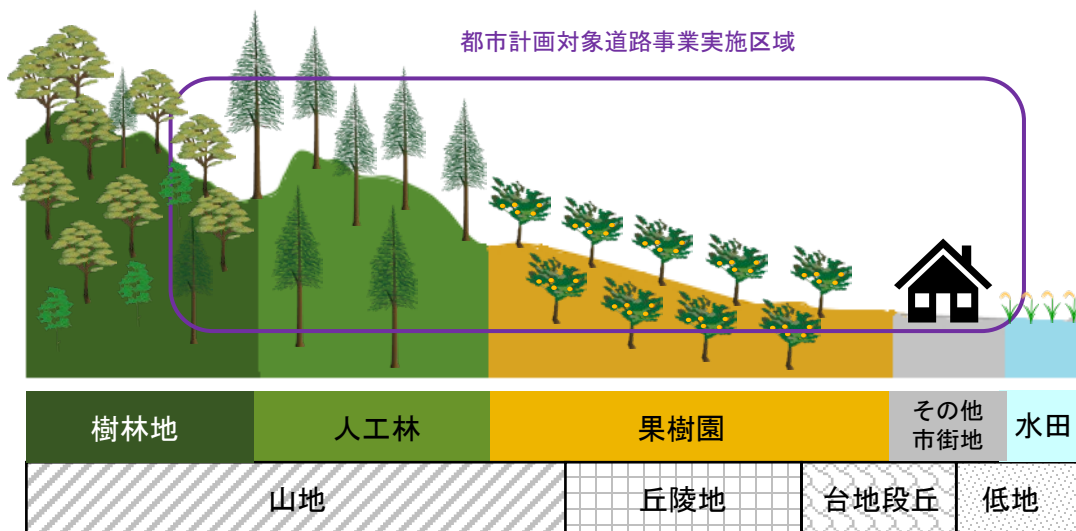


図 4-1-29 自然環境類型区分の横断模式図

## 2) 生態系エリア

自然環境類型区分図と地形を参考に、調査区域における生態系エリアを表4-1-56のとおり区分しました。生態系エリア区分図を図4-1-30に示します。

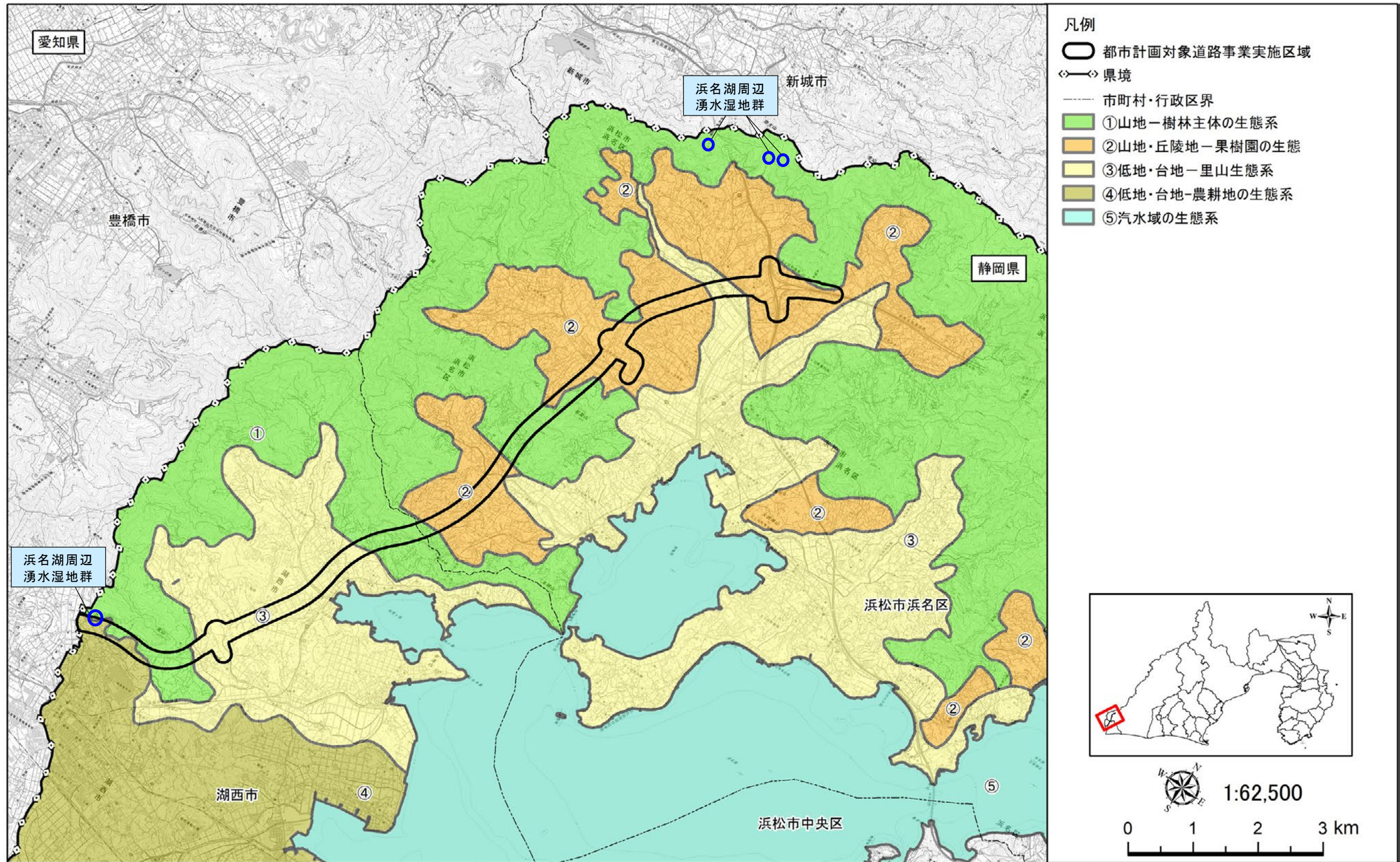
生態系区分は、静岡県・愛知県県境の弓張山地一帯を中心とした「山地－樹林主体の生態系」、弓張山地山麓から丘陵地に広がる果樹園を中心とした「山地・丘陵地－果樹園の生態系」、河川周辺の水田を中心とした「低地・台地－里山の生態系」、湖西市南部の台地段丘を中心とした「低地・台地－農耕地の生態系」及び浜名湖を中心とした「汽水域の生態系」の5区分となりました。

なお、「山地－樹林主体の生態系」には、浜名湖周辺湧水湿地群に該当する小規模な湧水湿地（梅田北湿地、宇利峠西、雨生山南東麓）が含まれます。

これらのうち事業実施区域が通過する4つの生態系エリアについて、注目すべき種を抽出することとしました。

表 4-1-56 生態系エリアの区分の概況

No	生態系区分	注目種の選定対象
①	山地－樹林主体の生態系	○
②	山地・丘陵地－果樹園の生態系	○
③	低地・台地－里山の生態系	○
④	低地・台地－農耕地の生態系	○
⑤	汽水域の生態系	×



### 3) 主な動物相・植物相の状況

自然環境の生態系区分を基に、調査区域に生息又は生育が想定される代表的な動植物を表4-1-57に示します。

なお、環境影響評価方法書に対する静岡県知事意見を受け、方法書から代表的な動植物を見直すにあたり、浜名湖周辺湧水湿地群に該当する小規模な湧水湿地（梅田北湿地等）が分布していることを考慮して、山地－樹林主体の生態系の生息・生育基盤に「浜名湖湧水湿地群」を追加しました。その上で、文献情報をもとに検討し、当該湿地で生息・生育が想定される湿地性の種を追加しました。

表 4-1-57 自然環境の類型区分と生息・生育が想定される動植物

生態系区分	主な生息・生育基盤	主な動物種	主な植物種
山地－樹林主体の生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シイ・カシ二次林</li> <li>・コナラ群落 (VII)</li> <li>・アカマツ群落 (VII)</li> </ul>	アズマモグラ、ニホンリス、ノウサギ、ヒメネズミ、 <u>アカネズミ</u> 、 <u>タヌキ</u> 、 <u>キツネ</u> 、 <u>アナグマ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>イノシシ</u> 、 <u>ニホンジカ</u> 、 <u>カモシカ</u> 、 <u>オオタカ</u> 、 <u>ノスリ</u> 、 <u>ハチクマ</u> 、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジュウカラ</u> 、 <u>サンコウチョウ</u> 、 <u>オオルリ</u> 、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、 <u>タカチホヘビ</u> 、 <u>ジムグリ</u> 、 <u>シロマダラ</u> 、 <u>アカハライモリ</u> 、 <u>アズマヒキガエル</u> 、 <u>ネバタゴガエル</u> 、 <u>ヤマアカガエル</u> 、 <u>トウカイナガレホトケドジョウ</u> 、 <u>カジカ</u> 、 <u>オニヤンマ</u> 、 <u>エゾゼミ</u> 、 <u>アブラゼミ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>ジャノメチョウ</u> 、 <u>コムラサキ</u> 、 <u>ミスジチョウ</u> 、 <u>ウラゴマダラシジミ</u> 、 <u>カブトムシ</u> 、 <u>ノコギリクワガタ</u> 、 <u>コガネグモ</u> 、 <u>キノボリトタテグモ</u> 、 <u>ヤマキサゴ</u> 、 <u>ヤマタニシ</u>	タブノキ、スダジイ、コナラ、ヒサカキ、モミ、アカマツ、スギ、ヒノキ、キンラン、ヒメカンアオイ、ウツギ、ガマズミ、ヤマハッカ、ヤマツツジ、ヤマウルシ
	・浜名湖周辺湧水湿地群	アカハライモリ、アズマヒキガエル、ホトケドジョウ、ミドリシジミ、ヒメヒカゲ、サラサヤンマ、ムカシヤンマ、ハラビロトンボ、 <u>ハッチョウトンボ</u> 、 <u>ヒメタイコウチ</u>	シラタマホシクサ、ヌマガヤ、 <u>トウカイコモウセンゴケ</u> 、サワヒヨドリ
山地・丘陵地－果樹園の生態系	・果樹園	アズマモグラ、ノウサギ、アカネズミ、 <u>ハタネズミ</u> 、 <u>タヌキ</u> 、 <u>キツネ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>イノシシ</u> 、 <u>オオタカ</u> 、 <u>フクロウ</u> 、 <u>コゲラ</u> 、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジュウカラ</u> 、 <u>モズ</u> 、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、 <u>シマヘビ</u> 、 <u>アオダイショウ</u> 、 <u>ヤマカガシ</u> 、 <u>アズマヒキガエル</u> 、 <u>ニホンアマガエル</u> 、 <u>オイカワ</u> 、 <u>カワムツ</u> 、 <u>シマヨシノボリ</u> 、 <u>アブラゼミ</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>カラスアゲハ</u> 、 <u>サトキマダラヒカゲ</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、 <u>クロスズメバチ</u> 、 <u>オニグモ</u> 、 <u>ゴミグモ</u> 、 <u>ナミコギセル</u> 、 <u>ニッポンマイマイ</u>	ミカン、サンショウ、モウソウチク、カヤ、スギ、ヒノキ、ヤマノイモ、ヒガンバナ、フキ、タラノキ、ノアザミ
低地・台地－里山の生態系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水田雑草群落</li> <li>・畑雑草群落</li> <li>・緑の多い住宅地</li> </ul>	アズマモグラ、 <u>ハタネズミ</u> 、 <u>タヌキ</u> 、 <u>キツネ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>オオタカ</u> 、 <u>ゴイサギ</u> 、 <u>チュウサギ</u> 、 <u>ダイサギ</u> 、 <u>アオサギ</u> 、 <u>コサギ</u> 、 <u>カルガモ</u> 、 <u>ヤマガラ</u> 、 <u>シジュウカラ</u> 、 <u>スズメ</u> 、 <u>ムクドリ</u> 、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、 <u>アオダイショウ</u> 、 <u>シマヘビ</u> 、 <u>アズマヒキガエル</u> 、 <u>ニホンアマガエル</u> 、 <u>トノサマガエル</u> 、 <u>ヌマガエル</u> 、 <u>オイカワ</u> 、 <u>カワムツ</u> 、 <u>ウナギ</u> 、 <u>マハゼ</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>ゲンジボタル</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、 <u>オオカマキリ</u> 、 <u>アオマツムシ</u> 、 <u>ショウリョウバッタ</u> 、 <u>ツチイナゴ</u> 、 <u>ウラナミジャノメ</u> 、 <u>ヤマトシジミ</u> 、 <u>スジグロシロチョウ</u> 、 <u>キアシナガバチ</u> 、 <u>ジグモ</u> 、 <u>オニグモ</u> 、 <u>オオタニシ</u> 、 <u>イシガイ類</u> 、 <u>カワニナ</u>	ミクリ、ミズオオバコ、ジユズダマ、シナダレスズメガヤ、ヤブカラシ、クズ、コナギ、イタドリ、ツユクサ、ヒルガオ、セイヨウタンポポ
		アズマモグラ、 <u>ハタネズミ</u> 、 <u>タヌキ</u> 、 <u>キツネ</u> 、 <u>テン</u> 、 <u>オオタカ</u> 、 <u>チュウサギ</u> 、 <u>ダイサギ</u> 、 <u>アオサギ</u> 、 <u>コサギ</u> 、 <u>カルガモ</u> 、 <u>スズメ</u> 、 <u>ムクドリ</u> 、 <u>ホオジロ</u> 、 <u>ニホンカナヘビ</u> 、 <u>ヒガシニホントカゲ</u> 、 <u>アオダイショウ</u> 、 <u>ニホンアマガエル</u> 、 <u>オイカワ</u> 、 <u>マハゼ</u> 、 <u>トノサマガエル</u> 、 <u>アゲハ</u> 、 <u>モンキアゲハ</u> 、 <u>イチモンジセセリ</u> 、 <u>シオカラトンボ</u> 、 <u>オオカマキリ</u> 、 <u>アオマツムシ</u> 、 <u>ショウリョウバッタ</u> 、 <u>ツチイナゴ</u> 、 <u>ジグモ</u> 、 <u>オニグモ</u> 、 <u>オオタニシ</u>	ヤブカラシ、クズ、コナギ、イタドリ、ツユクサ、ヒルガオ、セイヨウタンポポ
汽水域の生態系	・開放水面	マガモ、カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、ニホンウナギ、オイカワ、ボラ、スズキ、マハゼ、ヒメハゼ、ヒヌマイトトンボ、イボキサゴ、ウミニナ、ムラサキイガイ、モクズガニ、ヤマトオサガニ	シバナ、コアマモ、アマモ、シオクグ、マコモ、ウラギク

注1) 下線は注目すべき種・群集を示します。

## 4) 注目すべき種・群集の候補の抽出

調査区域に生息・生育すると想定される動植物のうち上位性、典型性、特殊性の視点から注目される動植物の種または生物群集（以下、「注目種・群集」とします。）を抽出しました。

注目種・群集の抽出視点は、表 4-1-58 に示すとおりです。

自然環境の類型区分に従って選定した注目種を表 4-1-59 に示します。

なお、「山地－樹林主体の生態系」の浜名湖周辺湧水湿地群においては、限られた環境である湿地に生息・生育する種を特殊性として位置づけ、専門家等からの助言を踏まえた上で、当該湿地に特有の種として湧水湿地に生息する昆虫類のヒメタイコウチ、ハッチョウトンボ、東海丘陵要素植物のシラタマホシクサ、トウカイコモウセンゴケの4種を抽出しました。

また、環境影響評価方法書に対する静岡県知事意見において、「動物の調査に当たっては、(中略) 必要に応じ第二種特定鳥獣管理計画等を参考にし、対象種の追加、調査の地点及び時期を検討し実施すること」との指摘がなされています。このため、静岡県において第二種特定鳥獣管理計画に基づく管理対象種であるニホンジカ、イノシシについても典型性の注目種に位置付け、調査・予測評価の対象としました（カモシカも第二種特定鳥獣管理計画の対象ですが、重要な種として調査・予測評価を実施することから除外しています）。

表 4-1-58 注目種・群集の抽出視点

抽出基準	注目種・群集の抽出視点
上位性	生態系の上位に位置する動物が対象となります。 上位性の視点から抽出される指標種・群集の例として、ワシ・タカ等の猛禽類やキツネ、ツキノワグマ等の中・大型哺乳類等があげられます。
典型性	生態系の特徴を典型的に表す種が対象となります。 調査区域に優占する植物種または植物群落、それらを捕食する動物（一次消費者程度）、個体数が多い動物などが対象となります。
特殊性	生態系において特殊な環境であることを示します指標となる種が対象となります。 相対的に分布範囲が狭い環境、または質的に特殊な環境に生息・生育する動植物が対象となります。

表 4-1-59 地域の注目種・群集

No	区分	分類	種群・種名	生態系区分					
				山地 ↓ 樹林主体	湧水湿地群 浜名湖周辺	山地・丘陵地 ↓ 果樹園	低地・台地 ↓ 里山	低地・台地 ↓ 農耕地の生態系	
1	上位性	哺乳類	キツネ	●		●	●	●	
2			テン	●		●	●	●	
3		鳥類	オオタカ	●		●	●	●	
4			サギ類	ダイサギ				●	●
5				アオサギ					
6	典型性	哺乳類	アカネズミ	●					
7			タヌキ	●		●	●	●	
8			ハタネズミ			●	●	●	
9			ニホンジカ	●					
10			イノシシ	●		●	●		
11		鳥類	カラ類	ヤマガラ	●		●	●	
12				シジュウカラ					
13			カルガモ				●	●	
14		ホオジロ	●		●	●	●		
15		両生類	ニホンアマガエル				●	●	
16		爬虫類	ニホンカナヘビ			●	●	●	
17			ヒガシニホントカゲ			●	●	●	
18		魚類	オイカワ				●	●	
19			マハゼ				●	●	
20		昆虫類	アゲハ			●	●	●	
21			モンキアゲハ	●		●	●	●	
22			イチモンジセセリ			●	●	●	
23			ゲンジボタル 成虫				●		
24			ゲンジボタル 幼虫						
25			シオカラトンボ 成虫			●	●	●	
26			シオカラトンボ 幼虫						
27			ノコギリクワガタ	●					
28			ウラゴマダラシジミ	●					
29		特殊性	昆虫類	ヒメタイコウチ		●			
30				ハッチョウトンボ		●			
31			植物	シラタマホシクサ		●			
32				トウカイコモウセンゴケ		●			

## 1.6. 景観及び人と自然との触れ合いの活動の状況

### (1) 景観の状況

#### 1) 地域の景観特性

浜松市から湖西市にかけて弓張山地が広がっており、弓張山地の東側には浜名湖の眺望が得られます。また、湖西市には遠州灘の眺望が得られます。浜松市、湖西市内には里山が広がり、起伏のある自然景観が見られます。

弓張山地、浜名湖、遠州灘等の自然景観が地域の景観特性を構成する要素となっています。

#### 2) 主要な眺望点及び景観資源

調査区域における主要な眺望点及び景観資源の分布状況は、表 4-1-60(1)～(2)及び図 4-1-31 に示すとおりです。

調査区域において、22 地点の眺望点及び 34 箇所の景観資源が確認されています。

表 4-1-60(1) 主要な眺望点及び景観資源

市	種別	No	名称	規定根拠
浜松市	眺望点	1	雨生山	C
		2	雨生山コース眺望点	C
		3	千頭峯城跡駐車場	E
		4	津島神社	E
		5	高山ふれあいの森展望台(みかんの丘景観展望所)	A
		6	奥浜名湖展望公園	C
		7	浜名湖佐久米駅	A
		8	浜名湖サービスエリア(恋人岬)	A
		9	沖の瀬御殿	A
		10	JA三ヶ日ふれあい広場	E
		11	乎那の峯	A, E
		12	白山神社	E
		13	富士見岩	C
	景観資源	14	みかん畑	d
		15	開墾記念碑	d
		16	共開園記念碑	d
		17	大福寺庭園	a, d
		18	旧三ヶ日小学校大福寺分教場	d
		19	千頭峯城跡	d
		20	三ヶ日時計台	d
		21	摩訶耶寺庭園	a, d
		22	才の神宿場の景観	d
		23	奥平山振興会館	d
		24	山田弥右衛門家墓所	d
		25	三ヶ日のみかん樹園	d
		26	加藤権兵衛家墓所	d
		27	初生衣神社	d
		28	浜名惣社神明宮	d
		29	柑橘頌徳碑	d
		30	みかん工房(閉店 202205)	d
		31	浜松市立三ヶ日図書館とみかん畑	d
		32	三ヶ日町農協柑橘選果場	d
		33	三ヶ日町農協会館	d
		34	JAみっかび特産品直売所	d
		35	つづさき観光みかん直売所	d
		36	猪鼻湖	a, c
		37	寸座落雁	d
		38	館山秋月	d
		39	新穴	c
		40	開拓記念碑	d
		41	高平農園直売所	d
		42	マルウ外山農園	d
		43	みかん型観光トイレ	d
		44	カネカみかん狩り園	d
浜松市・湖西市	景観資源	45	浜名湖	a, c
		46	瀬戸夜雨	d

表 4-1-60(2) 主要な眺望点及び景観資源

市	種別	No	名称	規定根拠
湖西市	眺望点	47	宇津山城址	A
		48	大知波峠廃寺跡	C
		49	多米峠	B
		50	雨やどり岩	C
		51	神石山	C
		52	ラクダ岩	C
		53	仏岩	C
		54	神座古墳群	C
		55	嵩山	C
	景観資源	56	浜名湖西岸の船が並ぶ景観	d

注1) 地点番号は図4-1-31に対応します。

注2) 「主要な眺望点」とは、「不特定かつ多数のものが利用している景観資源を眺望する場所」を指し、以下を抽出の基準としています。

A：地形図及び地方公共団体等の観光便覧等の資料に展望地、展望台としてあげられているもの

B：地形図に記載されている峠で、眺望の良い場所

C：キャンプ場、ハイキングコース、自然歩道等の野外レクリエーション地で眺望の良い場所

D：観光道路（〇〇ライン等）上で眺望の良い場所

E：集落周辺の眺望の良い場所、寺社等地域に密接した眺望の良い場所

F：文化財保護法、条例で指定された自然的構成要素と一体をなす名勝のうち展望地点として指定されるもの

G：自治体への聞き取りによる眺望点

注3) 「主要な景観資源」は以下の抽出基準により抽出しました。

a：文化財保護法、条例で指定された自然的構成要素と一体をなす名勝

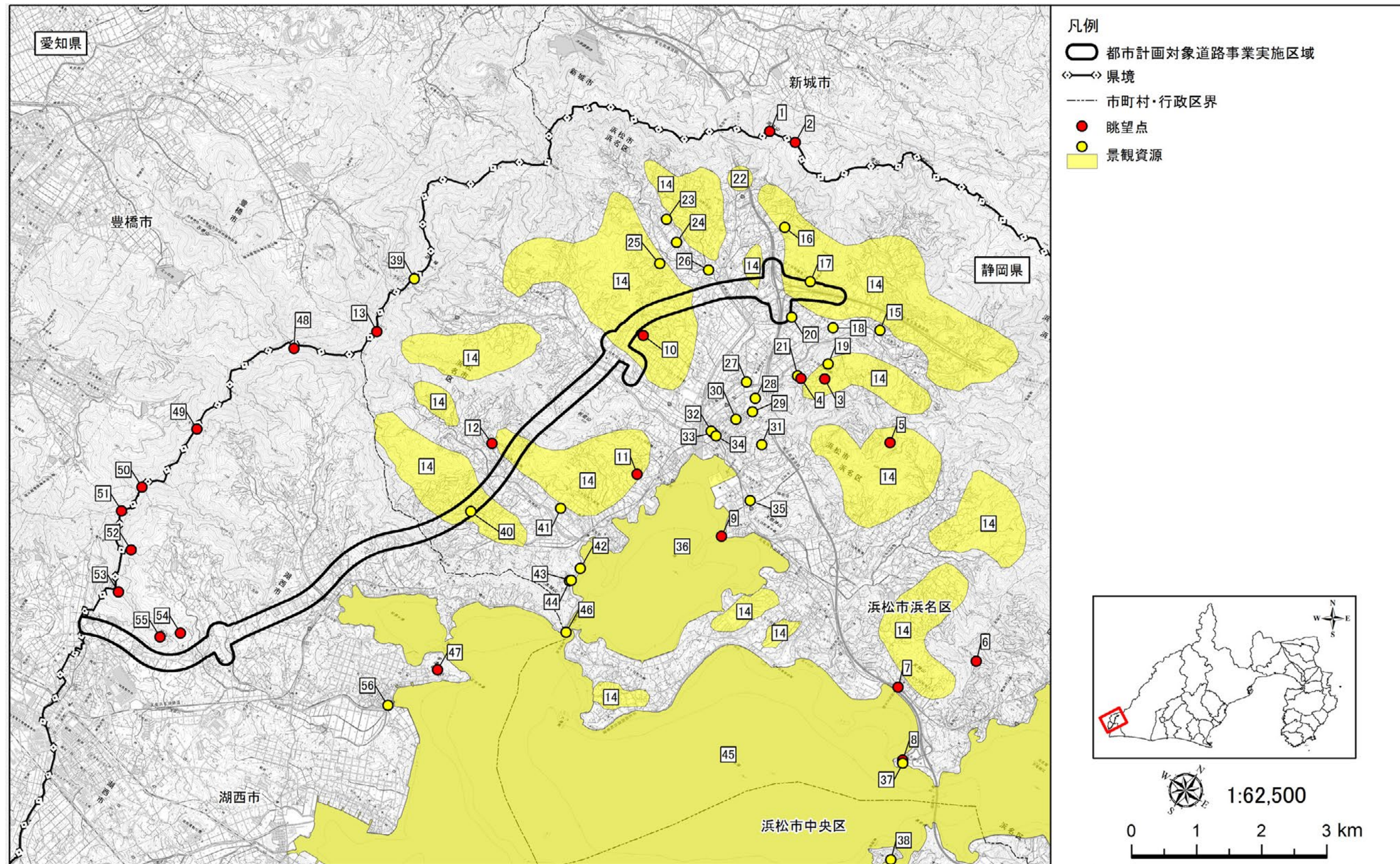
b：世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）で登録されている文化遺産及び自然遺産

c：「第3回自然環境保全基礎調査自然景観資源調査報告書」（環境庁）で選定されている景観資源

d：地方公共団体の条例で指定されている自然景観資源、市町村要覧・観光関連資料・地方公共団体により選定された景観100選等で記載されている自然景観資源

e：「文化財保護法」で選定された重要文化的景観を構成する自然景観資源

出典) 「雨生山ふしぎ発見コース」（新城市産業・立地部観光課）、「北区直虎ビューポイント」（浜松市ホームページ）、「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」（浜松市ホームページ）、「スポット 自然を浴びる・名所を訪ねる・歴史を感じる」（三ヶ日観光協会ホームページ）、「湖西連峰ハイキングマップ」（湖西・新居観光協会ホームページ）、「浜松市歴史的風致維持向上計画」（令和4年3月、浜松市）、「しずおか文化財ナビ 名勝」（静岡県ホームページ）、「令和5年度 浜松地域遺産（浜松市認定文化財）の概要（浜松市地域遺産センター・浜松市文化財課）」、「静岡県の文化財調査報告書 第72集「静岡県の文化的景観総合調査報告書」（静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課）、「第1回～第20回（昭和63年度～平成19年度）都市景観賞受賞地区」（静岡県ホームページ）、「遠江八景」（平成26年3月、静岡県文化・観光部 交流政策課）、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」（平成元年、環境庁）、「湖西市文化施設・観光施設（観光スポット）名所・旧跡（湖西市ホームページ）」、「観光スポット・施設」（湖西・新居観光協会ホームページ）、その他現地踏査により視対象の眺望が確認できた箇所



出典) 「雨生山ふしぎ発見コース」(新城市産業・立地部観光課)、「北区直虎ビューポイント」(浜松市ホームページ)、「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」(浜松市ホームページ)、「スポット 自然を浴びる・名所を訪ねる・歴史を感じる」(三ヶ日観光協会ホームページ)、「湖西連峰ハイキングマップ」(湖西・新居観光協会ホームページ)、「浜松市歴史的風致維持向上計画」(令和4年3月、浜松市)、「しずおか文化財ナビ 名勝」(静岡県ホームページ)、令和5年度 浜松地域遺産(浜松市認定文化財)の概要(浜松市地域遺産センター・浜松市文化財課)、静岡県の文化財調査報告書 第72集「静岡県の文化的景観総合調査報告書」(静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課)、「第1回～第20回(昭和63年度～平成19年度)都市景観賞受賞地区」(静岡県ホームページ)、「遠江八景」(平成26年3月、静岡県文化・観光部 交流政策課)、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図」(平成元年、環境庁)、湖西市文化施設・観光施設(観光スポット)名所・旧跡(湖西市ホームページ)、「観光スポット・施設」(湖西・新居観光協会ホームページ)、その他現地踏査により視対象の眺望が確認できた箇所

※ 事業実施区域内の眺望点・景観資源の名称

No.	名称
14	みかん畑
17	大福寺庭園
40	開拓記念碑

図 4-1-31 主要な眺望点及び景観資源位置図

## (2) 人と自然との触れ合いの活動の状況

調査区域の人と自然との触れ合いの活動の場は、表4-1-61(1)～(2)及び図4-1-32に示すとおりです。

調査区域において、20箇所の人と自然との触れ合いの活動の場が確認されています。

表 4-1-61(1) 人と自然との触れ合いの活動の場

No.	市	名称	概要
1	浜 松 市	奥浜名自然歩道 只木コース	奥浜名自然休養林内に整備されたハイキングコースの1つで、只木集落センター～富幕山までの約4.2kmのコース。コースの中間地点には浜松市指定史跡の幡教寺跡がある。富幕山は奥浜名自然休養林で一番高い山で、浜名湖や遠州灘、三河湾も眺望できる。富幕山では細江コースと合流している。
2		奥浜名自然歩道 細江コース	奥浜名自然休養林内に整備されたハイキングコースの1つで、細江公園～富幕山までの約4.7kmのコース。コースの途中にはおもかる大師や展望の優れた国民宿舎奥浜名湖、二三月峠等がある。尉ヶ峰から風越峠を経て、富幕山に到着する。尉ヶ峰では佐久米コースと合流している。
3		奥浜名自然歩道 佐久米コース	奥浜名自然休養林内に整備されたハイキングコースの1つで、天竜浜名湖鉄道浜名湖佐久米駅～尉ヶ峰までの約5.7kmのコース。コースの途中には浜名湖や遠州灘をはじめ、富士山、中央アルプス、伊豆半島、三河湾を望むことができる奥浜名湖展望公園や、東海道の脇街道である姫街道と交わる引佐峠、獅子落とし等の見所がある。尉ヶ峰では細江コースと合流している。
4		大谷不動滝	落差およそ6メートルの、二段に落ちる滝。傍の洞穴には不動明王が祀られている。
5		雨生山ふしぎ発 見コース	雨生山は愛知県新城市と静岡県浜松市の境に位置しており、誰にでも登れる一般・家族向きの登山コース。低山ながら、浜名湖方面と豊橋方面の眺望をほしいままにできる。
6		大福寺	仁王寺や裏山の斜面を利用し全面に池を配した廻遊式の庭園、10月から2月まで咲く半歳桜が見もの。
7		摩訶耶寺	保存されている不動明王像と千手観音像は、国の重要文化財に指定されている。寺の中にある庭園は日本の中世庭園を代表するもので、雄大な景色が楽しめる。
8		みかんの里農村 公園	基幹作物として地域を支え続けている「三ヶ日みかん」を来訪者にPRする施設であり、みかんの丘景観展望所からは、みかん園と浜名湖の景観を眺めることができる。三ヶ日のみかん園は「新・浜松の自然100選」に選定されている。
9		乎那の峯	マンサクの群落と三ヶ日桜、万葉の歌碑がある。マンサク群落は「新・浜松の自然100選」に選定されている。春になると桜が咲き、自然を楽しみながら運動することができる。
10		大崎海水浴場	浜名湖北岸に面した海水浴場。
11		本坂峠のツバキ 原生林	古道沿いに広がるヤブツバキ原生林です。樹齢200年を超えるものもあるといわれている。「新・浜松の自然100選」に選定されている。
12		浜名湖周遊自転車 道	自転車の利用増大に対処して、自転車交通の安全を確保し、あわせて“心身の健全な発達に資すること”を目的とし昭和48年度より日本各地において「大規模自転車道」の整備が始められた。浜名湖周遊自転車道は、浜松市三ヶ日町三ヶ日から同市舞阪町弁天島に至る全長48.0kmの区間を東岸ルートとしている。
13		ハマイチコース	浜名湖畔を一周する約67.1kmのサイクリング基本コース。浜名湖を眺めながらサイクリングができる。コース周辺にはサイクリングのサポートショップやレンタサイクルのほか、サイクリストを歓迎する宿泊施設や飲食店等が多数ある。
14		ハマイチ・バイ パスコース	浜名湖畔を一周する約51.1kmのサイクリングサブコース。湖の凹凸を一部ショートカットするコースであり、浜名湖のサイクリングコースで一番距離が短い。

表 4-1-61(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

No.	市	名称	概要
15	湖西市	ハマイチ・ブルーコース	浜名湖畔を一周する約71.1kmのサイクリングサブコース。基本コースであるハマイチコースよりも湖西市側の湖岸近くを回るコースである。
16		ハマイチ・グリーンコース	浜名湖から湖西市を大きく回る約82kmのサイクリングサブコース。高低差が105mと起伏のあるコースで、コース途中にある道の駅潮見坂からは遠州灘を望むことができる。
17		おちばの里親水公園	大知波登山口。サワガニやメダカが生息する今川上流部に位置し、澄み切った水が流れる親水公園として人気である。駐車場やトイレが整備され、ハイキングコースマップも設置されている。
18		湖西連峰ハイキングコース	湖西連峰は静岡県と愛知県の県境に南北に連なる低い山々で、ハイキングコースや浜名湖の好展望台として人気がある。コースの途中には嵩山、仏岩、ラクダ岩、雨宿り岩等の眺望点や、神座古墳群、大知波峠廃寺跡といった史跡、イヌツゲ群生林や不動の滝等の自然豊かな見所がある。愛知県側の自然歩道が多数合流している。
19		トキワマンサクロード	天竜浜名湖鉄道天浜線「大森駅」から県の天然記念物である「トキワマンサク北限群生地」までを結んだ散策コース。
20		梅田親水公園	梅田登山口近くにある、山・田園・水辺を楽しむことができる親水公園。ハイカーの駐車場としてだけでなく、池の周りがある散策路は地元住民の散歩コースとしても利用されている。

注1) 地点番号は図4-1-32に対応します。

出典) 「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」(浜松市ホームページ)

「スポット 自然を浴びる、歴史を感じる」(三ヶ日観光協会ホームページ)

「雨生山ふしぎ発見コース」(新城市ホームページ)

「浜松・浜名湖の旅サポートブック」(公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューローホームページ)

「奥浜名湖」(令和2年10月閲覧、農林水産省ホームページ)

「「新・浜松の自然100選」決定について」(一般財団法人 浜松公園緑地協会ホームページ)

「周辺の自然」(静岡県立森林公園ホームページ)

「ゆうゆうサイクリングマップ」(静岡県ホームページ)

「HAMAICHI PLUS」(公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューローホームページ)

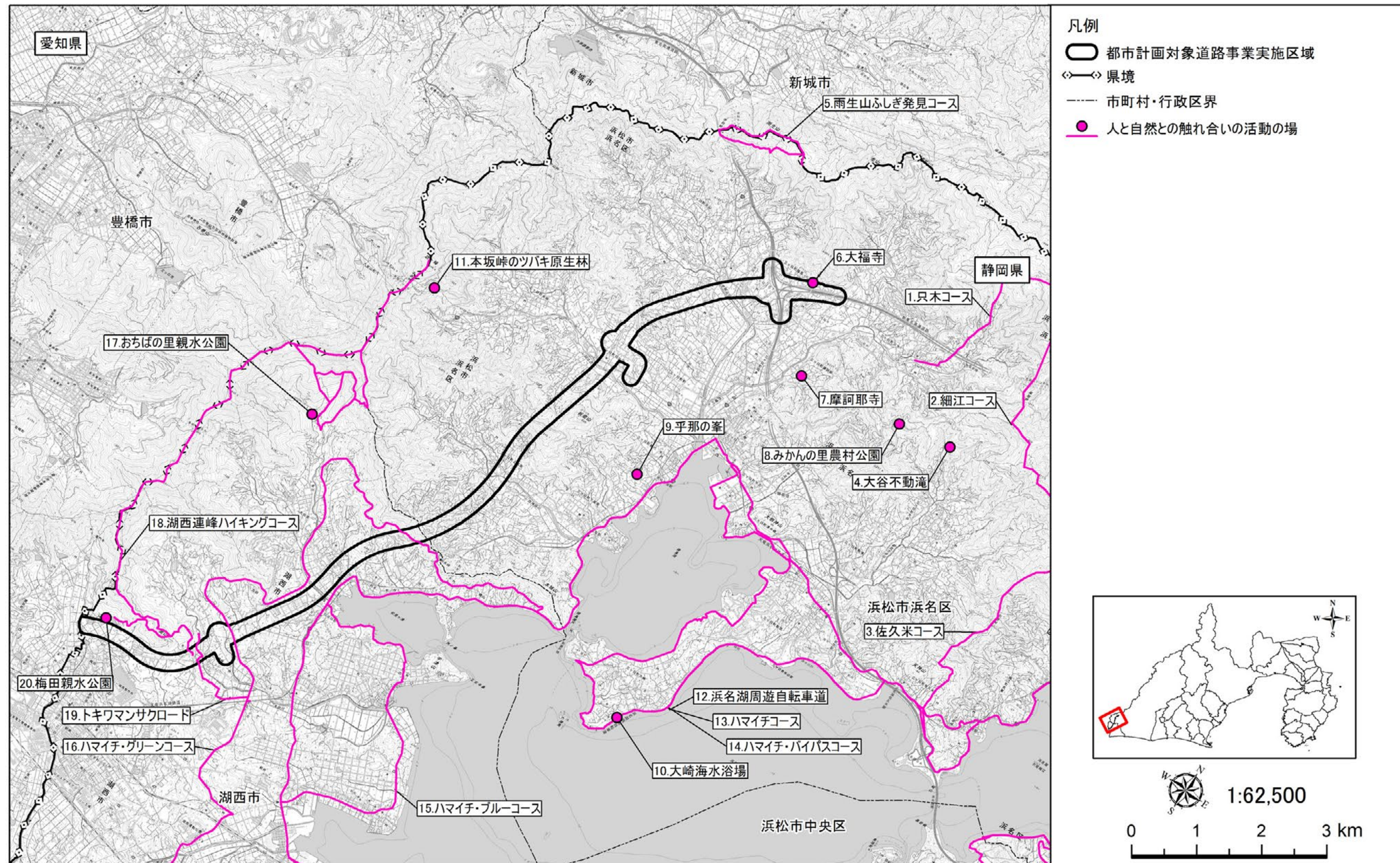
「湖西連峰ハイキングマップ」、「観光スポット・施設」(湖西・新居観光協会ホームページ)

「トキワマンサクロード駅周辺MAP」(大森駅前案内看板)

湖西市文化観光課聴き取り

## 1.7. 一般環境中の放射性物質の状況

調査区域において、放射性物質の測定は行われていません。



出典) 「奥浜名自然休養林 奥浜名自然歩道ハイキングガイド」(浜松市ホームページ)、「スポット 自然を浴びる、歴史を感じる」(三ヶ日観光協会ホームページ)、「雨生山ふしぎ発見コース」(新城市ホームページ)「浜松・浜名湖の旅サポートブック」(公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューローホームページ)、「奥浜名湖」(令和2年10月閲覧、農林水産省ホームページ)、「新・浜松の自然100選 決定について」(一般財団法人 浜松公園緑地協会ホームページ)、「周辺の自然」(静岡県立森林公園ホームページ)、「ゆうゆうサイクリングマップ」(静岡県ホームページ)、「HAMAICHI PLUS」(公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューローホームページ)、「湖西連峰ハイキングマップ」、「観光スポット・施設」(湖西・新居観光協会ホームページ)、「トキワマンサクロード 駅周辺 MAP」(大森駅前案内看板)、湖西市文化観光課聴き取り

図 4-1-32 人と自然との触れ合いの活動の場位置図